えびの市埋蔵文化財調査報告書　第41集

東川北地区遺跡群

県営経営体育成基盤整備事業東川北地区に伴う
東川北地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査報告書

本　文　編

手仕山遺跡
古屋敷遺跡
内牧遺跡
彦山第５遺跡

２００５

宮崎県えびの市教育委員会

えびの市埋蔵文化財調査報告書　第41集

東川北地区遺跡群

県営経営体育成基盤整備事業東川北地区に伴う
東川北地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査報告書

本　文　編

手仕山遺跡
古屋敷遺跡
内牧遺跡
彦山第5遺跡

2005

宮崎県えびの市教育委員会

序　文

えびの市は、宮崎県の南西端に位置しており、北は標高700ｍ前後の急峻な山々の連なる九州山地に、南は標高1700ｍの韓国岳をはじめとする霧島山系に囲まれた、狭長な盆地であります。本市は、鹿児島・熊本県に接しており、古くから、日向・薩摩・肥後の分岐点として、交通の要所であったことから、様々な文物が混在した独特な地域性を呈しております。

また、盆地中央を蛇行しながら西流する川内川と、大小20あまりの支流の浸食によって形成された河岸段丘には、数多くの遺跡が存在しており、そのほとんどが周知の遺跡であることから、埋蔵文化財の保護に全力で取り組んでいます。また、近年の圃場整備事業などの開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査の増加により、市内の遺跡の実態が、徐々に明らかになってきました。

本書は、平成12・13・15年度に実施した、県営経営体育成基盤整備事業東川北地区に伴う東川北地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査の本報告であります。手仕山遺跡では、犬走り状遺構と堀切が検出され、中世の出城的機能を有していたことが判明しました。古屋敷遺跡では、旧石器時代から近世までの大量の遺物と、縄文時代以降の遺構が検出され、特に、中世の掘立柱建物跡と土坑が密集しています。内牧遺跡では、中世の掘立柱建物跡が多数検出され、そのうちの１棟は、柱穴が方形を呈する建物跡で、本市では初の発見であります。彦山第５遺跡は、縄文早期の遺物や遺構が検出されました。この遺跡群は、途中断絶があるものの、長い期間にわたって存続し、中世に繁栄したことを窺える貴重な資料を得ることができました。

本書が学術資料としてだけでなく、生涯学習や学校教育やその他の場で広く活用され、埋蔵文化財の保護に対する理解と認識が深まれば幸いです。

なお、調査にあたり、ご指導・ご助言いただいた諸先生方をはじめ、ご理解・ご協力いただいた西諸県農林振興局・地元の土地改良・地権者の方々・工事関係者、ならびに、発掘作業・整理作業に従事していただいた皆様には、厚く御礼申し上げます。

平成17年３月

えびの市教育委員会
教育長　上　野　兼　寛

例　言

1．本書は、平成12・13・15年度に実施した、県営経営体育成基盤整備事業東川北地区に伴う手仕山遺跡・古屋敷遺跡・内牧遺跡・彦山第５遺跡の発掘調査の本報告であり、東川北地区遺跡群と総称する。

2．調査はえびの市教育委員会が主体となり、手仕山遺跡は平成12年５月10日から同年11月９日まで、古屋敷遺跡は平成12年11月６日から平成13年３月30日までと、平成13年４月６日から同年５月31日まで、内牧遺跡は平成13年５月31日から７月20日まで、彦山第５遺跡は平成15年12月15日から平成16年２月16日まで実施した。

3．本報告書作成のための整理作業は平成12～16年度に実施した。

4．遺構全体図は、手仕山・古屋敷・内牧遺跡は有限会社スカイサーベイ九州に委託し、１／50と１／200を作成し、彦山第５遺跡は九州航空株式会社に委託作成した。

5．古屋敷・内牧遺跡出土の旧石器については、宮崎県埋蔵文化財センターの藤木聡・松本茂両氏に助言を頂き、また、実測図を掲載させて頂いた。

6．古屋敷遺跡出土の墨書土器については、宮崎産業経営大学の柴田博子先生に釈読・考察して頂き、玉稿を賜った。付篇に掲載させて頂くと共に、記して御礼申し上げる。

7．出土陶磁器については、佐賀県立九州陶磁文化館の大橋康二副館長および家田淳一氏に鑑定して頂いた。

8．墨書土器の赤外線写真の撮影は宮崎県埋蔵文化財センター所有の機器を利用させて頂き、金銅製の帯金具状遺物のＸ線写真の撮影は宮崎県埋蔵文化財センター神宮分館において菅付和樹氏にご協力頂いた。

9．古屋敷遺跡61号住居の獣骨については、鹿児島大学大学院歯学総合研究科神経病学講座歯科応用解剖学分野の峯和治助手に現地で実見して頂き、人骨ではないというコメントを頂いている。

10．彦山第５遺跡西壁の火山灰分析を株式会社古環境研究所に委託し、その成果は付篇に掲載している。

11．出土遺物洗浄後の分類・選択および石材材質の肉眼観察は中野が担当した。

12．本書の第７章の執筆は中野が行い、その他の執筆・編集は東が行った。

13．手仕山遺跡・古屋敷遺跡・内牧遺跡と彦山第５遺跡は約１kmも離れていることから、別々に総括している。

14．本書各章使用の地形図（１／5000）の原図は、昭和57年（1982）作成図であり、写真図版の航空写真とは若干の違いがある。

15．調査の関連資料および出土遺物はえびの市歴史民俗資料館に保管している。

16．古屋敷遺跡の第200図は、欠番である。

凡　例

1．本書掲載の遺構は、ＳＡ：竪穴住居・竪穴状遺構、ＳＢ：掘立柱建物、ＳＤ：溝状遺構、ＳＫ：土坑・土壙墓、ＳＲ：道路状遺構、ＳＺ：用途不明　として略している。
2．挿図記載の方位は、国土座標軸の北を示す。
3．遺構番号は、遺跡毎に独立して付けている。
4．遺構実測図は、規模や重要度を考慮して1／10から1／100に仕上げている。
5．出土土器実測図中のスクリーントーンは丹塗りおよび黒色処理を示す。
6．写真図版の個別遺構の平面、土層断面写真に写っているピンポールの長さは、すべて１ｍである。
7．航空写真の一部は、石灰による表示で誤認のあった遺構は加筆修正しているため、概要報告とは若干異なる。

調　査　組　織

調査主体　えびの市教育委員会

教育長	松田忠信	（平成12～16年度）
	上野兼寛	（平成16年度～）
社会教育課長	馬越脇泰二	（平成12～15年度）
	白坂良二	（平成16年度～）
課長補佐	柊山義臣	（平成16年度～）
文化係長	上加世田たず子	（平成12～15年度）
	松田和伯	（平成16年度～）
主査	鶴永靖	（平成16年度～）
主事	下東嘉也	（平成13年度～）
技師	東真一	
	中野和浩	（彦山第５遺跡担当）

特別調査員　佐賀県立九州陶磁文化館　副館長　大橋康二
学芸課　資料係長　家田淳一
宮崎産業経営大学　講師　柴田博子

調査協力　宮崎県教育庁文化課
宮崎県埋蔵文化財センター

平成12年度

発掘作業員　有馬セツ、井上カズ子、井上ヒロユキ、今村ヒトエ、榎園スミ子、大木場登美子、岡園タミ、柿木照子、上水流百合子、上中野きよ子、上中野スズエ、上中野隆雄、栢木サト子、木添一義、木添ミツギ、木原典子、楠元ヨシ子、久米ツル子、駒崎房子、小屋敷直子、里岡カズ子、重留勢津子、重留則男、新原敏子、新二日市フクエ、末田ハツミ、園田菊野、竹添フミエ、武田信和、田中キリ子、谷之木ミコ、出樋ツユ子、出水勝子、出水一美、堂園イソ、永田美智子、永谷タミ、永友京子、西原ツル子、原口キミ子、東田玫子、東田盛之、深草義治、福満悦子、藤本寿明、宝代トミ子、星指利江子、堀征四郎、本二日市ナカ、前原久美恵、松岡ヨシ子、松下ヤエ子、松田久子、蓑輪和子、本坊福子、山口敏恵、山口ミツ、山崎フジ子、山下一男、山下義広、山之口三子、山本ユキエ、米倉トシ子、米倉ミブ、米丸シズ子

整理作業員　入木和代、大田由美子、川上茂子、坂元星奈、新浜脇征子、玉利節子、徳澄みどり、長野真弓、福元ゆかり、丸尾さおり、茂田かおる、本坊美佐子、米倉千春

平成13年度

発掘作業員　荒木フミ子、有馬セツ、有村ヨシ子、今村ヒトエ、榎園スミ子、大木場登美子、柿木照子、上水流百合子、上中野きよ子、上中野スズエ、栢木サト子、木原典子、楠元ヨシ子、久米ツル子、駒崎房子、小屋敷直子、里岡カズ子、重留勢津子、重留則男、新原敏子、園田菊野、竹添フミエ、武田信和、田中キリ子、谷之木ミコ、出水一美、永田美智子、永谷タミ、永友京子、西原ツル子、野間六子、原口キミ子、深草義治、福満悦子、渕脇テツ、星指利江子、前原久美恵、前原久子、松岡ヨシ子、松下ヤエ子、松田久子、蓑輪和子、本坊福子、山口敏恵、山口ミツ、山崎フジ子、山下一男、山之口三子、山本ユキエ、米倉トシ子、米倉ミブ、米丸シズ子

整理作業員　井上智子、入木和代、絵柳浩子、大田由美子、川上茂子、上水流なおみ、小屋敷直子、坂元星奈、新浜脇征子、新屋純子、徳澄みどり、姫野紀代、福元ゆかり、丸尾さおり、茂田かおる、山内ミホ

平成14年度

整理作業員　入枝優子、入木和代、大重泉、大田由美子、芝原由喜、末継さおり、徳澄みどり、野田幸子、原山征子、姫野紀代、福元ゆかり、前田優子、茂田かおる、米倉千春

平成15年度

発掘作業員　有馬セツ、内立シゲ子、大木場登美子、柿木照子、上水流タマ、上中野兼光、上中野隆雄、狩集憲子、川畑フジ子、木原典子、楠元ヨシ子、桑田カズ子、源嶋ミエ、佐伯末央、里岡カズ子、新原敏子、大王サツミ、出水一美、永田美智子、原内アヤ子、原内ツルエ、星指利江子、前田正治、前原久美恵、松下ヤエ子、本坊福子、八重尾ヤス子、山口敏恵、横手マツエ

整理作業員　安藤紀代、入木和代、上水由喜子、大重泉、大田由美子、芝原由喜、末継さおり、野田幸子、原山征子、米倉千春

平成16年度

整理作業員　入木和代、大重泉、大田由美子、末継さおり、野田幸子、橋口清美、原山征子、米倉千春

本 文 目 次

第1章　はじめに……1
第2章　遺跡の位置と歴史的環境……2
第3章　手仕山遺跡
　第1節　はじめに……5
　第2節　基本的層序……13
　第3節　遺構と遺物……13
　第4節　小結……33
第4章　古屋敷遺跡
　第1節　はじめに……45
　第2節　基本的層序……46
　第3節　試掘調査……46
　第4節　Ⅰ区の調査……49
　第5節　Ⅱ～Ⅲ区の調査……102
　第6節　Ⅳ区の調査……215
　第7節　Ⅴ区の調査……254
　第8節　Ⅵ区の調査……265
　第9節　Ⅶ区の調査……321
　第10節　Ⅷ区の調査……354
　第11節　小結……361
第5章　内牧遺跡
　第1節　はじめに……419
　第2節　基本的層序……426
　第3節　遺構と遺物……426
　第4節　小結……473
第6章　まとめ……477
第7章　彦山第5遺跡
　第1節　はじめに……485
　第2節　遺跡の位置と歴史的環境……485
　第3節　基本的層序……493
　第4節　調査の方法と経過……493
　第5節　遺構と遺物……493
　第6節　まとめ……512

付篇１．古屋敷遺跡出土の墨書土器…… 513
２．宮崎県えびの市、東川北地区における火山灰分析 …… 519

挿図目次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡位置図……１
第２図　遺跡の位置と周辺地形……２

手仕山遺跡

第１図　字境図……５
第２図　手仕山城　縄張り図及び地区割図……６
第３図　遺構全体図……７・８
第４図　Ⅱ～Ⅳ区層序実測図 ……９・10
第５図　Ⅴ・Ⅵ区層序実測図 ……11・12
第６図　ＳＸ－01堀切実測図……13
第７図　出土遺物実測図　縄文土器（１）……14
第８図　出土遺物実測図　縄文土器（２）……15
第９図　出土遺物実測図　縄文土器（３）……16
第10図　出土遺物実測図　縄文土器（４）……17
第11図　出土遺物実測図　縄文土器（５）……18
第12図　出土遺物実測図　縄文土器（６）……19
第13図　出土遺物実測図　縄文土器（７）……20
第14図　出土遺物実測図　縄文土器（８）……21
第15図　出土遺物実測図　縄文土器（９）……22
第16図　出土遺物実測図　縄文土器（10）……23
第17図　出土遺物実測図　縄文土器（11）……24
第18図　出土遺物実測図　縄文土器（12）……25
第19図　出土遺物実測図　縄文土器（13）……26
第20図　出土遺物実測図　弥生土器・土師器・土製品・鉄器・銅銭 ……27
第21図　出土遺物実測図　石器（１）……28
第22図　出土遺物実測図　石器（２）……29
第23図　出土遺物実測図　石器（３）……30
第24図　出土遺物実測図　石器（４）……31
第25図　出土遺物実測図　石器（５）……32

古屋敷遺跡

第１図　地区割図……45
第２図　Ⅰ区　遺構全体図……47・48
第３図　Ⅰ区　南壁層序図 ……49
第４図　試掘溝　出土遺物実測図（１）……50

第５図　試掘溝　出土遺物実測図（２）……51
第６図　試掘溝　出土遺物実測図（３）……52
第７図　Ⅰ区　出土遺物実測図（１）……53
第８図　ＳＡ－04　遺構実測図……54
第９図　ＳＡ－01　遺構実測図……55
第10図　ＳＡ－03　遺構実測図……56
第11図　ＳＡ　出土遺物実測図……57
第12図　ＳＢ－01～06　遺構実測図……58
第13図　ＳＢ－07～10　遺構実測図……59
第14図　ＳＢ－11～13　遺構実測図……60
第15図　ＳＢ－14～19　遺構実測図……61
第16図　ＳＢ－20～25　遺構実測図……63
第17図　ＳＢ－26～29　遺構実測図……64
第18図　ＳＢ－30～35　遺構実測図……66
第19図　ＳＢ－36～38　遺構実測図……67
第20図　ＳＢ－39～42　遺構実測図……68
第21図　ＳＢ－43～47　遺構実測図……70
第22図　ＳＢ－48～52　遺構実測図……71
第23図　ＳＢ－53～56　遺構実測図……72
第24図　ＳＢ－57～61　遺構実測図……73
第25図　ＳＫ－10・14・18・25・28・
29・31・34～36　遺構実測図……79
第26図　ＳＫ－42・45・52・53・108
遺構実測図……80
第27図　ＳＫ－117・127　遺構実測図……81
第28図　ＳＫ－148・149　遺構実測図……82
第29図　ＳＫ－150　遺構実測図……84
第30図　ＳＫ－152　遺構実測図……85
第31図　ＳＫ　出土遺物実測図……86
第32図　ＳＫ・Ⅰ区　出土遺物実測図
（２）……87
第33図　Ⅰ区　出土遺物実測図（３）……88
第34図　Ⅰ区　出土遺物実測図（４）……89
第35図　Ⅰ区　出土遺物実測図（５）……90
第36図　Ⅰ区　出土遺物実測図（６）……91
第37図　Ⅰ区　出土遺物実測図（７）……92
第38図　Ⅰ区　出土遺物実測図（８）……93
第39図　Ⅰ区　出土遺物実測図（９）……94
第40図　Ⅰ区　出土遺物実測図（10）……95
第41図　Ⅰ区　出土遺物実測図（11）……96
第42図　Ⅰ区　出土遺物実測図（12）……97
第43図　Ⅰ区　出土遺物実測図（13）……98
第44図　Ⅰ区　出土遺物実測図（14）……99
第45図　Ⅰ区　出土遺物実測図（15）…… 100
第46図　Ⅰ区　出土遺物実測図（16）…… 101
第47図　Ⅰ区　出土遺物実測図（17）…… 102
第48図　Ⅱ区　遺構全体図……103・104
第49図　Ⅱ区　中央整層序図……105・106
第50図　Ⅲ区　遺構全体図…… 107
第51図　Ⅲ区　中央整層序図…… 108
第52図　ＳＡ－17　遺構実測図…… 109
第53図　ＳＡ－18　遺構実測図…… 110
第54図　ＳＡ－21　遺構実測図…… 111
第55図　ＳＡ　出土遺物実測図…… 111
第56図　ＳＡ－08　遺構実測図…… 112
第57図　ＳＡ－10　遺構実測図…… 113
第58図　ＳＡ－11　遺構実測図…… 114
第59図　ＳＡ－08　出土遺物実測図…… 115
第60図　ＳＡ－10　出土遺物実測図
（１）…… 116
第61図　ＳＡ－10　出土遺物実測図
（２）…… 117
第62図　ＳＡ－10・11　出土遺物実測
図…… 118
第63図　ＳＡ－12　遺構実測図…… 119
第64図　ＳＡ－12　出土遺物実測図
（１）…… 120
第65図　ＳＡ－12　出土遺物実測図

（2）…… 121
第66図　ＳＡ－13　遺構実測図…… 122
第67図　ＳＡ－15　遺構実測図…… 123
第68図　ＳＡ－13・15　出土遺物実測図…… 124
第69図　ＳＡ－16　遺構実測図…… 125
第70図　ＳＡ－16　出土遺物実測図（1）…… 126
第71図　ＳＡ－16　出土遺物実測図（2）…… 127
第72図　ＳＡ－19　遺構実測図…… 128
第73図　ＳＡ－19　出土遺物実測図…… 129
第74図　ＳＡ－20　遺構実測図…… 130
第75図　ＳＡ－22・23　遺構実測図…… 131
第76図　ＳＡ－24　遺構実測図…… 132
第77図　ＳＡ－20　出土遺物実測図（1）…… 133
第78図　ＳＡ－20　出土遺物実測図（2）…… 134
第79図　ＳＡ－20・22　出土遺物実測図…… 135
第80図　ＳＡ－23・24　出土遺物実測図…… 136
第81図　ＳＡ－24　出土遺物実測図…… 137
第82図　ＳＡ－25　遺構実測図…… 138
第83図　ＳＡ－26・27　遺構実測図…… 139
第84図　ＳＡ－28　遺構実測図…… 140
第85図　ＳＡ－30・31　遺構実測図…… 141
第86図　ＳＡ－32　遺構実測図…… 142
第87図　ＳＡ－33　遺構実測図…… 143
第88図　ＳＡ－25・26・28・30　出土遺物実測図…… 144
第89図　ＳＡ－30・31・33　出土遺物実測図…… 145
第90図　ＳＡ－06　遺構実測図…… 146
第91図　ＳＡ－07・09　遺構実測図…… 147
第92図　ＳＡ－14　遺構実測図…… 148
第93図　ＳＡ－29　遺構実測図…… 149
第94図　ＳＡ－06・07　出土遺物実測図…… 150
第95図　ＳＡ－07・09　出土遺物実測図…… 151
第96図　ＳＡ－09・14　出土遺物実測図…… 152
第97図　ＳＡ－14　出土遺物実測図…… 153
第98図　ＳＡ－14・29　出土遺物実測図…… 154
第99図　ＳＢ－62～64　遺構実測図…… 155
第100図　ＳＢ－65～68　遺構実測図 …… 156
第101図　ＳＢ－69　遺構実測図 …… 157
第102図　ＳＢ－70～74　遺構実測図 …… 158
第103図　ＳＢ－75～80　遺構実測図 …… 159
第104図　ＳＢ－81～84　遺構実測図 …… 160
第105図　ＳＢ－85～89　遺構実測図 …… 161
第106図　ＳＢ－90～93　遺構実測図 …… 163
第107図　ＳＢ－94～97　遺構実測図 …… 164
第108図　ＳＢ－98・153～155　遺構実測図…… 165
第109図　ＳＫ－151　遺構実測図…… 167
第110図　ＳＫ－160・202・219・222遺構実測図…… 169
第111図　ＳＫ－254・265　遺構実測図 … 170
第112図　ＳＫ－272・292・296・298遺構実測図…… 172
第113図　ＳＫ　出土遺物実測図（1）…… 173
第114図　ＳＫ　出土遺物実測図（2）…… 174
第115図　ＳＫ　出土遺物実測図（3）…… 175
第116図　ＳＫ　出土遺物実測図（4）…… 176

第117図　Ⅱ区　出土遺物実測図（1）…… 177
第118図　Ⅱ区　出土遺物実測図（2）…… 178
第119図　Ⅱ区　出土遺物実測図（3）…… 179
第120図　Ⅱ区　出土遺物実測図（4）…… 180
第121図　Ⅱ区　出土遺物実測図（5）…… 181
第122図　Ⅱ区　出土遺物実測図（6）…… 182
第123図　Ⅱ区　出土遺物実測図（7）…… 183
第124図　Ⅱ区　出土遺物実測図（8）…… 184
第125図　Ⅱ区　出土遺物実測図（9）…… 185
第126図　Ⅱ区　出土遺物実測図（10）…… 186
第127図　Ⅱ区　出土遺物実測図（11）…… 187
第128図　Ⅱ区　出土遺物実測図（12）…… 188
第129図　Ⅱ区　出土遺物実測図（13）…… 189
第130図　Ⅱ区　出土遺物実測図（14）…… 190
第131図　Ⅱ区　出土遺物実測図（15）…… 191
第132図　Ⅱ区　出土遺物実測図（16）…… 192
第133図　Ⅱ区　出土遺物実測図（17）…… 193
第134図　Ⅱ区　出土遺物実測図（18）…… 194
第135図　Ⅱ区　出土遺物実測図（19）…… 195
第136図　Ⅱ区　出土遺物実測図（20）…… 196
第137図　Ⅱ区　出土遺物実測図（21）…… 197
第138図　Ⅱ区　出土遺物実測図（22）…… 198
第139図　Ⅱ区　出土遺物実測図（23）…… 199
第140図　Ⅱ区　出土遺物実測図（24）…… 200
第141図　Ⅱ区　出土遺物実測図（25）…… 201
第142図　Ⅱ区　出土遺物実測図（26）…… 202
第143図　Ⅱ区　出土遺物実測図（27）…… 203
第144図　Ⅱ区　出土遺物実測図（28）…… 204
第145図　Ⅱ区　出土遺物実測図（29）…… 205
第146図　Ⅱ区　出土遺物実測図（30）…… 206
第147図　Ⅱ区　出土遺物実測図（31）…… 207
第148図　Ⅱ区　出土遺物実測図（32）…… 208
第149図　Ⅱ区　出土遺物実測図（33）…… 209
第150図　Ⅱ区　出土遺物実測図（34）…… 210
第151図　Ⅱ区　出土遺物実測図（35）…… 211
第152図　Ⅱ区　出土遺物実測図（36）…… 212
第153図　Ⅲ区　出土遺物実測図（1）…… 213
第154図　Ⅲ区　出土遺物実測図（2）…… 214
第155図　Ⅲ区　出土遺物実測図（3）…… 215
第156図　Ⅲ区　出土遺物実測図（4）…… 216
第157図　Ⅳ～Ⅵ区　遺構全体図 ……217・218
第158図　Ⅳ区　中央壁層序図 …… 219
第159図　Ⅳ区　出土遺物実測図（1）…… 220
第160図　Ⅳ区　出土遺物実測図（2）…… 221
第161図　ＳＡ－34　遺構実測図 …… 222
第162図　ＳＡ－35　遺構実測図 …… 223
第163図　ＳＡ－40　遺構実測図 …… 224
第164図　ＳＡ－34・35・40　出土遺物実測図…… 225
第165図　ＳＡ－41　遺構実測図 …… 226
第166図　ＳＡ－42・43　遺構実測図 …… 227
第167図　ＳＡ－44・47・48・50　遺構実測図…… 228
第168図　ＳＡ－45　遺構実測図 …… 229
第169図　ＳＡ－41　出土遺物実測図（1）…… 230
第170図　ＳＡ－41　出土遺物実測図（2）…… 231
第171図　ＳＡ－41　出土遺物実測図（3）…… 232
第172図　ＳＡ－41　出土遺物実測図（4）…… 233
第173図　ＳＡ－41・43・45　出土遺物実測図…… 234
第174図　ＳＡ－45　出土遺物実測図 …… 235
第175図　ＳＡ－46　遺構実測図 …… 236
第176図　ＳＡ－46　出土遺物実測図（1）…… 237

第177図　ＳＡ－46　出土遺物実測図（２）…… 238
第178図　ＳＡ－46・48　出土遺物実測図…… 239
第179図　ＳＢ－99～102　遺構実測図…… 240
第180図　ＳＢ－103～108　遺構実測図 … 241
第181図　ＳＢ－109～114　遺構実測図 … 242
第182図　ＳＢ－115～118　遺構実測図 … 243
第183図　ＳＢ－156～159　遺構実測図 … 244
第184図　ＳＫ・Ⅳ区　出土遺物実測図（１）…… 248
第185図　Ⅳ区　出土遺物実測図（２）…… 249
第186図　Ⅳ区　出土遺物実測図（３）…… 249
第187図　Ⅳ区　出土遺物実測図（４）…… 250
第188図　Ⅳ区　出土遺物実測図（５）…… 251
第189図　Ⅳ区　出土遺物実測図（６）…… 252
第190図　Ⅳ区　出土遺物実測図（７）…… 253
第191図　Ⅴ区　南壁層序図 …… 255
第192図　ＳＢ－119～124　遺構実測図 … 256
第193図　ＳＢ－125～129　遺構実測図 … 257
第194図　ＳＢ－160～163　遺構実測図 … 258
第195図　ＳＫ－364・376・385　遺構実測図…… 259
第196図　Ⅴ区　出土遺物実測図（１）…… 261
第197図　Ⅴ区　出土遺物実測図（２）…… 262
第198図　Ⅴ区　出土遺物実測図（３）…… 263
第199図　Ⅴ区　出土遺物実測図（４）…… 263
第201図　ＳＡ－56・57　遺構実測図 …… 264
第202図　ＳＡ－58　遺構実測図 …… 265
第203図　ＳＳ－01　遺構実測図 …… 266
第204図　Ⅵ区　出土遺物実測図（１）…… 267
第205図　Ⅵ区　出土遺物実測図（２）…… 268
第206図　Ⅵ区　出土遺物実測図（３）…… 269
第207図　Ⅵ区　出土遺物実測図（４）…… 270
第208図　Ⅵ区　出土遺物実測図（５）…… 271
第209図　Ⅵ区　出土遺物実測図（６）…… 272
第210図　Ⅵ区　出土遺物実測図（７）…… 273
第211図　Ⅵ区　出土遺物実測図（８）…… 274
第212図　Ⅵ区　出土遺物実測図（９）…… 275
第213図　Ⅵ区　出土遺物実測図（10）…… 276
第214図　Ⅵ区　出土遺物実測図（11）…… 277
第215図　Ⅵ区　出土遺物実測図（12）…… 278
第216図　Ⅵ区　出土遺物実測図（13）…… 279
第217図　Ⅵ区　出土遺物実測図（14）…… 280
第218図　Ⅵ区　出土遺物実測図（15）…… 281
第219図　ＳＡ－39　遺構実測図 …… 282
第220図　ＳＡ－39　出土遺物実測図 …… 283
第221図　ＳＡ－49・52　遺構実測図 …… 284
第222図　ＳＡ－49　出土遺物実測図 …… 285
第223図　ＳＡ－51　遺構実測図 …… 286
第224図　ＳＡ－51　出土遺物実測図 …… 287
第225図　ＳＡ－53　遺構実測図 …… 288
第226図　ＳＡ－52・53　出土遺物実測図…… 289
第227図　ＳＡ－54　遺構実測図 …… 290
第228図　ＳＡ－55　遺構実測図 …… 291
第229図　ＳＡ－54・55　出土遺物実測図…… 292
第230図　ＳＡ－37　遺構実測図 …… 293
第231図　ＳＡ－38　遺構実測図 …… 294
第232図　ＳＡ－37・38　出土遺物実測図…… 295
第233図　ＳＢ－130・131　遺構実測図 … 296
第234図　ＳＢ－132～135　遺構実測図 … 297
第235図　ＳＢ－136～140　遺構実測図 … 298
第236図　ＳＢ－164～168　遺構実測図 … 299
第237図　ＳＫ－335・353・379・380　遺構実測図…… 300

第238図　ＳＫ－378　遺構実測図…… 301
第239図　ＳＫ－338・340・341・378
出土遺物実測図 …… 302
第240図　Ⅵ区　出土遺物実測図（16）…… 303
第241図　Ⅵ区　出土遺物実測図（17）…… 304
第242図　Ⅵ区　出土遺物実測図（18）…… 305
第243図　Ⅵ区　出土遺物実測図（19）…… 306
第244図　Ⅵ区　出土遺物実測図（20）…… 307
第245図　Ⅵ区　出土遺物実測図（21）…… 308
第246図　Ⅵ区　出土遺物実測図（22）…… 309
第247図　Ⅵ区　出土遺物実測図（23）…… 310
第248図　Ⅵ区　出土遺物実測図（24）…… 311
第249図　Ⅵ区　出土遺物実測図（25）…… 312
第250図　Ⅵ区　出土遺物実測図（26）…… 313
第251図　Ⅵ区　出土遺物実測図（27）…… 314
第252図　Ⅵ区　出土遺物実測図（28）…… 315
第253図　Ⅵ区　出土遺物実測図（29）…… 316
第254図　Ⅵ区　出土遺物実測図（30）…… 317
第255図　Ⅶ・Ⅷ区　遺構全体図 ……319・320
第256図　Ⅶ区　南壁層序図 …… 321
第257図　ＳＳ－02　遺構実測図 …… 321
第258図　Ⅶ区　出土遺物実測図（１）…… 322
第259図　Ⅶ区　出土遺物実測図（２）…… 323
第260図　Ⅶ区　出土遺物実測図（３）…… 324
第261図　Ⅶ区　出土遺物実測図（４）…… 325
第262図　ＳＡ－62　遺構実測図 …… 326
第263図　ＳＡ－63　遺構実測図 …… 327
第264図　ＳＡ－64・65　遺構実測図 …… 328
第265図　ＳＡ－68・69　遺構実測図 …… 329
第266図　ＳＡ－70・72　遺構実測図 …… 331
第267図　ＳＡ－59　遺構実測図 …… 332
第268図　ＳＡ－61　遺構実測図 …… 333
第269図　ＳＡ－59・62　出土遺物実測図…… 334
第270図　ＳＡ－62・63・64　出土遺物実測図…… 335
第271図　ＳＡ－65・68・69　出土遺物実測図…… 336
第272図　ＳＡ－59・69・70・72　出土遺物実測図…… 337
第273図　ＳＢ－141～143　遺構実測図 … 338
第274図　ＳＢ－144～148　遺構実測図 … 339
第275図　ＳＢ－149～152　遺構実測図 … 340
第276図　ＳＢ－172～177　遺構実測図 … 341
第277図　ＳＫ－386・388・389　遺構実測図…… 342
第278図　ＳＤ　出土遺物実測図 …… 343
第279図　中世の畑跡　遺構実測図 …… 344
第280図　近世の畑跡　遺構実測図 …… 345
第281図　Ⅶ区　出土遺物実測図（５）…… 346
第282図　Ⅶ区　出土遺物実測図（６）…… 347
第283図　Ⅶ区　出土遺物実測図（７）…… 348
第284図　Ⅶ区　出土遺物実測図（８）…… 349
第285図　Ⅶ区　出土遺物実測図（９）…… 350
第286図　Ⅶ区　出土遺物実測図（10）…… 351
第287図　ＳＡ－67　遺構実測図 …… 353
第288図　ＳＡ－66　遺構実測図 …… 354
第289図　Ⅷ区　出土遺物実測図（１）…… 355
第290図　Ⅷ区　出土遺物実測図（２）…… 356
第291図　ＳＢ－169～171　遺構実測図 … 357
第292図　Ⅷ区　出土遺物実測図（３）…… 357
第293図　Ⅷ区　出土遺物実測図（４）…… 357
第294図　Ⅷ区　出土遺物実測図（５）…… 358
第295図　Ⅷ区　出土遺物実測図（６）…… 359

内牧遺跡

第１図　地区割図…… 419
第２図　内牧遺跡　遺構全体図…… 420
第３図　Ⅰ区　遺構全体図……421・422
第４図　Ⅱ区　遺構全体図……423・424
第５図　東壁層序図…… 425
第６図　ＳＡ－02　遺構実測図…… 425
第７図　ＳＡ－01　遺構実測図…… 426
第８図　ＳＡ－03　遺構実測図…… 427
第９図　ＳＢ－01　遺構実測図……429・430
第10図　ＳＢ－01　柱穴土層断面図 …… 431
第11図　ＳＢ－02～07　遺構実測図…… 432
第12図　ＳＢ－08～10　遺構実測図…… 433
第13図　ＳＢ－11～13　遺構実測図…… 434
第14図　ＳＢ－14～17　遺構実測図…… 435
第15図　ＳＢ－18　遺構実測図…… 436
第16図　ＳＢ－19～22　遺構実測図…… 437
第17図　ＳＢ－23～26　遺構実測図…… 438
第18図　ＳＢ－27・28　遺構実測図…… 439
第19図　ＳＢ－29～33　遺構実測図…… 440
第20図　ＳＢ－34～39　遺構実測図…… 441
第21図　ＳＢ－40～43　遺構実測図…… 442
第22図　ＳＢ－44　遺構実測図…… 443
第23図　ＳＢ－45・46　遺構実測図…… 444
第24図　ＳＢ－47～52　遺構実測図…… 445
第25図　ＳＢ－53～57　遺構実測図…… 446
第26図　ＳＢ－58～62　遺構実測図…… 447
第27図　ＳＢ－63～66　遺構実測図…… 448
第28図　ＳＢ－67～72　遺構実測図…… 449
第29図　ＳＢ－73～77　遺構実測図…… 450
第30図　ＳＢ－78～82　遺構実測図…… 452
第31図　ＳＢ－83～88　遺構実測図…… 454
第32図　ＳＢ－89～93　遺構実測図…… 455
第33図　ＳＢ－94～96　遺構実測図…… 456
第34図　ＳＫ－25・28・29　遺構実測図… 457
第35図　ＳＫ－71・74・76～79・83・
　85・115　遺構実測図 …… 460
第36図　調査区　出土遺物実測図（１）… 462
第37図　調査区　出土遺物実測図（２）… 463
第38図　調査区　出土遺物実測図（３）… 464
第39図　調査区　出土遺物実測図（４）… 465
第40図　調査区　出土遺物実測図（５）… 466
第41図　調査区　出土遺物実測図（６）… 467
第42図　調査区　出土遺物実測図（７）… 468
第43図　調査区　出土遺物実測図（８）… 469
第44図　調査区　出土遺物実測図（９）… 470
第45図　調査区　出土遺物実測図（10）… 471
第46図　古屋敷遺跡　縄文～古代の
　住居……479・480
第47図　古屋敷遺跡　古代～中世の
　建物……481・482
第48図　内牧遺跡　古墳～古代の住居…… 483
第49図　内牧遺跡　古代～中世の建物…… 484

彦山第５遺跡

第１図　調査区および周辺の地形・
　古道（中世～近世）・番所跡
　ほか位置図…… 486
第２図　遺構・自然礫分布図 ……487・488
第３図　調査区断面層序図（１）……489・490
第４図　調査区断面層序図（２）……491・492
第５図　ＳＳ－01　遺構実測図 …… 494
第６図　ＳＳ－02　遺構実測図 …… 495
第７図　ＳＳ－03　遺構実測図…… 495
第８図　ＳＳ－04　遺構実測図…… 496

第9図　Ⅲ区　SK－01　遺構実測図…… 496
第10図　出土遺物分布図……497・498
第11図　密集地点遺物分布図…… 499
第12図　調査区出土土師器・輸入陶磁器実測図…… 500
第13図　Ⅰ区Ⅵ層出土縄文土器実測図（1）…… 501
第14図　Ⅰ区Ⅵ層出土縄文土器実測図（2）…… 502
第15図　Ⅰ区Ⅵ層出土縄文土器実測図（3）、V'層出土縄文土器実測図（1）…… 503
第16図　Ⅰ区V'層出土縄文土器実測図（2）、Ⅳa層出土・排土採取縄文土器実測図、土製品実測図…… 504
第17図　Ⅲ区出土縄文土器実測図…… 505
第18図　Ⅰ区Ⅳ層出土石器・未製品実測図（1）…… 506
第19図　Ⅰ区Ⅳ層出土石器・未製品実測図（2）…… 507
第20図　Ⅰ区出土石器・石製品・石核実測図…… 508
第21図　Ⅰ区Ⅳa・V'層出土石器・未製品・石核・剥片・排土採取石器、Ⅲ区出土剥片実測図…… 509

表目次

手仕山遺跡

表1　出土遺物観察表（1）……34
表2　出土遺物観察表（2）……35
表3　出土遺物観察表（3）……36
表4　出土遺物観察表（4）……37
表5　出土遺物観察表（5）……38
表6　出土遺物観察表（6）……39
表7　出土遺物観察表（7）……40
表8　出土遺物観察表（8）……41
表9　出土遺物観察表（9）……42
表10　出土遺物観察表（10）……43
表11　出土遺物観察表（11）……43
表12　出土遺物観察表（12）……43
表13　出土遺物観察表（13）……43
表14　出土遺物観察表（14）……44

古屋敷遺跡

表1　出土遺物観察表（1）…… 363
表2　出土遺物観察表（2）…… 364
表3　出土遺物観察表（3）…… 365
表4　出土遺物観察表（4）…… 366
表5　出土遺物観察表（5）…… 367
表6　出土遺物観察表（6）…… 368
表7　出土遺物観察表（7）…… 369
表8　出土遺物観察表（8）…… 370
表9　出土遺物観察表（9）…… 371
表10　出土遺物観察表（10）…… 372
表11　出土遺物観察表（11）…… 373
表12　出土遺物観察表（12）…… 374
表13　出土遺物観察表（13）…… 375
表14　出土遺物観察表（14）…… 376

表15　出土遺物観察表（15）…… 377
表16　出土遺物観察表（16）…… 378
表17　出土遺物観察表（17）…… 379
表18　出土遺物観察表（18）…… 380
表19　出土遺物観察表（19）…… 381
表20　出土遺物観察表（20）…… 382
表21　出土遺物観察表（21）…… 383
表22　出土遺物観察表（22）…… 384
表23　出土遺物観察表（23）…… 385
表24　出土遺物観察表（24）…… 386
表25　出土遺物観察表（25）…… 387
表26　出土遺物観察表（26）…… 388
表27　出土遺物観察表（27）…… 389
表28　出土遺物観察表（28）…… 390
表29　出土遺物観察表（29）…… 391
表30　出土遺物観察表（30）…… 392
表31　出土遺物観察表（31）…… 393
表32　出土遺物観察表（32）…… 394
表33　出土遺物観察表（33）…… 395
表34　出土遺物観察表（34）…… 396
表35　出土遺物観察表（35）…… 397
表36　出土遺物観察表（36）…… 398
表37　出土遺物観察表（37）…… 399
表38　出土遺物観察表（38）…… 400
表39　出土遺物観察表（39）…… 401
表40　出土遺物観察表（40）…… 402
表41　出土遺物観察表（41）…… 403
表42　出土遺物観察表（42）…… 404
表43　出土遺物観察表（43）…… 405
表44　出土遺物観察表（44）…… 406
表45　出土遺物観察表（45）…… 407
表46　出土遺物観察表（46）…… 407
表47　出土遺物観察表（47）…… 408
表48　出土遺物観察表（48）…… 409
表49　出土遺物観察表（49）…… 409
表50　出土遺物観察表（50）…… 410
表51　出土遺物観察表（51）…… 411
表52　出土遺物観察表（52）…… 412
表53　出土遺物観察表（53）…… 413
表54　出土遺物観察表（54）…… 414
表55　出土遺物観察表（55）…… 414
表56　出土遺物観察表（56）…… 415
表57　出土遺物観察表（57）…… 416
表58　出土遺物観察表（58）…… 417
表59　出土遺物観察表（59）…… 418

内牧遺跡

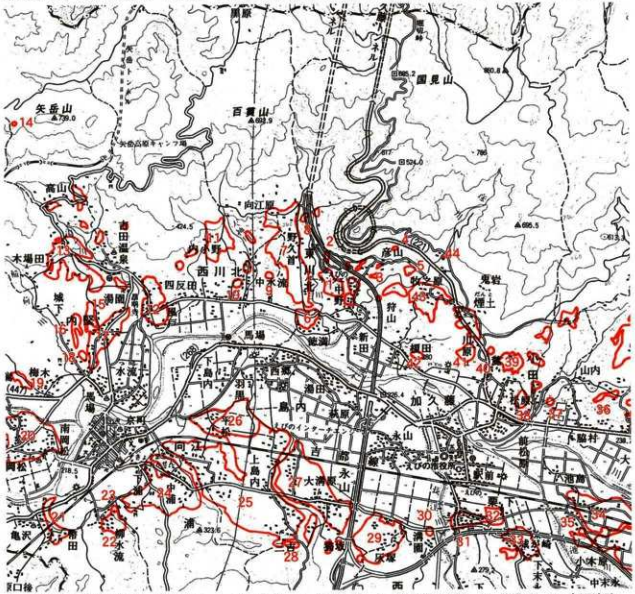
表1　出土遺物観察表（1）…… 474
表2　出土遺物観察表（2）…… 475
表3　出土遺物観察表（3）…… 475
表4　出土遺物観察表（4）…… 475
表5　出土遺物観察表（5）…… 475
表6　出土遺物観察表（6）…… 476

彦山第５遺跡

表1　出土遺物観察表（1）…… 500
表2　出土遺物観察表（2）…… 500
表3　出土遺物観察表（3）…… 510
表4　出土遺物観察表（4）…… 511
表5　出土遺物観察表（5）…… 511
表6　出土遺物観察表（6）…… 511
表7　出土遺物観察表（7）…… 512

第１章　はじめに

平成９年度に県営経営体育成基盤整備事業が東川北地区に計画されたが、当地区は周知の遺跡であるため、手仕山・古屋敷・内牧遺跡は平成10・11年度に、県文化課による試掘調査が行われ、土坑・柱穴・溝などの遺構や遺物が検出された。その結果を受け、西諸県農林振興局・土地改良・市教育委員会による埋蔵文化財の保護に関する協議を重ね、東川北地区遺跡群内の手仕山・古屋敷・内牧遺跡の30,000㎡を平成12～13年度にかけて発掘調査することとなった。調査に平行して整理作業も少しずつ行ったが、平成14・15年度で継続して本報告を刊行する計画を立てた。ところが、平



1. 東川北地区遺跡群　2. 妙見遺跡　3. 平原遺跡　4. 彦山板碑　5. 彦山第５遺跡　6. 徳満城　7. 寺園遺跡　8. 野首遺跡　9. 新城　10. 東福城　11. 内小野遺跡　12. 風戸遺跡　13. 高山遺跡　14. 矢岳第４遺跡　15. 丸ノ尾城跡　16. 杉尾城跡　17. 昌明寺遺跡　18. 松尾城跡　19. 牛ケ迫遺跡　20. 岡松遺跡　21. 幣田遺跡　22. 古城遺跡　23. 古城跡　24. 中浦遺跡　25. 島内遺跡　26. 島内地下式横穴墓群　27. 大津原遺跡　28. 見吉城跡　29. 灰塚遺跡　30. 清園城跡　31. 谷川遺跡　32. 草刈田遺跡　33. 城ケ崎遺跡　34. 小木原地下式横穴墓群　35. 鳥越城跡　36. 小城跡　37. 平城跡　38. 小城跡　39. 加久藤城跡　40. 浄慶城跡　41. 堰土遺跡　42. 園田城跡　43. 牧ノ原遺跡　44. 榎田関跡

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡位置図（１：50,000）

成14年度、彦山地区を追加工事する計画がもち上がり、県文化課の試掘調査の結果、彦山第５遺跡の1,900㎡を平成15年度に発掘調査の対象とし、記録保存することとなった。平成15年度も整理作業を継続し、平成16年度、４遺跡をまとめて本報告することとなった。

第２章　遺跡の位置と歴史的環境

えびの市には、中央を東から西へと蛇行しながら流れる川内川の浸食を受けて、河岸段丘が形成されており、段丘近辺には湧水がみられることが多く、その豊富な水量の恩恵を受けて、段丘上には数多くの遺跡が存在している。

第２図　遺跡の位置と周辺地形（１：5,000）

手仕山・古屋敷・内牧遺跡は、えびの市大字東川北字古屋敷・内牧に所在し、彦山第５遺跡は、大字東川北字彦山に所在する。前３者は、川内川の右岸、霧島山系を望む南向きの南北にのびる標高237～257mの緩斜面上に立地する。緩斜面の北東部は急激に立ち上がり、東側は急斜面となって落ち込んでいくが、西から南にかけての傾斜は緩やかである。西側には川内川の支流である関川があり、蛇行しながら南流して川内川に合流する。また、緩斜面の中央部やや北寄りには、東西に長い標高271m、周辺の田との比高差が北は13～18m、東は14m、南は22～25m、西は15～21mを測る独立丘陵が存在する。その独立丘陵上に手仕山遺跡は位置し、手仕山遺跡の東部から南部にかけての標高246～255mの緩斜面上に古屋敷遺跡、手仕山遺跡の北西約50m、標高255～257mの緩斜面上に内牧遺跡は位置する。この３遺跡から北東へ約１km、標高290～296m、氾濫原との比高差60～66mを測る南向きの斜面上に、彦山第５遺跡は位置する。

旧石器時代　本市東部の小林市との境であり分水嶺でもある八幡ヶ丘遺跡で、二次堆積シラスの上層の茶褐色土層から、安山岩製のナイフ形石器が出土している[1]。内牧遺跡に北接する標高282mの段丘上に立地する妙見遺跡（消滅）（２）では、ナイフ形石器14点、台形石器２点、角錐状石器２点、細石刃核４点、細石刃13点の計35点が出土している[2]。また、当遺跡群から西北西約4.5km、標高739mの矢岳山からカルデラ壁へのびる、尾根鞍部から頂部に広がる標高650mに位置する矢岳第４遺跡では、黒曜石の原石・石核・細石刃核・細石刃・削器・剥片、ホルンフェルスの二次加工のある剥片・剥片、サヌカイト系・珪質岩・チャートではチャート製石鏃のほか剥片類が、縄文土器２片とともに道路壁面からの断面採集、崩落土や壁上にはねあげられた掘削土から採集されている[3]。

縄文時代　早期は、小木原遺跡群久見追Ｂ地区で押型文土器が数点出土し[4]、妙見遺跡では、集石遺構が14基のほか、塞ノ神・平椿・手向山式などの縄文早期の土器が大量に出土している[5]。

前期・中期の確実な遺構は検出されていないが、前期の轟式や曽畑式土器が内小野遺跡（11）で若干出土しており[6]、中期は阿高式土器が出土している。

後期になると、遺跡の数が急激に増加し、上田代遺跡では円形の竪穴住居10基のほか数万点の土器片が出土し[7]、また、役所田遺跡では、廃棄土坑のほか晩期前半にかけて８万点以上の土器片が出土している[8]。

弥生時代　前期は、遺構は未発見であるが、桑田遺跡の遺物包含層から甕[9]、上田代遺跡で、壺型土器[10]、永田原遺跡で抉入柱状片刃石斧[11]が出土している。

中期の遺構も未発見であるが、遺物としては、黒髪式土器が広くみられる。

後期から終末にかけては、二本杉遺跡で日向型間仕切り住居が多数検出され[12]、内小野遺跡（11）でも若干検出されている。また、草刈田遺跡（32）では、方形を基調とする日向型間仕切り住居に加え、円形・楕円形・隅丸方形の竪穴住居も検出されている[13]。

古墳時代　弥生時代から継続する遺跡が多く、内小野遺跡（11）・佐牛野遺跡などの拠点的集落や中・小規模の集落が確認されている。当遺跡群の周辺では、妙見遺跡（２）で竪穴住居が41基

[14]、野久首遺跡（8）で1基[15]、平原遺跡（3）で埋甕が1基[16]検出されている。また、墳墓群は多く、地下式横穴墓群が発見されている。本遺跡群の南約3kmには、灰塚地下式横穴墓群が、南西約2kmには、島内地下式横穴墓群があるが、それを造営した集団の集落は確定できていない。

古代　8～9世紀前半の遺構は発見されていないが、9世紀後半以降は、遺跡数は急激に増加し、低位から高位段丘面上に何らかの痕跡を残している。

中世　古代から継続する集落遺跡が多く存在しており、遺構・遺物は豊富である。また、丘陵突端部には点々と山城が築かれる。本遺跡群の西側の南北に舌状にのびる丘陵の先端部には徳満城（6）が、南東1.2kmには園田城（42）（消滅）がある。また、本遺跡群の北東へ約800mのところには、県指定文化財の彦山の板碑[17]があり、正中2（1325）年、禅教僧宝光が、恩師である蒙古襲来の祈祷僧として活躍した覚然律師の33回忌供養のため建立したものである。付近には彦山寺[18]があったとされる。

註

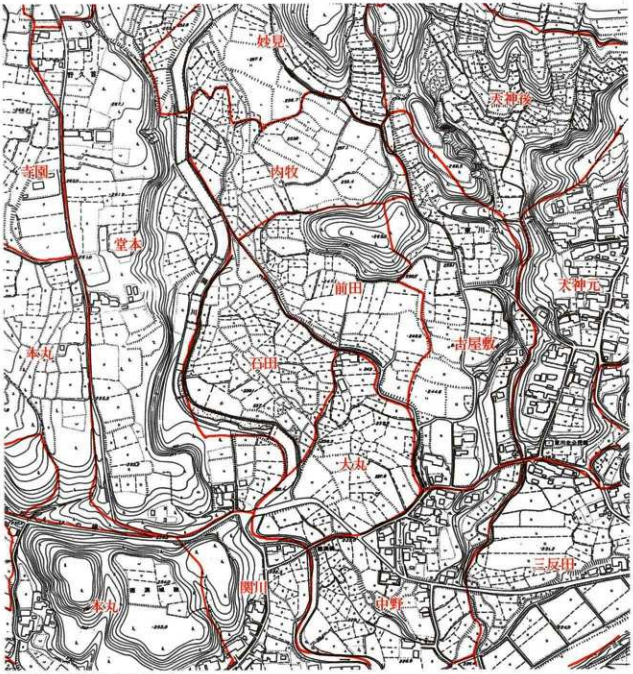
(1)　えびの市郷土史編纂委員会『えびの市史』上巻　1994
(2)　宮崎県教育委員会　『野久首遺跡・平原遺跡・妙見遺跡』　1994　所収
(3)　藤木聡「宮崎県えびの盆地の旧石器」『九州旧石器』第7号　九州旧石器文化研究会　2003
(4)　えびの市教育委員会　『小木原遺跡群、原田・上江遺跡群』　1996　所収
(5)　前出(2)文献所収
(6)　えびの市教育委員会　『内小野遺跡』　2000　所収
(7)　えびの市教育委員会　『田代地区遺跡群・妙見原遺跡』　1997　所収
(8)　えびの市教育委員会　『長江浦地区遺跡群』　2002　所収
(9)　中野和浩「宮崎県えびの市桑田遺跡」『日本考古学年報43』日本考古学協会　1992
(10)　前出(7)文献所収
(11)　前出(7)文献所収
(12)　未報告
(13)　えびの市教育委員会　『草刈田遺跡』　2004　所収
(14)　前出(2)文献所収
(15)　前出(2)文献所収
(16)　前出(2)文献所収
(17)　えびの市郷土史編纂委員会『えびの市史』石塔編　1988
(18)　前出(8)文献所収

第３章　手仕山遺跡

第３章　手仕山遺跡

第１節　はじめに

手仕山遺跡は、えびの市大字東川北字古屋敷・天神元に所在し、標高271mの東西の長さ約166m、東半分の南北の長さが約122m、西半分は約63mと東側が広く、西へすぼまっていく独立丘陵上に立地する。周辺の水田との比高差は、北は13～18m、東は14m、南は22～25m、西は15～21mを測る。調査は、丘陵のほぼ中央の標高271mの頂部から西へ約60m、北東へ約50m、幅約12～28mで広がる緩斜面および平坦面を西からⅠ～Ⅵ区に分け、重機で表土からⅢ層までを剥いで、Ⅳ層から作業員を投入し、平成12年５月10日から同年11月９日まで実施した。



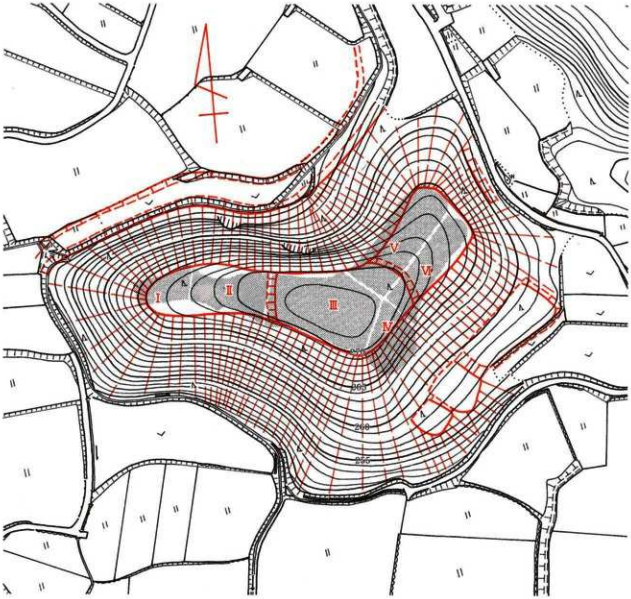
第１図　字境図（1：5,000）

県文化課の試掘調査の結果を受け、調査当初は縄文時代の集落遺跡と思っていたが、調査中に堀切と犬走り状遺構が検出された。その結果、中世には山城になったことが判明し、耕地課に提供された１／1000地形図を使用して説明する。

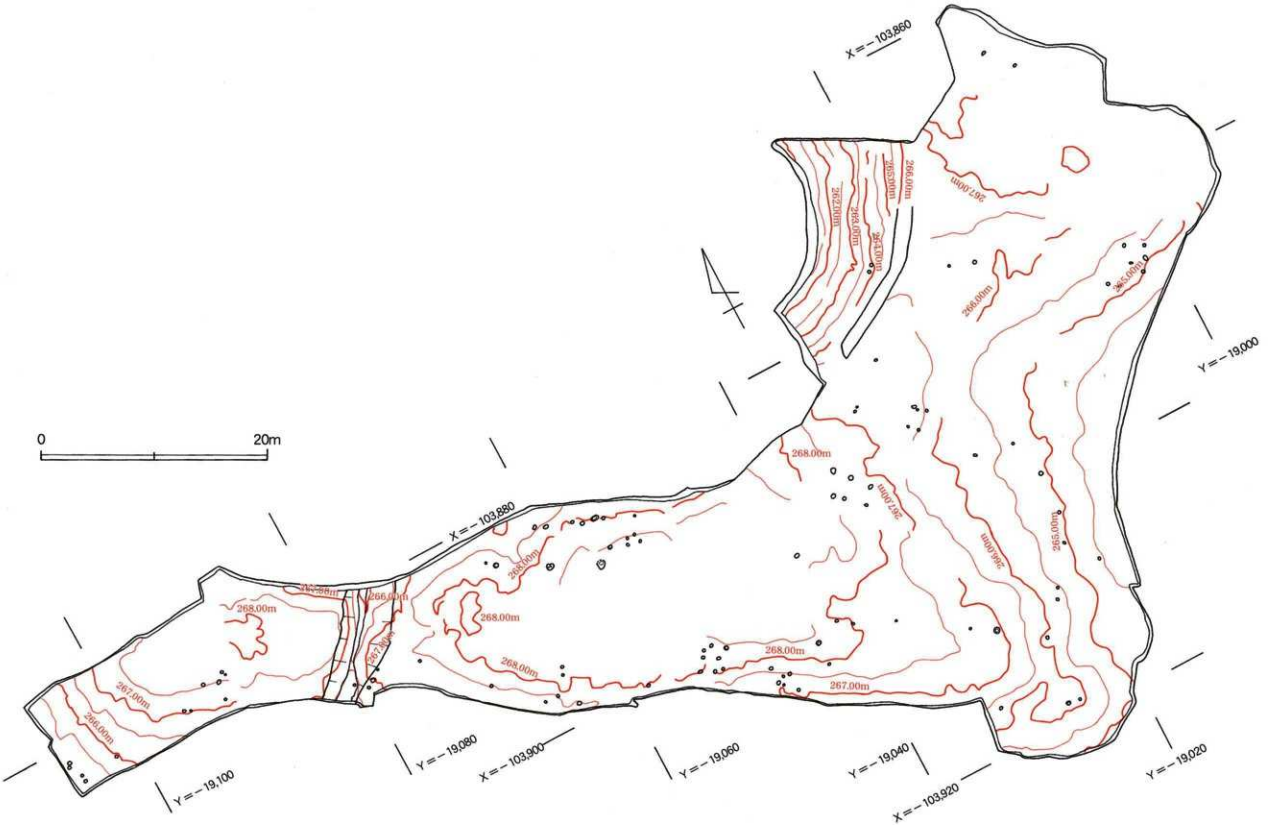
丘陵頂部平坦部は、切岸によって西部・中央部・北東部と３つの曲輪に分かれており、中央部が１段高くなっている。西部は標高266mラインを西端として東へ約40m、幅12～15mで広がり標高は266～270mを測る。中央部は東西約43m、南北幅16～28m、標高は270～271mを測る。北東部は長さ約26m、幅21～25mで台形を呈しており、標高は、265～269mを測る。

また、丘陵の南東斜面の標高256～260m付近には３つの曲輪が存在している。北側は標高256～260m、長さ30m、幅10～14m、中央部は標高256～260m、長さ12m、幅15m、南部は標高256～259m、長さ10m、幅10mである。

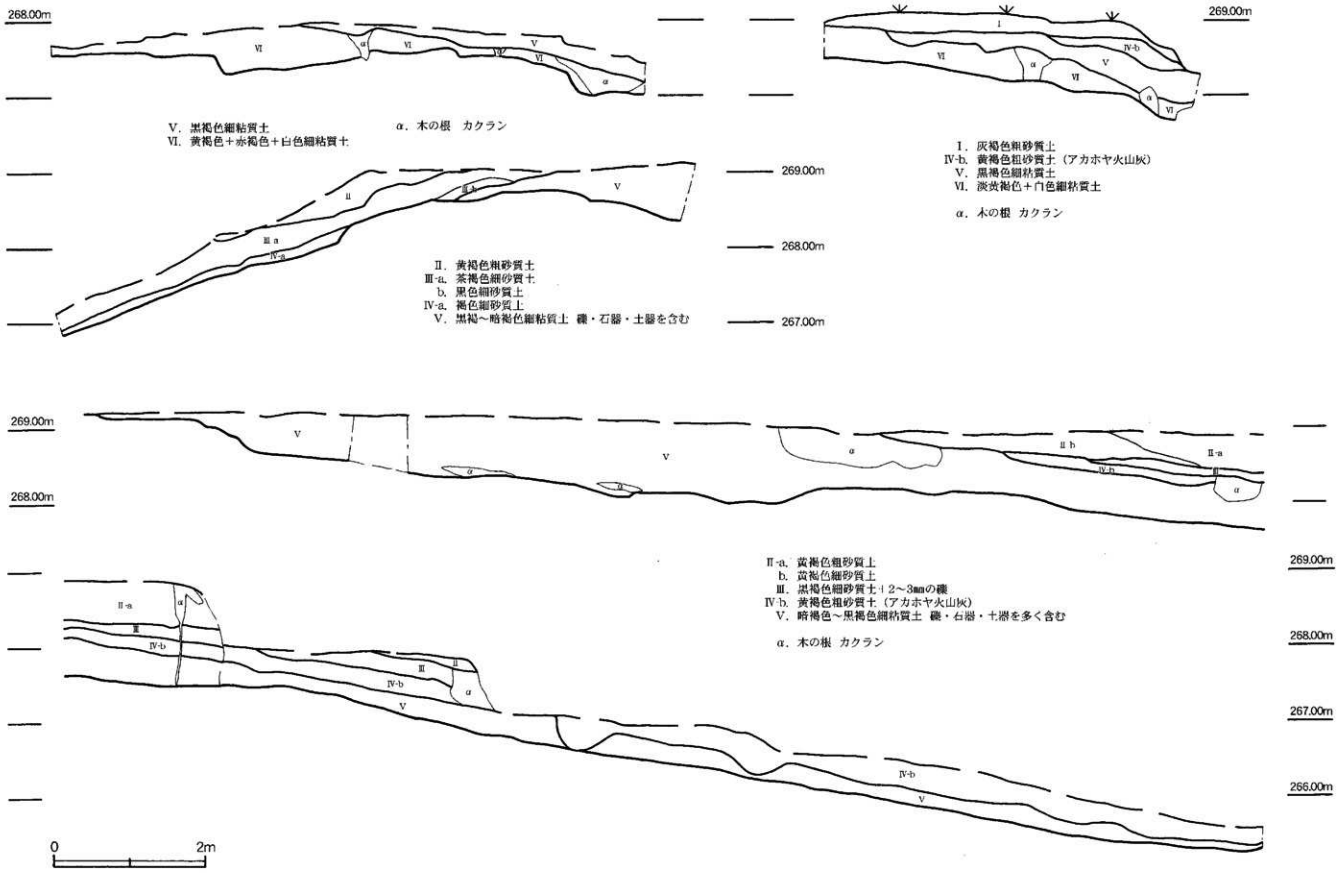
また、北側では、丘陵の北に突出した部分の西斜面の裾端は、隣接する水田よりも約１m低い部



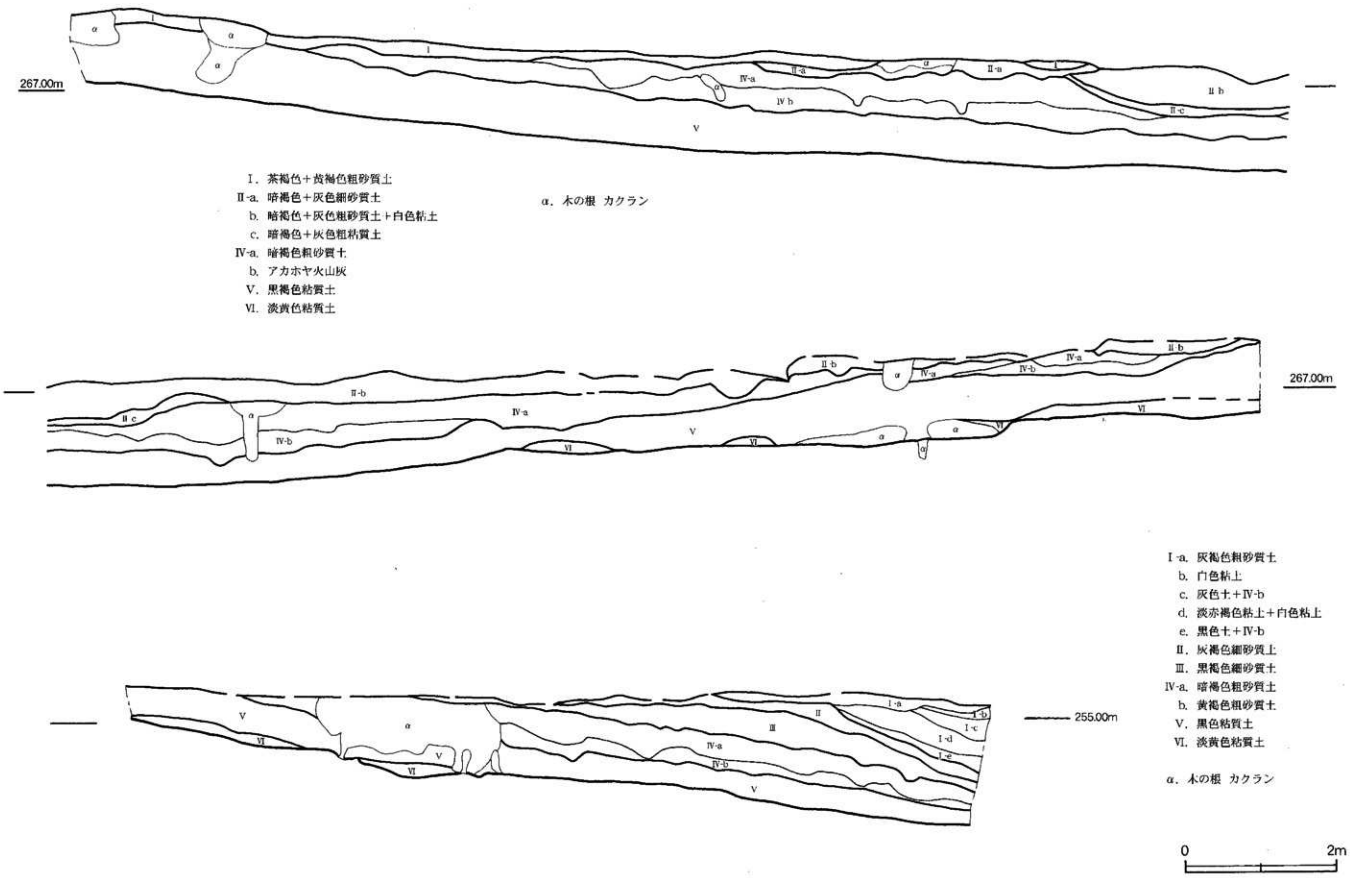
第２図　手仕山城　縄張り図及び地区割図


0
20m
X=-103,860
X=-103,880
X=-103,900
X=-103,920
Y=-19,000
Y=-19,020
Y=-19,040
Y=-19,060
Y=-19,080
Y=-19,100
268.00m
267.00m
266.00m

第３図　遺構全体図



第4図 II～IV区層序実測図



第5図　Ⅴ・Ⅵ区層序実測図

分があり、さらにその西側には、丘陵裾部に隣接・並行する形で、周辺の水田より約１m低い、幅10m、長さ35mの田がみられる。それらを考慮すると、北側には、深さは不明であるが、幅10mで、裾部に沿った形で堀があったと思われる。

第６図　ＳＸ－01実測図

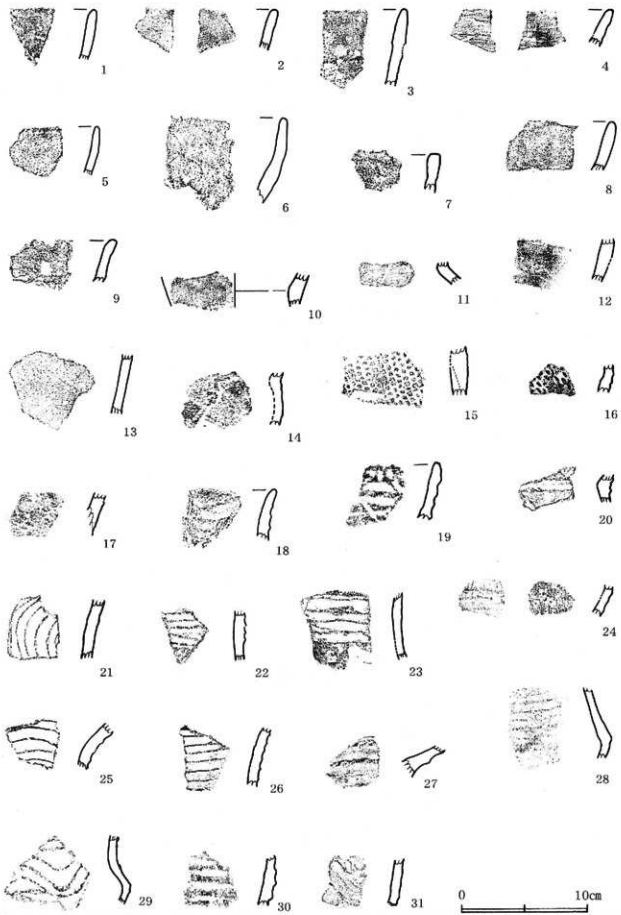
第２節　基本的層序

層序は、上から、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：灰褐色細砂質土、Ⅲ層：黒褐色細砂質土（中世）、Ⅳ層：アカホヤ火山灰層、Ⅴ層：黒色粘質土（縄文時代早期）、Ⅵ層：淡褐色白色粘質土に分別した。Ⅳ層は、a：暗褐色微細砂質土（古墳時代）、b：黄褐色微細砂質土（アカホヤ火山灰）に分けられる。Ⅰ～Ⅲ、Ⅳ区北側、Ⅵ区西部は開墾などによる削平で土層の削失が著しいが、Ⅳ区南部、Ⅴ区、Ⅵ区東部は比較的残りがよく、Ⅴ層はⅣ～Ⅵ区で30～80cm堆積しており、縄文時代早期の遺物を含む。

第３節　遺構と遺物

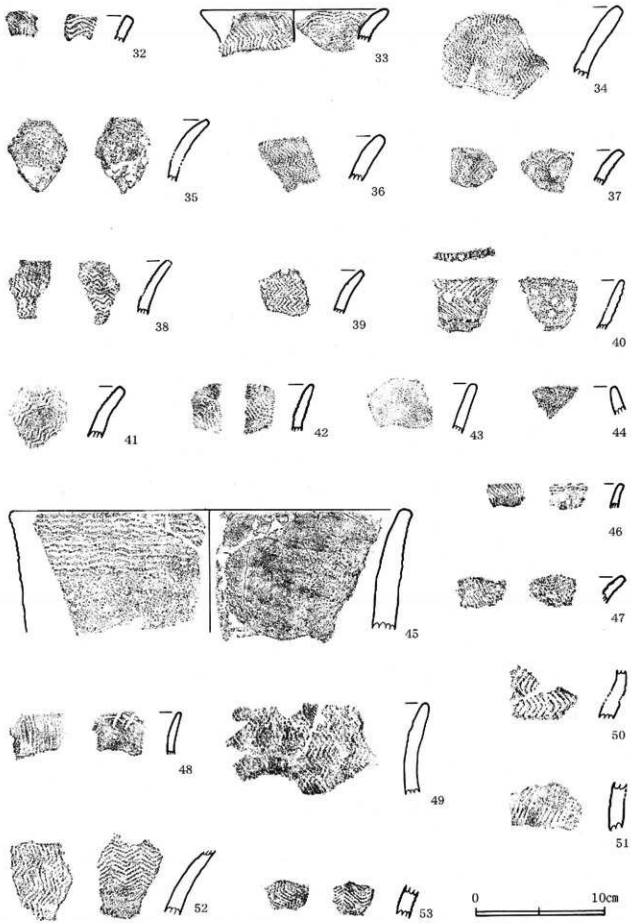
Ⅳｂ層上面とⅥ層上面で遺構検出を行った。Ⅳｂ層上面では遺構は検出されなかったが、Ⅵ層上面で柱穴が数十個と、Ⅱ区の西端から約５mのところに南北に通る堀切と、Ⅵ区平坦面西部傾斜変換線部分に犬走り状遺構を検出したのみである。柱穴は斜面部に若干遺存するが、建物復元は困難である。

南東斜面の平坦面は試掘をした結果、遺構・遺物は発見されなかったため、面的調査をしていな



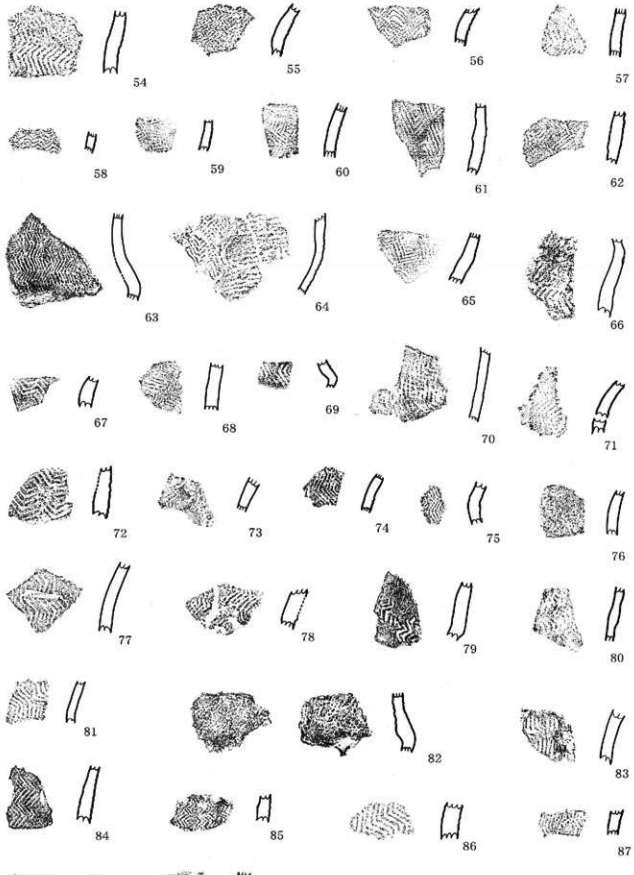
第７図　出土遺物実測図　縄文土器（１）

1～2・8・12～13・18・21～23・25・27・29：SX-01.3～4・6・9・14・19・30～31：Ⅴ層.
5・7・16・26：Ⅳ層.10～11・24・28：Ⅲb層.15：Ⅲ～Ⅴ層.17・20：埋土



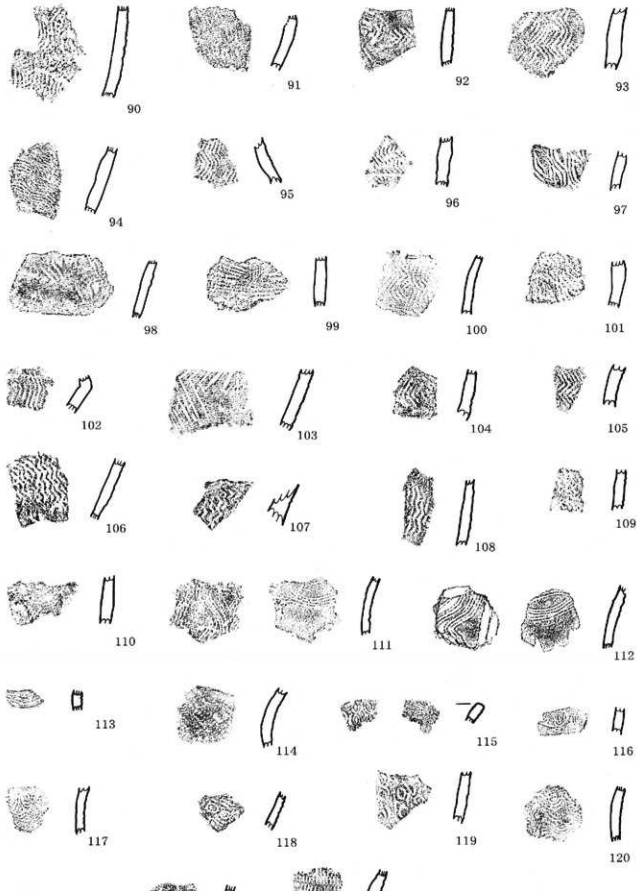
第8図　出土遺物実測図　縄文土器（2）

32・34～35・38・45・47・49～51：V層,33・44・48・53：III b層,36・43：IV層,
37：VI層,39～41：SX 01,42・52：III～V層,46：II～IV層



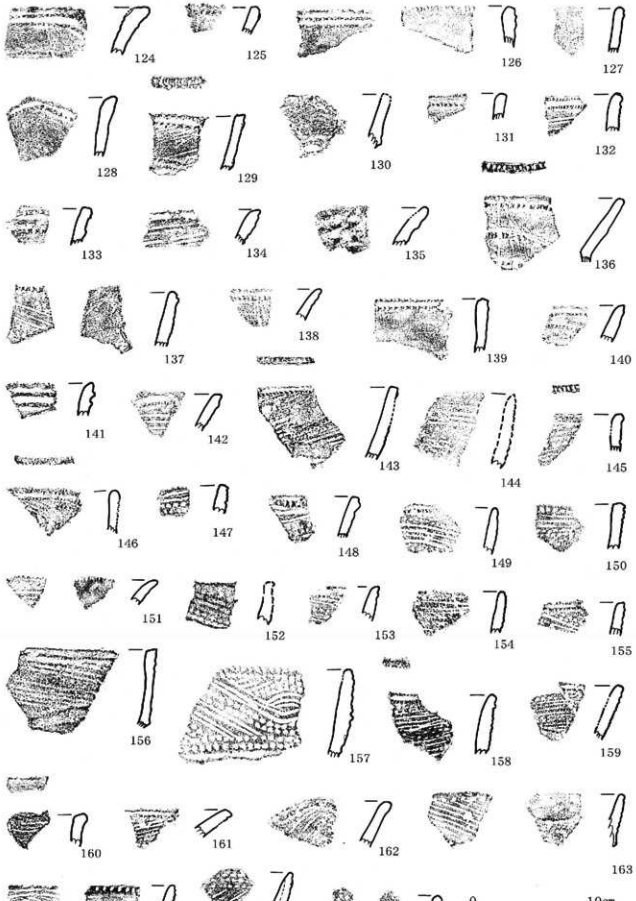
第９図　出土遺物実測図　縄文土器（３）

54～55・59～60・65～66・68・72・75・78・84・86：Ⅴ期,56・58・70・74：Ⅵ網,57・61～62・67・69・77・80～81・83・85・87～88：Ⅳ期,63・64・89：Ⅲb期,71：Ⅱ～Ⅵ期,73：Ⅱ～Ⅵ期,76・79・82：SX02



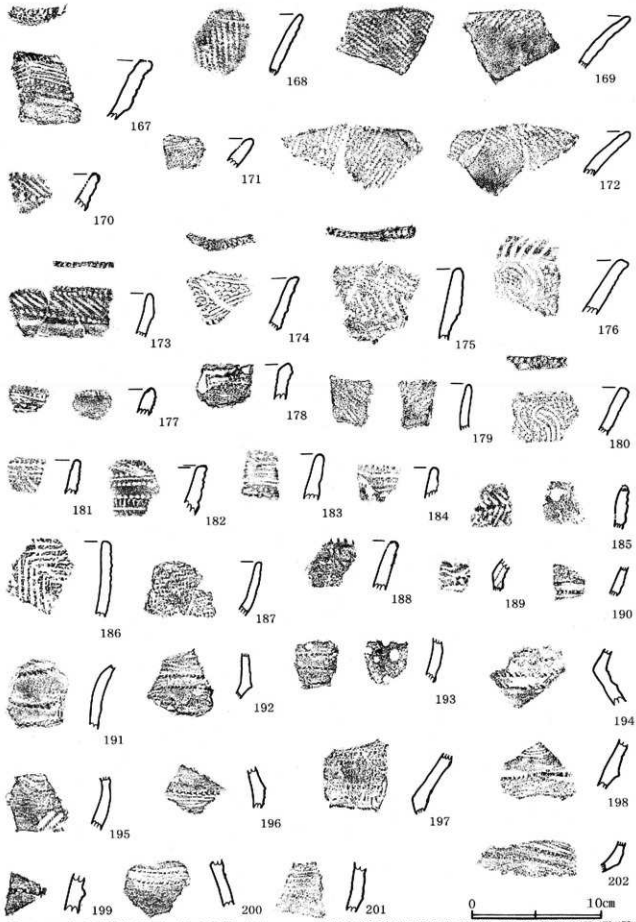
第10図　出土遺物実測図　縄文土器（4）

90・101・106：Ⅱ～Ⅲ層,91・95・97・102・105・109・114・116・119・121・123：Ⅳ層,92・94・98：SX-01,93・100・104・107・110～112・117～118・120：Ⅴ層,96・115・122：Ⅵ層,99：北斜面,103：SX-02,108：Ⅲ～Ⅴ層,113：Ⅰ～Ⅱ層



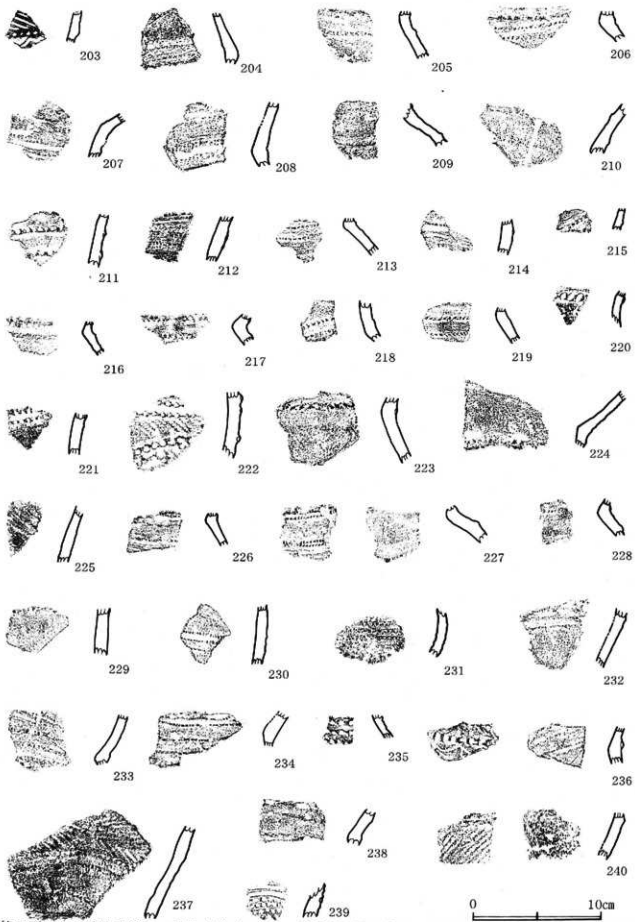
第11図　出土遺物実測図　縄文土器（5）

124～125・131・137・139・141・144・148～149・152・154・160・162：Ⅴ層,126・129～130・132・138・140・147・150～151・153・158：Ⅵ層,127・142・145・161・165～166：Ⅵ層,128・157：Ⅲb層,133・136・146・155・159・163：SX-01,134：Ⅱ～Ⅴ層,135・143・156・164：SX-02



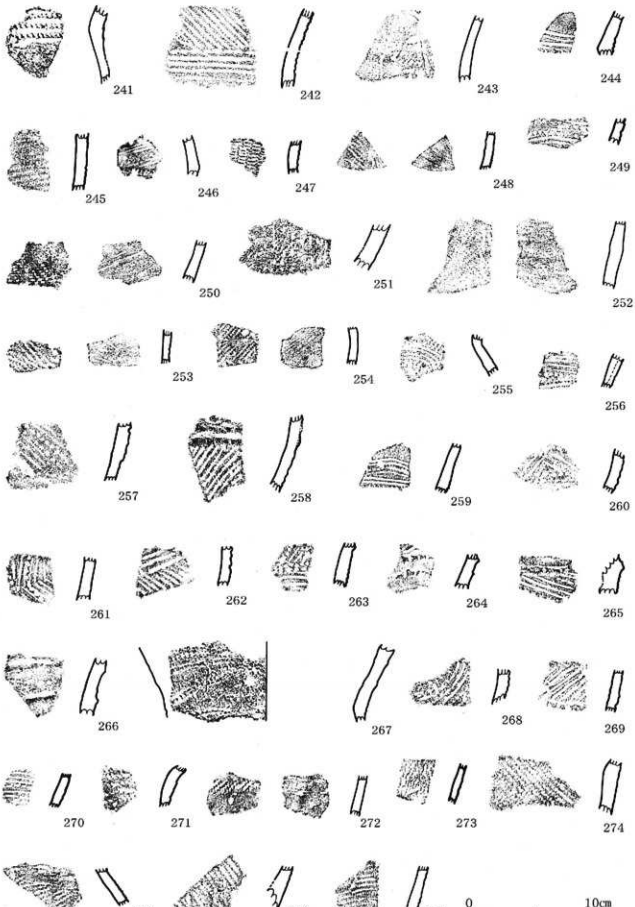
第12図　出土遺物実測図　縄文土器（6）

167・170・193・202：SX-02、168・180・185・188～189・192・195：SX-01、169・172・179：Ⅱb層、171・182：Ⅵ層、173・181・183・186・190～191・194・196・198～201：Ⅳ層、174～175・177～178・184・197：Ⅴ層、176・187：Ⅱ～Ⅴ層



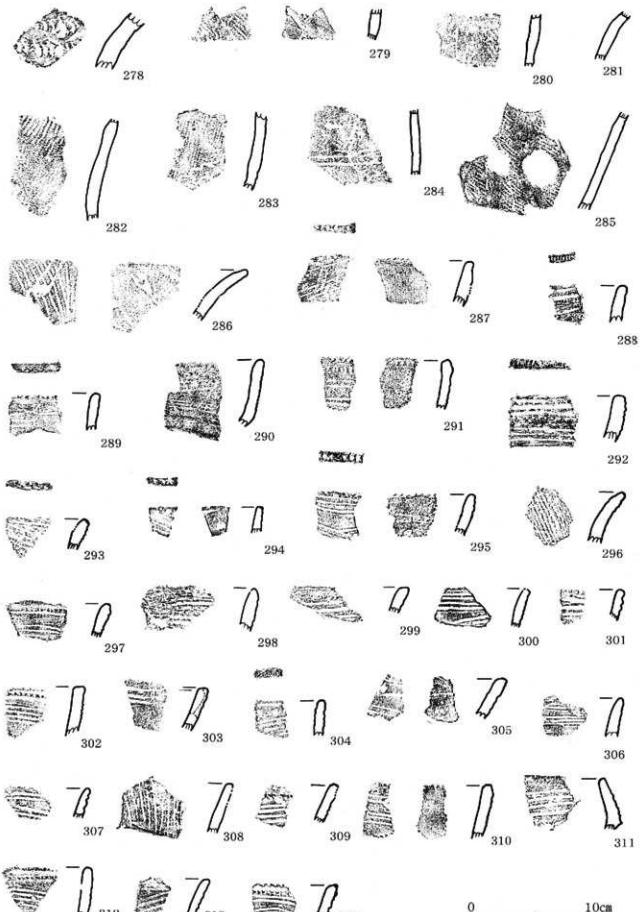
第13図　出土遺物実測図　縄文土器（7）

203・214・217・234：Ⅲb層204～205・207～208・210・212・227～228・231・237～239：Ⅴ層206・211・213・215～216・218・233：Ⅳ層209・225・230・235：Ⅵ層219・224・226・232：SX-02220～222・229・236・240：SX-01223：北斜面



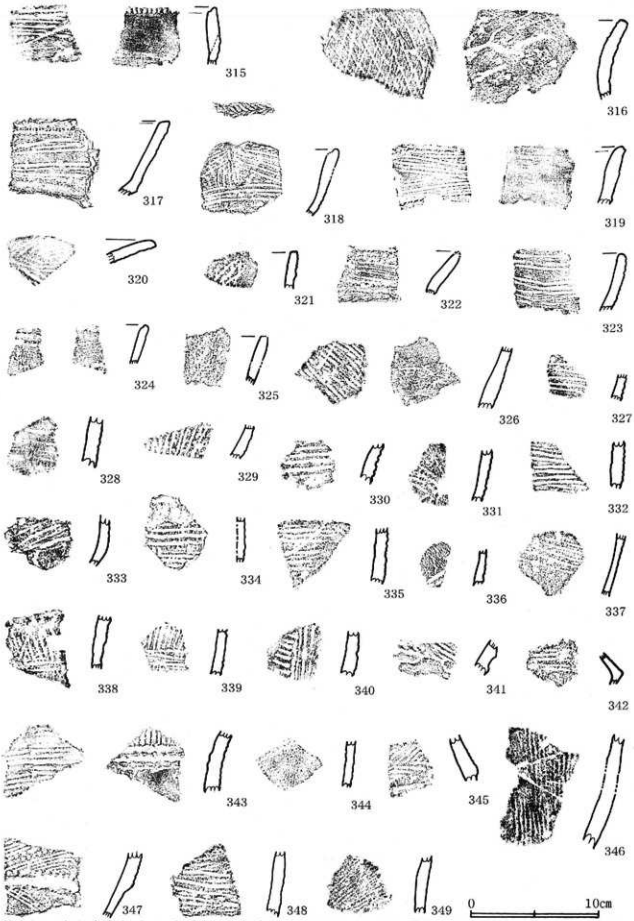
第14図　出土遺物実測図　縄文土器（8）

241：北斜面,242～243・246・260・262・265・267・270：Ⅴ層,244・247～248・253・258・263・271・277：Ⅱ a 層,245・252・259・274：SX 02,249・255・257・261・266・269・273：Ⅳ層,250・275：Ⅲ～Ⅴ層,251：Ⅵ層,254・256・264・268・272・276：SX 02



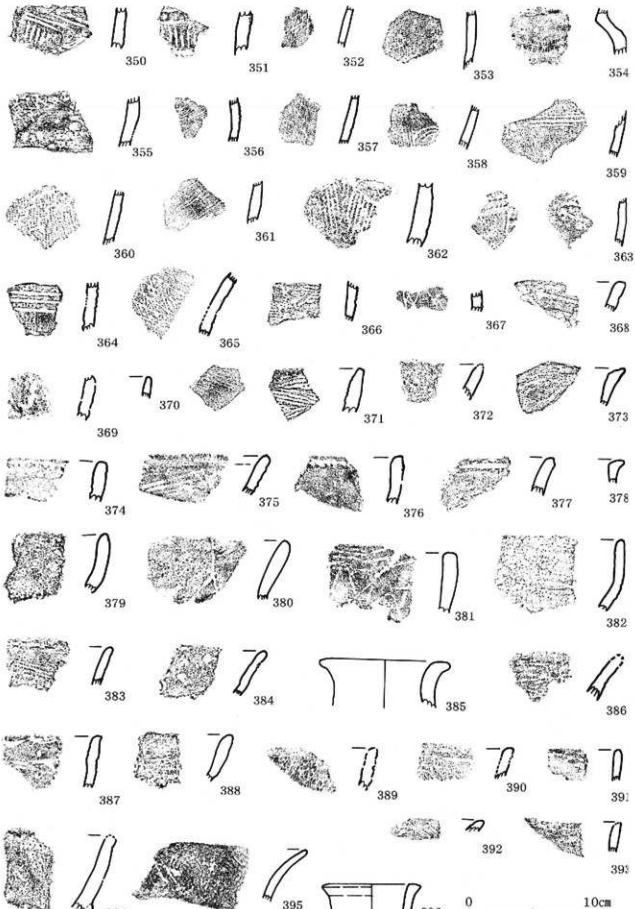
第15図　出土遺物実測図　縄文土器（9）

278～280・286・294：II b層，281・284～285・296・302：SX-01，282・299・308・310・313：SX-02，283・287～288・298・301・311：V層，289～291・295・303～306・309・312：V層，292：北斜面，293・297・300・314：VI層，307：SX-01・VI層



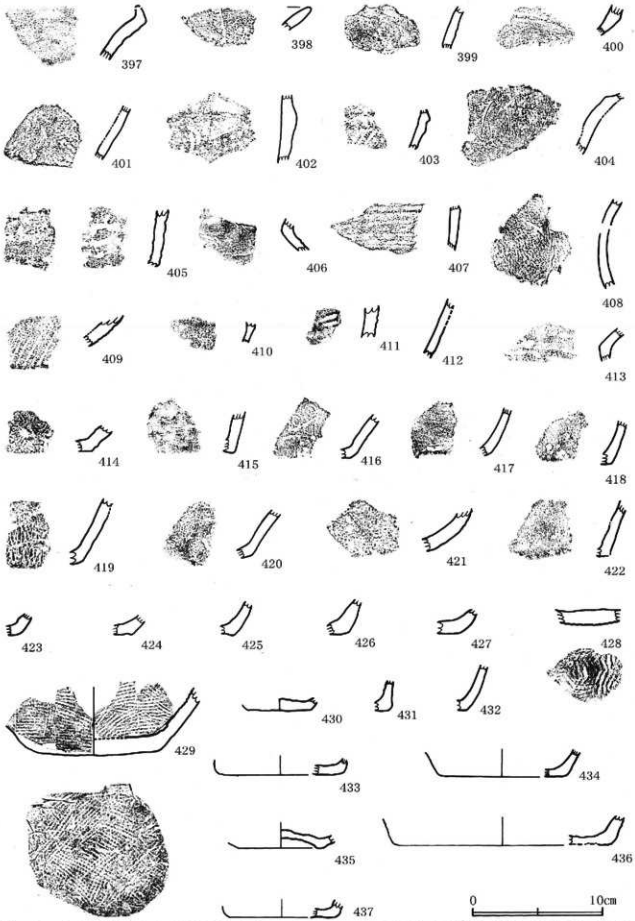
第16図　出土遺物実測図　縄文土器（10）

315・329・336～337：Ⅲ層,316・318～319・322～323・334・347：SX-01,317：SX-02,
320・324・326・328・332・335・339～340・345・348：Ⅳ層,321・330～331・333・342～
344・349：Ⅴ層,325：Ⅵ層,327：SX-01・Ⅵ層,338：Ⅱ～Ⅳ層,341：Ⅲ～Ⅴ層,346：北斜面



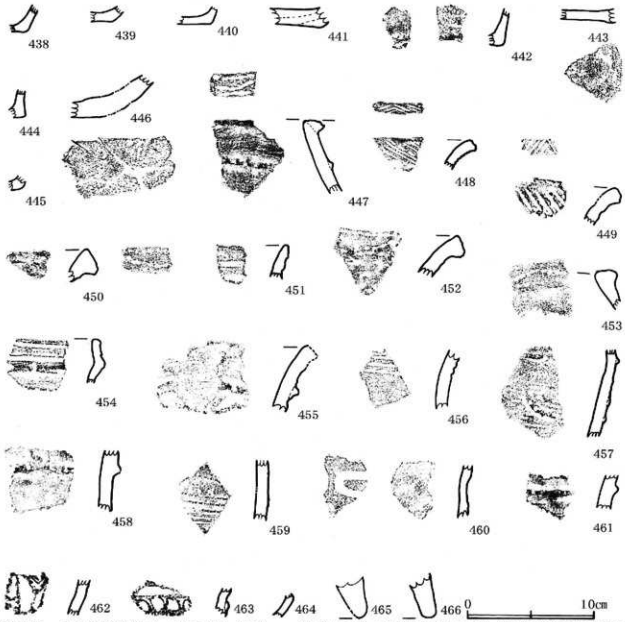
第17図　出土遺物実測図　縄文土器（11）

350～351・361・371・375～376・385・388：Ⅱ層,352～355・360・366・369～370・389・393～395：SX-01,356・367・373・383～384・392：Ⅵ層,357・359・365・368・378・380・394：SX-02,358：Ⅲ～Ⅴ層,362・374・379・381～382・386～387・391・396：Ⅴ層,363～364・372・377：Ⅲb層,390：SX-01・覆砂



第18図　出土遺物実測図　縄文土器（12）

397・400・405・408・412・414・419・432・435～436：Ⅴ層，398～399・401・403～404・406～407・410～411・418・424・437：SX-01，402・413・416・425～426・429・431・433：Ⅳ層，409・415・423・427～428・434：Ⅲb層，417：北斜面，420・430：SX-02，421：Ⅲ～Ⅴ層，422：覆層



第19図　出土遺物実測図　縄文土器（13）　438・440・447・450～451・454・456・459～460・463～464・466：Ⅳ層,439・446・448・453・461：Ⅲb層,441～445・462：SX-01,449・452・455・458：Ⅴ層,457・465：SX-02

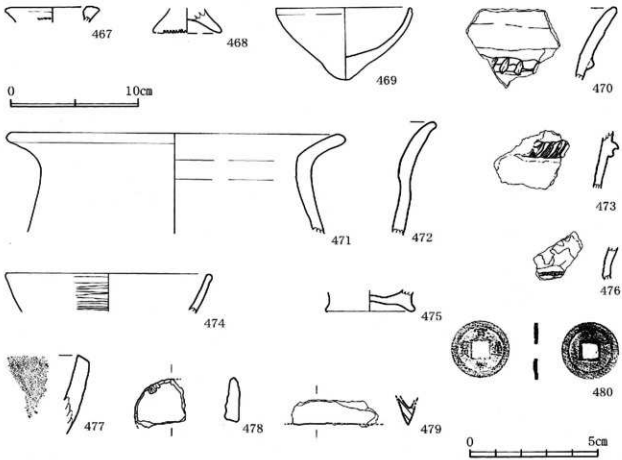
い。

ＳＸ－01（第６図）

Ⅱ区の西端から約５ｍ付近で検出された、幅2.72～5.44m、深さ0.2～1.4mを測り、南が浅く北が深い、断面がＶ字を呈する、南北に通る堀切である。出土遺物は流れ込みであるが、無文土器や手向山式・平椿式・塞ノ神式などの縄文早期の土器片が出土しており、石器は石鏃、石鏃未製品、縦型の先端が直線的で台形を呈する石匙で、刃部中央に抉りが入っているもの（597）や異形石器、石錐、磨石、石核、砥石が出土している。中世の出土遺物はなく、機能した時期は不明である。

犬走り状遺構

Ⅵ区の西部の傾斜変換線部分で検出され、平坦面に沿って北東にのびる。地山削り出しではな



467:Ⅴ層 468～471・473～474・476～477・479:Ⅳ層 472:北斜面 475・480:Ⅲ層 478:Ⅲ～Ⅴ層

第20図　出土遺物実測図　弥生土器・土師器・土製品・鉄器・銅銭

く、Ⅲ層とⅥ層とで造成している。標高は約264～265mで、幅１m、長さ約14mを測る。出土遺物は皆無である。

出土遺物

Ⅳａ・Ⅴ層の遺物包含層の掘り下げを行い、調査区の西半分は、開墾による削平が著しく、遺物の出土量は少なかった。中央から東側にかけてはⅣａ・Ⅴ層の残りがよく、縄文早期の土器が大量に出土している。

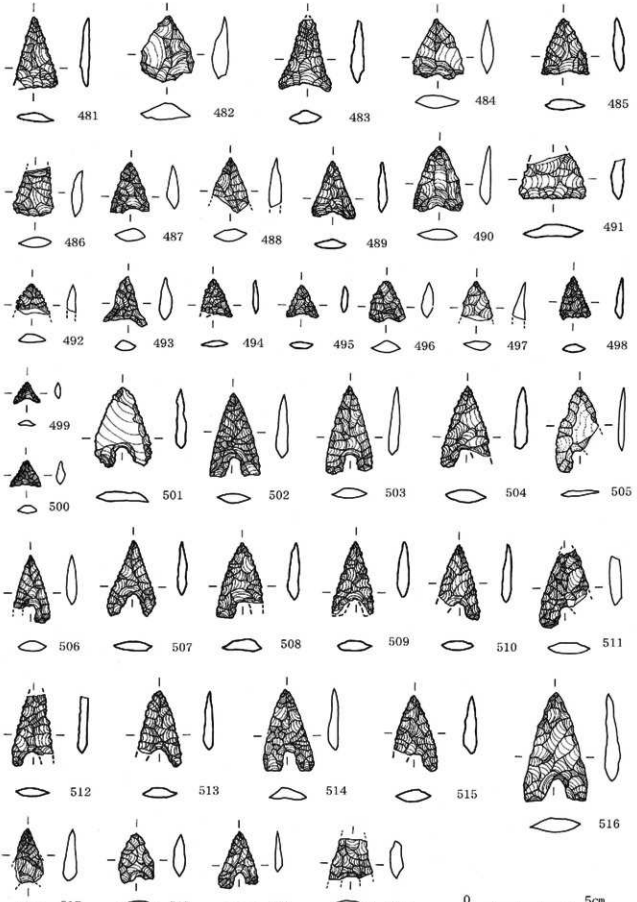
縄文土器は大量に出土しているが、早期のものがほとんどで、中期から晩期のものは少ない。また、破片ばかりで、接合するものは少ない。

１～14は無文土器である。

15～17は押型文土器で、楕円押型文を施している。

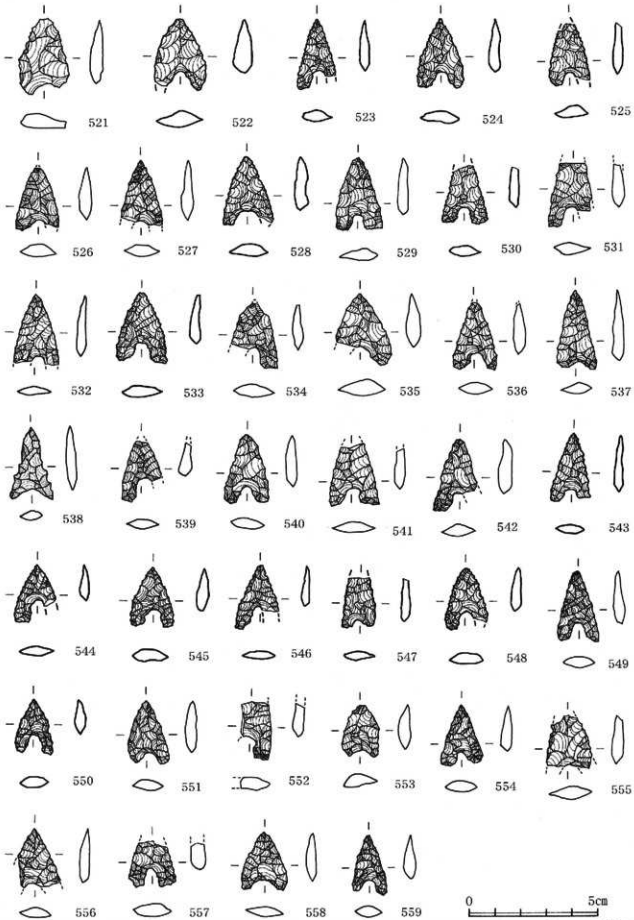
18～123は手向山式土器である。18～31は、口縁部から胴部屈曲部にかけてミミズばれ文を施すものである。32～109は、口縁部から胴部にかけて山形押型文を施すもので、外器面は、文様を縦方向に施すものが多く、横や斜め方向に施すものもみられる。口縁部内器面に山形押型文を横方向に施すものもみられる。115～122は同心円文の押型文を施すものである。

124～285は平栫式土器である。口縁部から頸部の文様は、主に連点文と沈線文によって構成され



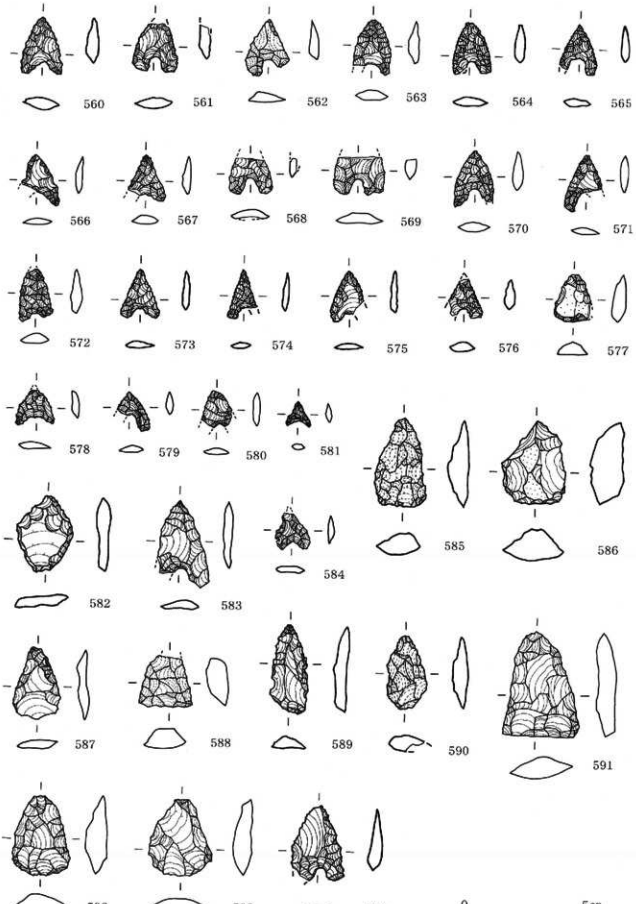
第21図　出土遺物実測図　石器（1）

481～482・484～485・487・489・492・500・504・506～511・513～515・517・519～520：Ⅴ層，483・490～491・493～496・499・503・516・518：Ⅳ層，488：Ⅲ～Ⅴ層，497：SX-02，498：Ⅲb層，501：北斜面，502：SX-01，505：SX-01・Ⅵ層，512：Ⅲ～Ⅳ層



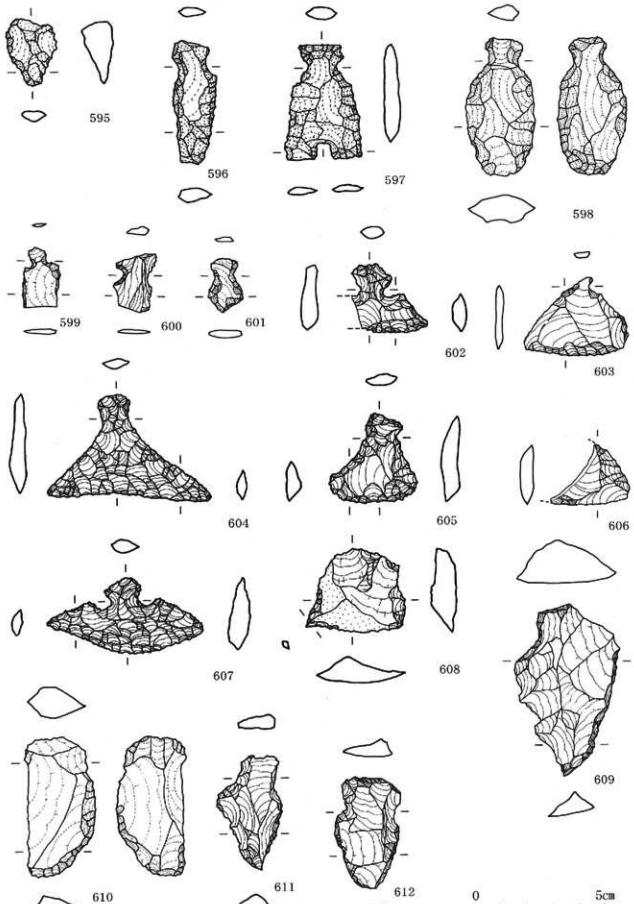
第22図　出土遺物実測図　石器（2）

521・523・526・534・536～538・541・551・553～555・558～559：Ⅳ層,522・540：北斜面,524・529～530・532・535・539・542・544・547～549・552・557：Ⅴ層,525・550：Ⅲb層,527・Ⅱ～Ⅳ層,528・531・533・543・546・556：SX-01,545：SX-02



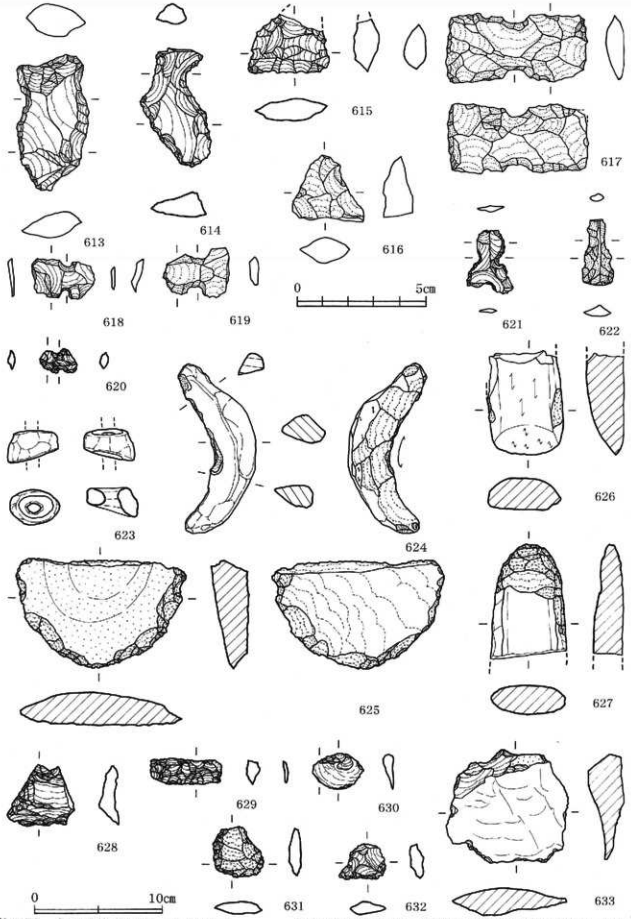
第23図　出土遺物実測図　石器（3）

560·562～566·568～573·575～576·578～581·583·588～589·593～594：Ⅴ層,561·567·574·587·590：Ⅳ層,577·585·591：SX-01,582：Ⅱ～Ⅲ層,584·592：Ⅲb層,586：SX-02



第24図　出土遺物実測図　石器（4）

595・609：Ⅲb層,596～597・607～608・610：SX-01,598～599・602～603・612：Ⅴ層,
600：Ⅱ～Ⅳ層,601：北斜面,604：Ⅳ層,605～606：SX-02,611：Ⅲ～Ⅴ層



第25図　出土遺物実測図　石器（5）

613・618・620～621・630～631：Ⅳ層,614～615・617・619・625・632：Ⅴ層,616：Ⅱ～Ⅲ層,622：SX 01,623：Ⅲ層,624・633：Ⅲ～Ⅴ層,626：Ⅱ～Ⅳ層,627～628：Ⅱb層,629：SX 02

ているものが多く、また、口縁端部や頸部くびれ部に数条の刻目突帯文を巡らすものもみられる。口唇部に連点文を施すものもみられる。

286～367は塞ノ神式土器である。外器面は、ヘラ描きによる条線で縦・横・斜めや交差などの幾何学的な文様が施されている。口唇部に連点文を施すものもみられる。

368～413は縄文早期の土器であるが、判別の困難なものである。

414～446は底部で、平底が多く、上げ底や上げ底気味のものもみられる。

447～464は縄文中期から晩期の土器で、阿高・市来・三万田式などがみられる。

弥生土器は、壷の口縁部と鉢が計3点、土師器は、甕の口縁部と高坏の口縁部、埦の底部が計7点出土しているだけである。また、布痕土器の口縁部、円盤土製品が出土している。

この他、撹乱層から鉄製の鋤先が1点と寛永通宝が1点出土している。

石器は、石鏃が多く出土しており、その中には未製品もみられる。また、石匙も製品・未製品がみられる。そのほか、抉入石器、異形石器、剥片、2次加工のある剥片、大型剥片、スクレイパー、刃器、石斧、凹石、磨石、砥石、台石が出土している。また、凝灰質砂岩製の垂飾品が1点出土している。

第4節　小結

独立丘陵上に立地する手仕山遺跡は、丘陵頂部平坦面の西から中央部北側、北東部の西半分は開墾などによる削失が著しく、また、中央部南側から東部、北東部東側は、比較的残りがよかったが、ほとんど遺構は検出されなかった。

縄文時代は、中央南側から北東部東半分では遺物包含層であるⅣa・Ⅴ層の残りがよく、縄文早期の土器が多く出土しているが、遺構は検出されなかった。土器の型式からすると比較的長い期間の生活活動が行われていたと思われるが、集石遺構などの遺構が皆無であり、削平された部分に遺構があった可能性はあるが、キャンプ地的な性格のものであったと思われる。

弥生時代から古代にかけての遺構は遺存せず、出土遺物も極端に少なくなり、隔絶している時期である。

中世は、堀切や犬走り状遺構等で構成される山城となるが、その他の遺構は後世に削失したと推定され、また、時期を特定できる遺物も出土していない。しかし、本遺跡の南東500mのところに徳満城があることを考慮すると、出城的機能を有していたと思われる。

表1　出土遺物観察表（1）　縄文土器

No	出土地	種別	器種	法量 口径	法量 底径	法量 器高	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	備考
第7図 1	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	粗工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡灰白	淡灰褐	
2	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ (平ミガキ)	良	ややあまい	茶褐～茶灰	暗灰～淡黒灰	
3	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	細砂 細白色粒を含む	やや不良	暗褐～茶褐	暗茶褐	両面:マメツ
4	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–		–	粗工具ナデ	工具ナデ	良	良	暗茶褐	黄褐	
5	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ハケ状工具ナデ	ハケ状工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡橙黄	淡黄～淡灰黄	
6	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂を多く含む	やや良	茶褐	暗茶褐～茶褐	両面:マメツ
7	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ・ナデ消し	砂・黒雲母を含む	やや良	にぶい褐	にぶい灰褐～にぶい橙	外面:マメツ
8	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢		–	–	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	暗茶褐～茶灰	淡橙～暗褐	
9	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–		細砂を含む	やや不良	淡灰茶	淡灰茶	両面:マメツ
10	Ⅲ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	ナデ	微砂少量	良	淡黄褐～淡黄灰	淡灰褐～黄褐	
11	Ⅲ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	ナデ	粗細砂少量	ややあまい	淡黒灰	淡褐	
12	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ～ケズリ状	ミガキ	良	ややあまい	淡橙黄～淡黄	淡灰～淡橙褐	
13	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢		–	–	ナデ	ナデ	粗細砂少量	ややあまい	茶橙	灰～暗灰褐	
14	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂を多く含む	不良	黒褐～黒茶褐	–	外面:マメツ 内面:器面剥離
15	Ⅲ区 Ⅲ～Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	半ミガキ	微細砂やや多い	良	淡橙褐～淡黄褐	淡茶灰	
16	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	–	細砂を含む	やや不良	褐～黄褐	褐～淡茶褐	内面:マメツ
17	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡橙黄	暗褐灰	被熱
18	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂・白色粒を多く含む	やや不良	淡褐	淡褐～淡茶褐	両面:マメツ
19	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂を多く含む	やや不良	褐	–	両面:マメツ
20	Ⅱ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–		–	工具ナデ	工具ナデ	石英・長石粒多量	ややあまい	暗茶褐～暗褐灰	茶～暗茶褐	
21	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	ナデ	粗細砂少量	良	淡橙褐	淡黄褐～淡灰褐	
22	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	丁寧工具ナデ	微細砂微量	良	淡褐	淡黄褐	
23	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	粗細砂 角閃石少量	ややあまい	黄灰～灰褐	暗茶褐～茶褐	
24	Ⅱ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ～ナデ	丁寧ナデ	微細砂やや多い	あまい	暗橙灰～暗橙褐	灰褐～暗灰褐	
25	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ一部粗い	微砂 角閃石少量	良	暗茶褐	淡茶褐～淡橙褐	
26	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–		–	ナデ	ナデ消し	黒雲母を多く含む	やや良	暗黄褐	淡黄褐	
27	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	半ミガキ	良	ややあまい	茶灰～暗茶灰	淡褐	
28	Ⅳ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–		–	–	砂・黒雲母を含む	やや不良	淡茶褐	茶褐	両面:マメツ
29	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ～工具ナデ	粗細砂少量	良	茶灰～褐	茶灰～褐	
30	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–		–	砂を含む	やや良	黄褐	暗黄褐	両面:マメツ
31	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ・粗ミガキ	白色粒を含む	やや良	淡褐～淡白褐	浅黄～暗黄褐	
第8図 32	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	細砂を含む	やや不良	茶褐～暗茶褐	褐～黄褐	手向山式
33	Ⅲ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	143	–	–	ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	黄褐～暗茶灰	暗茶褐～暗茶灰	
34	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	ナデ→ミガキ	砂を含む	やや良	暗褐～黒褐	淡灰褐～淡黄褐	
35	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂を多く含む	やや不良	淡褐～暗褐	淡褐～暗茶褐	手向山式 両面:マメツ 器面剥離
36	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	粗細砂少量	ややあまい	暗茶褐～淡黒褐	淡黄～淡灰褐	両面:マメツ
37	Ⅱ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	細砂微量	良	淡褐	淡黄褐	
38	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ?	ナデ	粗細砂少量	ややあまい	茶灰	橙褐	
39	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	細砂少量	ややあまい	淡橙～橙	淡黄灰	
40	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ?	丁寧ナデ	微細砂 角閃石微量	あまい	茶褐～暗茶褐	暗茶褐～暗灰褐	
41	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡橙褐	暗茶褐～淡黒褐	
42	Ⅲ区 Ⅲ～Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微砂多量	あまい	茶褐～淡黒褐	暗茶褐～黄褐	
43	Ⅳ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	暗灰褐～灰褐	暗茶灰～淡黄灰	
44	Ⅳ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡黄褐	淡灰	
45	Ⅵ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	296	–	–	–	ミガキ	砂・黒雲母を多く含む	やや良	褐～淡茶褐～暗茶褐	橙～淡褐～褐～暗茶褐	外面:マメツ
46	Ⅶ区 Ⅱ～Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ミガキ	微細砂を含む	やや良	暗褐～暗灰褐	褐～暗褐～淡茶褐	
47	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	茶灰	暗茶褐	
48	Ⅲ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	粗ナデ	2～8mm茶褐色粒多量	あまい	茶褐～暗茶褐	暗茶灰～淡黄灰	
49	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂・白色粒を多く含む	やや良	暗茶褐～黒褐	淡灰褐～淡黄褐	
50	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	白色粒・金雲母を多く含む	やや良	暗褐	茶褐	
51	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂・金雲母を多く含む	やや不良	褐～茶褐～暗茶褐	淡黄褐～淡茶褐	手向山式
52	Ⅱ区 Ⅲ～Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡黄灰～淡灰褐	黄褐～淡橙黄	

表2　出土遺物観察表（2）　縄文土器

No	出土地	種類	器種	法量 口径	底径	器高	調整 外面	内面	胎土	焼成	色調 外面	内面	備考
第8図 53	Ⅲ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	細砂少量	良	淡橙	淡橙黄	
第9図 54	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	–	砂・金雲母を多く含む	やや不良	茶褐～暗茶褐	茶褐	内面:マメツ
55	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂・黒雲母を多く含む	やや良	淡黄褐～淡灰褐～暗茶褐	淡黄褐～淡灰黄褐	手向山式
56	Ⅲ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	丁寧工具ナデ	微砂少量	良	暗茶褐	暗褐～茶褐	
57	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ～ミガキ	細砂・黒雲母を含む	やや不良	褐～暗褐	暗褐～黒茶褐	
58	Ⅱ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	横ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡橙褐	茶褐～暗茶褐	
59	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	ミガキ	細砂・金雲母を含む	やや良	褐～灰黄褐	暗褐～灰黄褐	手向山式
60	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	細砂・黒雲母を含む	やや不良	暗褐～淡褐	淡褐～淡黄褐	内面:マメツ
61	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	丁寧ナデ消し	ナデ	細砂・白色粒・金雲母を含む	やや良	褐～暗褐	淡黄褐	
62	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	–	砂・金雲母を多く含む	やや良	褐～暗茶褐	黄褐～灰黄褐	手向山式 内面:マメツ
63	Ⅱ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	粗砂少量	ややあまい	淡黄褐黒斑	淡褐～淡灰褐	
64	Ⅱ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	ミガキ	砂・白色粒を含む	やや良	暗褐～黒褐	暗灰褐～暗褐～淡褐	
65	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	粗粒砂少量	良	淡茶灰～淡茶褐	淡茶灰	
66	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	ナデ	砂・白色粒・金雲母を多く含む	やや不良	茶褐～暗茶褐	にぶい橙～茶	外面:マメツ
67	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	–	微細砂を含む	良	暗灰褐～にぶい褐	灰褐～淡黄褐	内面:マメツ
68	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ミガキ	砂・白色粒を多く含む	やや良	褐	にぶい褐	
69	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–		ナデ	細砂・黒雲母を含む	やや良	暗黄褐～暗茶褐	淡黄褐～黒茶褐	手向山式 外面:マメツ
70	Ⅱ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ミガキ	細砂・黒雲母を含む	やや良	淡茶褐	淡灰褐	
71	Ⅶ区 Ⅱ～Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	ナデ	砂・金雲母を含む	やや良	淡茶褐～淡灰褐	淡茶褐～褐～淡灰褐	手向山式 両面:マメツ
72	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	–	砂・金雲母を多く含む	不良	茶褐～暗褐	茶褐	手向山式 内面:マメツ
73	Ⅲ区 Ⅱ～Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微細砂少量	良	灰褐	淡黄褐	
74	Ⅱ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–		砂を多く含む	やや不良	暗褐～暗灰褐	灰褐～暗灰褐	両面:マメツ
75	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	–	砂・黒雲母を含む	やや不良	暗茶褐～淡茶褐	淡黄褐～暗褐	手向山式 内面:マメツ
76	Ⅱ区 SX-02	縄文土器	深鉢			–	ナデ	ナデ→ミガキ	細砂を含む	やや良	橙～暗褐	淡褐	
77	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂を含む	やや良	暗茶褐～茶褐	黄褐	
78	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂・黒雲母を多く含む	やや不良	灰褐～褐	黄褐～淡灰褐	手向山式 内面:マメツ
79	Ⅲ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	丁寧ナデ	細砂を含む	やや良	淡灰黄褐～暗灰黄褐	淡灰褐	手向山式 内面:マメツ
80	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	ナデ	細砂・黒雲母を含む	やや良	淡黄褐～暗茶褐～淡灰褐	暗灰黄褐～暗茶褐	手向山式 両面:マメツ
81	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ消し	砂・白色粒・金雲母を含む	やや良	暗黄褐	淡黄褐	
82	Ⅱ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂・黒雲母を多く含む	不良	淡褐～暗褐～淡黒褐	淡褐～淡黒褐	両面:マメツ
83	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢			–	ナデ	–	白色粒・金雲母を多く含む	やや不良	茶褐～暗茶褐	茶褐	内面:マメツ
84	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂・金雲母を多く含む	やや良	褐～淡茶褐	褐～淡褐	手向山式
85	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	粗ナデ	細砂を含む	やや良	暗茶褐～灰褐	暗褐	手向山式
86	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂・金雲母を多く含む	やや良	にぶい茶褐	にぶい橙	
87	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ミガキ	細砂含む	やや良	淡暗褐	褐～淡暗褐	
88	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	ナデ→ミガキ	砂を含む	やや良	暗褐	暗灰黄褐	
89	Ⅱ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–		工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡茶褐	淡黄褐	
第10図 90	Ⅰ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢			–	ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良好	淡橙黄～黄褐	淡黄褐～淡黒灰	
91	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	細砂を多く含む	やや不良	暗黄褐～暗茶褐～黒茶褐	淡茶褐～黒茶褐	手向山式 両面:マメツ
92	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	丁寧ナデ～ナデ	細砂・黒雲母を含む	やや不良	淡黄褐～褐	淡黄褐～褐	内面:マメツ
93	Ⅵ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂・金雲母を多く含む	やや不良	暗褐～暗茶褐	淡黄褐～淡茶褐	手向山式 両面:マメツ
94	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	微細砂・角閃石少量	ややあまい	黄褐～橙褐	淡橙黄	
95	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂・黒雲母を含む	やや良	淡黄褐～淡灰黄褐	淡灰黄褐	手向山式 両面:マメツ
96	Ⅱ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	砂を含む	やや良	浅黄	灰褐	
97	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢			–	ナデ	ナデ消し	白色粒を含む	やや良	暗褐	暗褐	
98	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ（＋ミガキ）	工具ナデ	良	良	淡黄～淡黄灰	淡黄	
99	Ⅱ区 北斜面	縄文土器	深鉢	–	–	–	条痕	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡褐	灰褐～淡橙灰	
100	Ⅵ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	–	砂多く含む	やや不良	にぶい茶褐	淡灰黄褐	内面:マメツ
101	Ⅱ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	微細砂・角閃石少量	良	黄褐	黒灰	
102	Ⅳ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	灰褐～淡黄褐	暗灰～淡灰	
103	Ⅱ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂微量	ややあまい	淡黒褐～黄褐	黄褐～淡灰褐	
104	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ消し	ナデ→ナデ消し	粗砂・黒雲母を含む	やや良	暗褐	暗褐	

表3　出土遺物観察表（3）　縄文土器

No	出土地	種類	器種	法量			調整		胎土	焼成	色調		備考
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第10図 105	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	丁寧ナデ	細砂を多く含む	やや良	淡黄褐～淡灰	暗灰黄褐	平向山式 内面:マメツ
106	Ⅱ区 Ⅱb層	縄文土器	深鉢		–	–	ナデ	粗工具ナデ	微砂少量	良	淡黄～灰	灰褐～淡褐	
107	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微細砂少量	良	淡橙褐	淡黄～淡橙	
108	Ⅱ区 Ⅲ～Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	丁寧工具ナデ	細砂微量	ややあまい	淡茶褐	暗茶褐	
109	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ミガキ	細砂を含む	やや良	灰褐～淡褐	灰褐	
110	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂・黒雲母を含む	やや不良	淡黄褐～黄褐	淡黄褐～黄褐	
111	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢		–	–	ナデ	ナデ	砂・赤色粒を含む	やや良	にぶい褐～淡橙	淡橙	
112	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	条痕～ナデ	条痕～ナデ	砂・黒雲母を含む	やや不良	淡褐～淡黄褐	褐～淡黄褐	
113	Ⅲ区 Ⅰ～Ⅱ層	縄文土器	深鉢	–	–		条痕	ナデ	微細砂少量	良	橙褐	淡橙褐	
114	Ⅳ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ・ナデ消し	細砂・白色粒を多く含む	やや不良	にぶい淡黄褐	暗灰黄褐	
115	Ⅱ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢		–	–	ナデ	–	砂・黒雲母を含む	不良	淡茶褐～暗褐	淡褐～淡黄褐	内面:マメツ
116	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微細砂・白色粒を含む	良	黄褐～灰褐	暗茶褐	
117	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ・ナデ消し	細砂を含む	やや良	にぶい黄褐～黒灰褐	淡茶黄褐	
118	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	ナデ	砂を多く含む	不良	褐～茶褐	黄褐～黒褐	
119	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ消し	細砂・黒雲母を含む	やや良	淡灰黄褐	淡灰黄褐～黒褐	
120	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	微細砂多量角閃石少量	ややあまい	橙褐	淡橙～橙灰	
121	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂・黒雲母を含む	やや良	褐～暗褐	黄褐～褐～暗黄褐	平向山式
122	Ⅱ区 SX-01Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–		–	ナデ	工具ナデ	微細砂微量	あまい	暗灰褐～淡茶	暗茶褐～赤橙	
123	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂・黒雲母を含む	やや不良	褐～淡褐	淡黄褐～暗灰褐	内面:マメツ
第11図 124	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂・金雲母を多く含む	やや良	暗茶褐	茶褐	
125	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	細砂多量	ややあまい	茶橙	暗茶褐	
126	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢		–	–	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い雲母微量	良	茶褐～淡灰	茶褐	
127	Ⅲ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ?	ナデ	微細砂少量	ややあまい	茶褐	暗茶褐	
128	Ⅳ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂を含む	やや良	にぶい褐	暗茶褐～褐	両面:マメツ
129	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–		条痕?	ナデ消し	細砂を含む	やや良	淡黄褐	灰黄褐	
130	Ⅳ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	あまい	淡茶褐黒斑	茶橙	
131	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	暗灰	淡灰黄	
132	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢		–	–	ナデ	ナデ消し	微細砂を含む	やや良	暗灰黄褐	暗灰黄褐	
133	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	丁寧工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	暗灰褐～暗茶	淡黒褐	
134	Ⅱ区 Ⅲ～Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	丁寧ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	淡橙茶～茶灰	茶灰	
135	Ⅲ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	ナデ	微細砂少量	あまい	暗茶褐	暗茶褐～黄褐	外面:マメツ
136	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	粗工具ナデ	丁寧ナデ	微砂微量	ややあまい	灰褐～淡灰褐	淡黄灰～淡灰	
137	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ		砂多く含む	やや良	暗褐	暗褐	内面:マメツ
138	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢		–	–	–	ミガキ	細砂を含む	やや不良	暗赤褐	淡赤茶褐	外面:マメツ
139	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	砂・白色粒を含む	やや良	灰褐～灰黒褐	灰白褐	
140	Ⅳ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–		–	ナデ	ナデ	細砂少量	ややあまい	暗灰褐	黄褐～茶灰	
141	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	細砂・黒雲母を含む	やや良	暗褐	淡褐～淡灰褐	
142	Ⅱ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–		工具ナデ	ナデ	微砂石英多量	あまい	暗茶灰	暗茶灰	
143	Ⅲ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	条痕	ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡茶褐～暗茶灰	淡橙～淡茶橙	
144	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂白色粒を多く含む	不良	暗茶褐	茶褐	両面:器面剥離
145	Ⅲ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢		–	–	ナデ	工具ナデ	砂を多く含む	不良	暗褐～淡黒褐	淡灰褐～暗褐～褐	
146	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	丁寧ナデ	微細石英多量	あまい	暗茶褐	暗灰褐	外面剥離
147	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–		–	ナデ	ナデ消し	微細砂を含む	やや良	淡灰～淡黄褐	灰～淡灰褐	
148	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微細砂少量	ややあまい	暗灰褐	淡灰褐	
149	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	ナデ	微細白色粒を含む	やや良	灰～にぶい褐	灰褐～灰	
150	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ミガキ	細砂黒雲母を含む	やや良	褐～茶	褐～淡橙	
151	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ミガキ	細砂・白色粒を含む	やや良	暗褐～茶褐	暗褐	
152	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢		–	–	ナデ	–	砂を多く含む	不良	–	暗褐～暗茶褐	内面:マメツ 両面:器面剥離
153	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ミガキ	微砂・微細白色粒を含む	やや良	灰褐	淡黄褐～灰黄褐	
154	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ消し	微細砂を含む	やや良	灰褐	灰褐～暗黄褐	
155	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	細砂やや多量	良	灰褐～褐	褐	
156	Ⅲ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	粗細砂やや多い	ややあまい	黒褐～茶橙	茶橙～暗茶褐	両面:器面剥離

表4　出土遺物観察表（4）　　縄文土器

No	出土区	種類	器種	法量			調整		胎土	焼成	色調		備考
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第11図 157	Ⅱ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	微石砂やや多い 雲母少量	良	淡灰黄~淡灰褐	淡灰黄~淡灰褐	
158	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微細砂を含む	やや良	淡黄褐	灰褐	
159	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	微細砂少量	あまい	暗灰褐	灰褐~淡灰	両面:マメツ
160	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	丁寧ナデ	細砂を含む	やや不良	淡黄褐~淡灰褐	淡黄褐~淡灰褐	外面:マメツ
161	Ⅲ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢				条痕	丁寧工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	灰~暗褐	淡灰	
162	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	ナデ→ミガキ	砂を含む	やや良	暗褐	暗褐	外面:マメツ
163	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡橙茶	茶灰~暗茶褐	
164	Ⅱ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	丁寧ナデ	微細砂少量	ややあまい	褐~淡褐	褐~黄褐	
165	Ⅲ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	条痕	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡橙褐	淡橙褐~褐	
166	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢				工具ナデ	粗工具ナデ	微砂少量	ややあまい	茶褐~淡黄褐	淡黄褐~淡灰黄	
第12図 167	Ⅲ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	条痕~工具ナデ	ミガキ~工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	灰褐~淡橙茶	灰褐~淡橙茶	
168	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂黒雲母を多く含む	やや不良	暗褐~暗灰黄褐	暗褐~淡黒褐	両面:マメツ
169	Ⅲ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	良	良	淡灰黄~灰褐	淡灰黄~暗灰褐	
170	Ⅲ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微細砂少量	あまい	暗灰褐~暗茶褐	橙黄	
171	Ⅱ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢				条痕	粗ナデ	砂黒雲母を多く含む	やや不良	灰褐~暗黄褐	暗茶褐~暗褐	外面:マメツ
172	Ⅲ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	良	ややあまい	暗灰~淡橙褐	淡黄~淡橙黄	
173	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ミガキ	微細砂 黒色白色粒を含む	やや良	暗茶褐	暗黄褐	
174	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ミガキ	細砂含む	やや良	暗茶褐~黒茶褐	暗茶褐	
175	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	ナデ	砂を含む	やや良	にぶい褐	暗褐~にぶい褐	外面:マメツ
176	Ⅲ区 Ⅱ~Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	細砂多量	良	淡黄~黄褐	淡褐~褐	
177	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微砂やや多い	良	暗茶褐	茶褐	
178	Ⅵ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	粗ナデ	砂を多く含む	不良	暗褐~淡茶褐~暗茶褐	淡褐~暗褐	外面:マメツ
179	Ⅱ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微細砂やや多い	あまい	淡黄灰~灰褐	灰褐~橙黄	
180	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	丁寧ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	淡黄褐	淡茶灰~暗茶褐	
181	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	ナデ	細白色粒を含む	やや良	淡褐~暗茶褐	淡茶褐	外面:マメツ
182	Ⅰ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢		–		ナデ	ナデ	微細砂少量	良	淡黄褐	淡橙黄	
183	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ミガキ	砂白色粒を含む	やや良	にぶい茶褐	にぶい暗茶褐	
184	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微細砂多量	ややあまい	茶褐~褐	茶褐~暗茶褐	
185	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	–	微細砂を含む	やや不良	淡灰褐~淡褐	黄褐~暗褐	内面:マメツ
186	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	–	砂を含む	やや不良	淡灰褐	にぶい灰橙	内面:マメツ
187	Ⅲ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	丁寧ナデ	微細砂少量	あまい	暗灰褐	褐	
188	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	丁寧ナデ	石英微細粒多量	あまい	茶	暗茶褐	
189	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–		–	ナデ?	ミガキ状~ナデ	良	良	茶褐	淡灰褐~茶褐	
190	Ⅳ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	暗茶灰~茶灰	暗灰褐	
191	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ミガキ	–	細砂 黒雲母を含む	やや良	にぶい暗茶褐	茶褐~暗茶褐	内面:マメツ
192	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	ナデ?	石英微粒やや多い	ややあまい	暗茶灰~淡灰黄	暗褐灰	
193	Ⅲ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	細砂少量	ややあまい	暗茶灰	暗茶褐~灰褐	
194	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	細砂を多く含む	やや良	にぶい暗黄褐	暗黄褐	内面:マメツ
195	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–			ナデ	粗ミガキ	微細砂少量	良	暗橙褐~暗灰褐	淡茶灰	
196	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ~条痕	ミガキ	砂少量含む	やや良	暗褐	暗黄褐	
197	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ミガキ	細砂黒雲母を多く含む	やや不良	暗褐~暗黄褐	暗褐~暗黄褐	
198	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	粗砂 黒雲母を含む	やや良	暗黄褐~暗褐~褐	褐~黄褐	両面:マメツ
199	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ミガキ	細砂を含む	やや良	褐~黄褐~暗黄褐	黄褐~淡黄褐	
200	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ミガキ	粗砂 黒雲母を含む	やや良	暗褐	褐~暗褐	
201	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ミガキ	細砂 黒雲母を含む	やや良	淡黄褐	淡褐	
202	Ⅲ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–			ハケ状工具ナデ	ナデ	微砂やや多い	ややあまい	暗茶灰	暗茶褐	317と同一個体
第13図 203	Ⅱ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	粗工具ナデ	良	良	淡橙褐~橙褐	黄褐	
204	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂を多く含む	やや不良	茶褐	褐	
205	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→粗ミガキ	細砂・細白色粒を含む	やや良	灰褐~暗灰褐	淡褐	
206	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ナデ消し	砂を含む	やや良	褐	灰褐	
207	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	茶灰~暗茶褐	淡黄褐	
208	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ナデ消し	細砂 白色粒を含む	やや不良	黒茶褐	暗褐	外面:マメツ

表５　出土遺物観察表（５）　　縄文土器

No	出土地	種類	器種	法量 口径	法量 底径	法量 器高	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	備考
第13図 209	II区 VI層	縄文土器	深鉢	－		－	－		細砂多く含む	やや不良	暗茶褐	茶褐～暗茶褐	両面:マメツ
210	VIII区 V層	縄文土器	深鉢	－	－	－		－	細砂を含む	やや良	褐	褐	両面:マメツ
211	VII区 IV層	縄文土器	深鉢		－	－	ナデ	ミガキ	細砂・黒雲母を含む	やや良	暗褐	暗橙	
212	IV区 V層	縄文土器	深鉢	－		－	ナデ		微細砂少量	ややあまい	淡灰～灰褐	淡橙黄	内面:マメツ
213	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	－	－		ナデ	ナデ	良	良	淡黄褐	淡黄	
214	III区 IIIb層	縄文土器	深鉢	－	－	－	工具ナデ	ナデ	細砂少量	良	暗茶褐	橙褐	
215	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	ミガキ	細砂・灰白色粒を含む	やや良	茶褐	暗茶褐	
216	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢		－	－	ナデ	丁寧ナデ	細砂・白色粒を含む	やや良	淡灰黄褐	暗黄褐	
217	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	－	－	－	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡黄～淡褐	淡橙黄	
218	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	－	－		ナデ	ミガキ	細砂・黒雲母を含む	やや良	暗褐	暗灰褐	
219	III区 SX-02	縄文土器	深鉢	－	－	－	工具ナデ	ミガキ	微細砂微量	良	灰褐～暗灰	黄橙～淡橙褐	
220	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	－	－	－	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	褐	橙黄	
221	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	－	－	－	工具ナデ	ナデ	石英粗砂細粒やや多い	ややあまい	茶	暗茶褐	
222	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	丁寧ナデ	微細砂多量	ややあまい	灰～暗灰	淡橙黄	
223	III区 北斜面	縄文土器	深鉢	－	－		工具ナデ?	ナデ	微細砂やや多い	あまい	暗茶褐	茶褐～淡黒灰	
224	III区 SX-02	縄文土器	深鉢	－	－	－	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	茶黄～茶褐	暗茶褐～淡灰褐	
225	III区 VI層	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	工具ナデ	良	良	橙褐～暗灰褐	淡橙褐～灰褐	
226	II区 SX-02	縄文土器	深鉢		－	－	工具ナデ	丁寧工具ナデ	細砂微量	ややあまい	暗灰～灰褐	淡黄褐～灰褐	
227	VI区 V層	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	ナデ	砂を含む	やや良	褐	暗褐～暗黄褐	
228	IV区 V層	縄文土器	深鉢	－	－	－	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	黄褐～淡橙黄	淡黄褐	
229	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	－	－	－	工具ナデ	ナデ	微細砂微量	良	暗灰褐～淡灰褐	淡橙褐～暗褐	
230	III区 VI層	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	ナデ	細砂を含む	やや不良	褐～橙褐	淡褐～褐	内面:マメツ
231	IV区 V層	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	ナデ	砂を含む	やや不良	淡褐～淡灰	灰褐～淡灰	
232	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	－	－	－	ハケ状工具ナデ	－	粗細砂少量	あまい	橙褐～茶橙	淡黄～淡橙	内面剥落
233	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	－		－	ナデ	丁寧ナデ	粗細砂少量	良	淡黄褐	灰褐～淡黄灰	
234	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	－	－		工具ナデ	丁寧工具ナデ	微細砂少量	良	淡橙褐	橙褐～黄褐	
235	II区 VI層	縄文土器	深鉢	－	－	－	工具ナデ	丁寧工具ナデ	粗細砂微量	ややあまい	暗橙褐	暗茶褐	
236	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	工具ナデ	良	良	暗灰褐～暗橙褐	褐～灰褐	
237	V区 V層	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	－	細砂・黒雲母を含む	やや不良	褐～茶褐～暗褐	褐～茶褐～暗茶褐	両面:マメツ
238	IV区 V層	縄文土器	深鉢		－	－	ナデ	－	砂黒雲母を含む	やや良	暗灰褐～暗褐	暗褐	両面:マメツ
239	II区 V層	縄文土器	深鉢	－		－	ナデ	半ミガキ	微砂少量	良	茶灰	茶褐	
240	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	粗工具ナデ	石英粗細粒少量	ややあまい	黄橙	茶灰	
第14図 241	III区 北斜面	縄文土器	深鉢	－	－		工具ナデ	半ミガキ～工具ナデ	粗細砂多量	良	淡黄褐	淡灰褐	
242	IV区 V層	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	半ミガキ	砂黒雲母を含む	やや不良	褐～黄褐	褐～淡褐	
243	IV区 V層	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	ナデ→ミガキ	細砂を含む	やや良	暗褐	淡黄褐	
244	I区 IIIb層	縄文土器	深鉢	－	－	－	丁寧工具ナデ	丁寧工具ナデ	微細砂やや多い	良	褐～淡茶褐	淡灰褐～淡茶灰	
245	II区 SX-02	縄文土器	深鉢		－	－	ナデ	ナデ	粗細砂微量角閃石少量	ややあまい	淡褐～淡茶褐	暗茶褐	
246	VIII区 V層	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	ミガキ	砂を含む	やや良	暗褐	黄褐	
247	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	－		－	ナデ	工具ナデ	細砂少量	ややあまい	灰褐～暗灰褐	淡黄褐～暗灰	
248	III区 IIIb層	縄文土器	深鉢	－	－		ナデ	工具ナデ(条痕系)	良	良	茶褐	茶灰～淡褐	
249	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	ナデ～半ミガキ	砂黒雲母を含む	やや不良	淡黄褐	淡黄褐～灰褐	
250	II区 III～V層	縄文土器	深鉢	－	－	－	工具ナデ	ケズリ状	微細砂やや多い	良	褐	淡茶褐～灰褐	
251	I区 VI層	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	あまい	橙褐	暗灰褐?	
252	II区 SX-02	縄文土器	深鉢		－	－	ナデ	ナデ	白色粒・金雲母を含む	やや良	灰褐～黒褐	にぶい褐	
253	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	－		－	ナデ	工具ナデ	微砂少量	良	淡黄灰～黄褐	淡黒褐～淡黄灰	
254	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	－	－		ナデ	半ケズリ	良	ややあまい	橙褐～暗褐	暗褐～暗灰褐	272と同一個体
255	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	ナデ→ミガキ	細砂・灰白色粒を含む	やや良	淡灰黄褐	灰黄褐	
256	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	－	－	－	ナデ	工具ナデ	微砂少量	ややあまい	暗茶褐	茶橙～茶褐	
257	VI区 IV層	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	－	砂・白色粒を多く含む	やや良	にぶい褐	淡灰褐	両面:マメツ
258	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢		－	－	工具ナデ	－	微細砂少量	ややあまい	淡橙黄	淡黄褐～茶褐	内面剥落
259	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	－		－	条痕	丁寧工具ナデ	微砂少量	ややあまい	茶褐～暗茶灰	茶灰～茶褐	
260	IV区 V層	縄文土器	深鉢	－	－	－	工具ナデ	半ミガキ	細砂角閃石少量	ややあまい	淡茶褐	淡橙茶	

表6　出土遺物観察表（6）　縄文土器

No	出土地	種類	器種	法量 口径	底径	器高	調整 外面	内面	胎土	焼成	色調 外面	内面	備考
第14図 261	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ミガキ	砂・白色粒 黒雲母を含む	やや良	暗褐～にぶい茶褐	にぶい橙	
262	Ⅷ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢		–	–	ナデ	–	砂を含む	やや良	淡褐	淡褐	内面:マメツ
263	Ⅲ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	あまい	橙褐	暗黄褐	
264	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	細砂微量	ややあまい	茶褐～暗茶褐	淡橙褐～淡黄灰	
265	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ～条痕	–	砂を多く含む	やや不良	明褐～褐	淡褐～橙	内面剥離
266	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢		–	–	–	–	砂を含む	やや良	にぶい黄褐	白～灰～褐	両面:マメツ
267	Ⅴ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–		–	–	丁寧ナデ	砂・黒雲母を多く含む	不良	褐～茶褐～暗茶褐	茶褐～暗茶褐～暗橙	外面:マメツ内面:黒褐色物質付着
268	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	黒褐～茶褐	–	
269	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ミガキ	–	砂を含む	やや良	褐～淡橙	淡黄	内面:マメツ
270	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ→ナデ	細砂微量	良	淡黄褐	暗灰褐	
271	Ⅳ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	丁寧ナデ	細砂を含む	やや不良	淡茶褐～暗褐	淡灰黄褐～暗褐	
272	Ⅱ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–		–	丁寧工具ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	暗茶褐～淡桃黄	暗茶灰	254と同一個体
273	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	ナデ	細砂を含む	やや不良	淡黄褐～淡灰褐	黄褐～淡黄褐	
274	Ⅱ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	あまい	淡橙～茶褐	暗茶灰	
275	Ⅱ区 Ⅲ～Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡灰～淡灰褐	淡茶褐～褐	
276	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	–		細砂多量	ややあまい	暗茶褐～茶褐	灰褐	両面:マメツ
277	Ⅲ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡橙黄	淡橙	
第15図 278	Ⅲ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	ナデ→工具ナデ	粗細砂多量	良	暗茶褐	黄褐	
279	Ⅱ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ケズリ	良	良	淡橙褐～淡黄	暗茶褐	
280	Ⅳ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–		–	砂・白色粒を含む	やや良	褐～暗褐	暗褐	両面:マメツ
281	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	微砂少量	ややあまい	茶橙～暗灰褐	淡橙茶	
282	Ⅲ区 SX-02	縄文土器	深鉢		–	–	ナデ	–	黒雲母を多く含む	やや良	淡黄褐	–	内面マメツ
283	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ナデ消し	白色粒を多く含む	やや良	黄褐	にぶい黄褐	
284	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–		工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	あまい	暗灰褐～暗灰	灰褐～暗灰褐	赤彩?赤紅～紅褐色
285	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	ナデ	粗細砂小礫少量	良	茶灰～暗茶褐	灰～淡橙褐	
286	Ⅱ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	条痕→ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡黄～淡灰	淡黄	
287	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	微砂やや多い	良	淡橙黄	淡橙黄～淡黄褐	
288	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	ナデ→ミガキ	砂を多く含む	やや不良	暗褐～暗茶褐	暗黄褐～暗褐	両面:マメツ
289	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–		–	工具ナデ	–	細砂含む	やや良	淡褐	暗黄褐	内面:マメツ
290	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	細砂を多く含む	やや不良	黄褐～淡黄褐	褐～黄褐～暗茶褐	両面:マメツ
291	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–		–	–	細砂少量	やや良	暗黄茶褐～淡黄褐	淡黄褐	両面:マメツ
292	Ⅱ区 北斜面	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	半ミガキ	粗細砂やや多い	良	茶灰～茶褐	淡茶褐	
293	Ⅱ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	条痕	丁寧工具ナデ	細砂やや多い	ややあまい	茶褐	黄褐	
294	Ⅱ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微砂少量	良	橙褐	暗灰褐	
295	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	淡黄～淡橙	淡黄～淡橙褐	
296	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–		–	ナデ	工具ナデ	微細砂小礫少量	良	茶褐	淡橙～淡灰褐	
297	Ⅱ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	ナデ	微細砂やや多い	良	暗灰褐	黄褐～褐	
298	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂黒雲母を含む	やや良	暗茶褐	淡黄褐	
299	Ⅱ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	丁寧ナデ	粗細砂やや多い	良	暗茶褐～暗茶灰	茶橙～茶灰	
300	Ⅱ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	半ミガキ	微細少量	良	淡茶～淡褐	淡黄灰～淡黄褐	
301	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	微砂多量	ややあまい	茶褐	淡橙～淡茶灰	
302	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	丁寧工具ナデ	丁寧ナデ	微細砂少量	あまい	褐～暗茶褐	灰褐～褐	
303	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢		–	–	ナデ?	ナデ	細砂やや多い	ややあまい	淡黄褐	褐～淡黄灰	
304	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	ナデ→ナデ消し	細砂を多く含む	やや不良	暗黄褐	暗灰黄褐	外面:マメツ
305	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ→ミガキ	粗ナデ	細砂・白色粒を含む	やや良	暗茶褐	にぶい茶褐	
306	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ミガキ	砂を含む	やや良	茶褐～黒褐	褐～茶褐	内面:マメツ
307	Ⅱ区 SX-01Ⅵ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	あまい	茶褐	暗茶褐	313と同一個体
308	Ⅲ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微細砂少量	ややあまい	暗灰褐～暗茶灰	淡灰黄	
309	Ⅳ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢		–	–	ナデ	ミガキ	良	良	淡黄灰～淡灰褐	淡黄灰	
310	Ⅲ区 SX-02	縄文土器	深鉢	–		–	ナデ	ナデ	良	ややあまい	暗茶褐	暗茶褐～暗茶灰	
311	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	半ミガキ	細砂少量	ややあまい	茶橙～淡黄褐	黄灰～黄褐	
312	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	細砂黒雲母白色粒を含む	やや良	暗黄褐	にぶい淡橙	

表7　出土遺物観察表（7）　縄文土器

No	出土地	種類	器種	法量 口径	法量 底径	法量 器高	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	備考
第15図 313	Ⅱ区 SX 02	縄文土器	深鉢	-		-	ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	茶褐~淡褐	黄褐	165と同一個体
314	Ⅲ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微砂少量	良	淡灰褐~灰褐	淡黄褐~灰褐	
第16図 315	Ⅲ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢		-	-	ナデ	ナデ~工具ナデ	微砂やや多い 角閃石少量	良	淡橙褐~橙	灰褐~褐	
316	Ⅱ区 SX 01	縄文土器	深鉢	-		-	ナデ	ナデ	細白色粒砂を含む	やや良	暗茶褐~黒褐	暗茶褐~淡褐	
317	Ⅲ区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	暗灰褐~淡茶褐	淡茶灰~淡黒褐	202と同一個体
318	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	粗工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	暗茶褐~暗橙褐	灰褐~淡褐	
319	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	暗灰	淡灰~淡桃黄	
320	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢			-	ナデ	ミガキ	微細砂 黒雲母を含む	やや良	暗褐~黄褐	明褐~黄褐	内面:マメツ
321	Ⅵ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	-	-		ナデ	-	細砂を含む	やや不良	淡黄褐~褐~淡褐	暗褐~暗黄褐	内面:マメツ
322	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	丁寧ナデ	微細砂少量	ややあまい	茶~茶褐	橙褐	
323	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	暗灰褐	暗灰~淡桃黄	
324	Ⅳ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	粗工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	暗灰褐	灰褐	
325	Ⅱ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢		-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂 角閃石少量	ややあまい	橙黄	淡灰褐~淡茶褐	
326	Ⅳ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	-		-	ナデ	工具ナデ~ケズリ	細砂少量	良	淡黄灰~淡茶褐	褐~暗黄褐	
327	Ⅲ区 SX-01Ⅵ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	丁寧ナデ	微砂少量	ややあまい	淡黒褐~黄褐	淡黄褐~淡黄白	
328	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	ナデ~ナデ消し	白色粒・金雲母砂を多く含む	やや不良	淡茶褐	暗茶褐	外面:マメツ
329	Ⅳ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	工具ナデ	小礫	ややあまい	暗茶褐~淡橙褐	暗灰~淡茶灰	
330	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢		-	-	ナデ	-	砂を含む	やや不良	褐~暗褐	褐~暗褐	内面:マメツ
331	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	-		-	-		細砂 黒雲母を含む	やや不良	橙~淡灰褐	橙~黄褐	内面:マメツ
332	Ⅵ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	-	-		ナデ	ナデ消し	砂・黒雲母を含む	やや良	淡灰橙	淡橙	
333	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	砂を含む	やや不良	淡灰褐~暗褐	淡褐~淡黄褐	内面:マメツ
334	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	粗細砂やや多い	良	橙褐	-	内面:全面剥離
335	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂・白色粒を多く含む	やや良	暗茶褐	暗茶褐	内面:マメツ
336	Ⅱ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	良	良	淡茶褐	黄褐	
337	Ⅱ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	-		-	工具ナデ	工具ナデ	微細砂 角閃石少量	ややあまい	茶褐~灰褐	淡黄灰	
338	Ⅲ区 Ⅱ~Ⅵ層	縄文土器	深鉢	-	-		ナデ	工具ナデ	細砂白色粒含む	やや良	淡黄褐~暗茶褐	灰褐~暗茶褐	
339	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂を含む	やや良	淡黄褐	淡黄褐	
340	Ⅶ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	細砂を含む	やや良	褐	暗黄褐	内面:マメツ
341	Ⅱ区 Ⅲ~Ⅴ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	灰褐~淡灰	淡茶褐	
342	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢		-	-	条痕	-	粗砂を含む	やや不良	暗黄褐~淡黄褐	淡黄褐	内面:マメツ
343	Ⅶ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	条痕~ナデ	砂・黒雲母を含む	やや良	黄褐	淡黄褐~淡灰黄褐	
344	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	-	-		ナデ	-	細砂・白色粒を含む	やや不良	暗褐	淡暗褐	内面:マメツ
345	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂・黒雲母を含む	やや不良	暗茶褐	暗黄褐	内面:マメツ
346	Ⅱ区 北斜面	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	白色粒を少量含む	やや良	橙	淡黄褐	内面:マメツ
347	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	丁寧ナデ	微砂やや多い	良	淡黄灰~褐	淡黒褐~淡橙黄	
348	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	白色粒を多く含む	やや良	暗褐	淡茶褐	内面:マメツ
349	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢		-	-	-	ナデ	砂・黒雲母を多く含む	やや不良	淡黄褐~暗黄褐	淡橙~暗黄褐~淡黄褐	内面:マメツ
第17図 350	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢		-	-	ナデ		砂を含む	やや良	黄褐	黄褐~灰褐	内面:マメツ
351	Ⅷ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	-		-	ナデ	ナデ消し	細砂 白色粒を含む	やや良	淡橙	暗茶褐	
352	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-		ナデ	ナデ	微粗砂を含む	やや良	褐	灰褐	
353	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	細砂微量	良	黒灰(スス)	茶灰~灰褐	
354	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	微細砂少量	ややあまい	暗茶褐~淡黄灰	淡灰~灰褐	
355	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	良	あまい	淡黄褐	淡黄褐	
356	Ⅲ区 Ⅵ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	条痕~スリ消し	微細砂少量	良	暗茶褐	淡灰褐	
357	Ⅱ区 SX 02	縄文土器	深鉢		-	-	ナデ	ナデ	細砂 黒雲母を含む	やや不良	暗褐	淡褐~淡灰黄褐	
358	Ⅲ区 Ⅱ~Ⅴ層	縄文土器	深鉢	-		-	工具ナデ	工具ナデ	微砂・角閃石少量	良好	茶灰~茶褐	茶	
359	Ⅲ区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-		工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	暗茶褐	橙褐	
360	Ⅲ区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	微細砂やや多い	良	暗灰~淡灰黄	暗灰褐	
361	Ⅳ区 Ⅳ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂少量	良	淡黄褐~淡灰褐	淡灰褐~淡黄褐	
362	Ⅳ区 Ⅴ層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ消し	小白色粒を含む	やや良	褐	淡暗黄褐	
363	Ⅳ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢		-	-	ナデ	ナデ	粗細砂少量	良	暗褐~暗黄褐	暗褐~暗灰褐	
364	Ⅲ区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	-	-		ミガキ	工具ナデ	粗砂・角閃石少量	良	褐~淡橙褐	淡橙褐~灰褐	

表8　出土遺物観察表（8）　縄文土器

No	出土地	種類	器種	法量			調整		胎土	焼成	色調		備考
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第17図 365	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	粗粒砂少量	ややあまい	淡黒褐	黄褐	
366	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	丁寧ナデ	砂・金雲母を含む	やや不良	褐～黄褐	黄褐～褐	
367	II区 VI層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	淡褐～茶褐	茶褐	
368	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	細砂やや多い	あまい	暗茶褐	暗灰褐	
369	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	条痕	–	砂を多く含む	不良	暗茶褐～黒茶褐	暗茶褐	内面:マメツ 外面:器面剥離
370	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	微細砂多量 角閃石少量	あまい	暗灰～暗灰褐	暗灰～淡灰褐	内面:マメツ
371	VI区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	条痕→ナデ消し	条痕	白色粒 細砂を含む	やや良	黒褐色	暗褐～暗茶褐	内面黒褐色物質付着
372	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	微細砂多量	ややあまい	茶褐	暗茶褐	両面:器面剥落
373	II区 VI層	縄文土器	深鉢					–	砂多く含む	やや不良	–	褐～茶褐	外面:器面剥離 内面:マメツ
374	IV区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂を多く含む	やや良	淡黄褐	淡黄褐	
375	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	黄褐～暗茶褐	淡黄褐～淡灰	
376	VI区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	–	細砂多く含む	やや良	淡灰～淡灰黄褐	淡黄褐	内面:マメツ
377	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	微砂やや多い	ややあまい	褐～茶灰	橙褐～灰褐	
378	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	工具ナデ	細砂少量	ややあまい	暗茶灰	茶灰～茶	
379	IV区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	ミガキ	砂白色粒を多く含む	やや良	茶褐	淡茶褐	両面:マメツ
380	III区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	ナデ	微砂微量	あまい	橙黄～黄褐	淡灰黄～暗茶灰	
381	VIII区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ消し	砂白色粒を含む	やや良	黄褐	暗黄褐	
382	VIII区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂を含む	やや不良	にぶい茶褐	にぶい茶褐	両面:マメツ
383	II区 VI層	縄文土器	深鉢	–	–	–	条痕?	丁寧工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	茶褐～褐	黄褐	
384	II区 VI層	縄文土器	深鉢			–	ナデ	ナデ	微細砂微量 角閃石少量	あまい	暗灰褐～暗褐	茶褐	
385	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢	100	–	–	–	ナデ	砂を含む	やや良	–	–	外面:マメツ
386	IV区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂を含む	不良	褐～暗褐	褐～淡茶褐	両面:マメツ 外面剥離
387	IV区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂白色粒を含む	やや不良	暗茶褐	淡茶褐	両面:マメツ
388	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–		細砂・微白色粒を含む	やや良	にぶい暗褐	にぶい淡黄褐	両面:マメツ
389	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–		–	砂を多く含む	不良	黄褐	黄褐～淡茶褐	外面:器面剥離 内面:マメツ
390	II区 SX-01VI層	縄文土器	深鉢				工具ナデ?	丁寧ナデ	微細砂多量	あまい	暗茶褐	茶～暗灰褐	
391	IV区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	粗工具ナデ	粗工具ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	黒褐～暗茶褐	茶褐～暗茶褐	
392	III区 VI層	縄文土器	深鉢	–	–	–	丁寧ナデ	工具ナデ	良	良	淡黒褐	黄褐	
393	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	微砂やや多い	あまい	暗茶褐	淡茶褐	両面:器面剥離 402と同一個体か
394	III区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	丁寧ナデ	微細砂やや多い	あまい	明茶褐～淡黒褐	黄灰～淡灰	
395	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	良	あまい	黒褐～暗茶褐	暗灰褐～淡黄褐	
396	IV区 V層	縄文土器	ミニチュア	76	–	–	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	暗茶橙	茶褐	
第18図 397	VIII区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂黒雲母を含む	不良	褐～暗褐～暗茶褐	暗褐～暗茶褐	両面:マメツ
398	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ?	工具ナデ	微砂少量	あまい	橙褐	暗茶灰	
399	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	良	あまい	淡黒褐	茶橙	
400	V区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂を多く含む	不良	暗茶～黒褐	淡茶～茶	外面:マメツ 内面剥離
401	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	淡褐～淡黄褐	暗茶褐～淡褐	
402	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ミガキ	微細砂含む	やや良	淡茶褐	淡褐～黒褐	
403	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂を多く含む	やや不良	暗茶褐	褐～暗茶褐	両面:マメツ
404	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	半ミガキ	ナデ～工具ナデ	粗粒砂少量	ややあまい	明茶褐	淡橙褐	
405	IV区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂を含む	やや良	暗褐	灰褐～淡褐	
406	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	微砂少量	あまい	淡橙	淡灰～淡橙	
407	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	石英微細粒多量	あまい	茶～暗茶褐	茶～茶橙	両面:器面剥離 393と同一個体か
408	VI区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ		細砂・赤色粒を多く含む	不良	淡灰黄褐～暗黄褐～暗茶褐	暗黄褐～暗灰褐	手向山式
409	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	茶褐	淡黄褐	
410	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	細砂・微白色粒を含む	やや良	にぶい褐	淡褐	両面:マメツ
411	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	条痕	ナデ	砂を多く含む	やや不良	暗褐	暗褐	両面:マメツ
412	VIII区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	砂を含む	やや不良	茶褐～淡黄褐	褐～淡黄褐	両面:マメツ
413	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	粗細砂多量	ややあまい	茶灰	淡黄褐	
414	VIII区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	粗ナデ	ナデ	細砂・黒雲母を含む	やや良	褐	灰褐	
415	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	丁寧工具ナデ	ハケ状工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	褐～茶褐	淡黄褐	
416	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ消し	ナデ消し	細砂を含む	良	灰～淡灰黄褐～にぶい褐	灰褐～淡黄褐	

表9　出土遺物観察表（9）　縄文土器・弥生土器

No	出土地	種類	器種	法量 口径	法量 底径	法量 器高	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	備考
第18図 417	III区 北斜面	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	暗茶褐～赤橙	黒褐	
418	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–		工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多量	ややあまい	黄褐	淡灰褐～暗茶褐	
419	VIII区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ消し	ナデ→ナデ消し	細黒雲母を含む	やや良	にぶい黄褐	淡黄褐	
420	III区 SX-02	縄文土器	深鉢		–	–	工具ナデ	丁寧ナデ	細砂少量	あまい	黄橙～暗茶褐	淡黒褐～茶灰	
421	II区 III～V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	暗茶灰～淡黄	淡黄～淡黄灰	
422	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–		工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	褐～淡黄褐	灰橙～橙黄	
423	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	微細砂少量	あまい	茶褐	暗灰～灰褐	両面:マメツ
424	III区 SX-01	縄文土器	深鉢		–	–	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	あまい	茶橙～淡黄褐	淡黄褐	
425	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	細砂 黒雲母を含む	やや不良	–	–	両面:マメツ
426	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢	–		–	–	ナデ	粗白色粒を含む	やや良	にぶい茶褐	にぶい暗茶褐	外面:マメツ
427	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	ナデ→ナデ消し	白色粒を含む	やや良	灰褐	灰褐	外面:マメツ
428	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	丁寧工具ナデ	微細砂やや多い	良	橙褐～淡黄	淡橙褐	
429	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	–	111	–	条痕→ナデ消し	条痕	砂粒 白色粒を含む	やや良	褐～黄褐	褐～暗褐～黒褐	
430	III区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	48	–	ナデ	ナデ	砂を多く含む	不良	茶褐～暗茶褐	黒茶褐～黒褐	両面:マメツ 外面:器面剥離
431	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	–		–	–	–	砂を含む	やや不良	茶褐	茶褐	両面:マメツ
432	VIII区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	ナデ	微細砂を含む	やや不良	–	淡黄褐～淡灰橙	両面:マメツ
433	VI区 IV層	縄文土器	深鉢	–	99		–	粗ナデ	砂黒雲母を多く含む	やや不良	茶褐～暗褐	暗褐～淡黄褐	外面:マメツ 外面剥離
434	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	–	100	–	粗工具ナデ	粗ナデ	良	良	黄褐	暗灰褐	
435	VIII区 V層	縄文土器	深鉢		66	–		ナデ	砂を含む	やや良	–	暗黄褐	外面:マメツ
436	VIII区 V層	縄文土器	深鉢	–	167	–	–	ナデ	微細砂を含む	やや不良	茶褐	にぶい茶褐～にぶい褐	外面:器面剥離
437	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	78	–	工具ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	暗茶褐～茶灰	淡橙茶	
第19図 438	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	ナデ	細砂を含む	やや不良	褐～淡褐	褐～暗褐	外面:マメツ
439	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	粗ナデ	ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	茶褐～茶灰	淡橙褐	
440	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ→ミガキ	ナデ	細砂 細白色粒を含む	やや良	浅黄	灰～灰褐	外面:マメツ
441	III区 SX-01	縄文土器	深鉢		–	–	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	茶橙	褐	
442	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	良	良	淡茶褐	淡灰褐	
443	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–		–	ナデ	工具ナデ	角閃石少量 微細砂やや多い	あまい	橙黄～橙灰	暗茶褐	
444	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	微砂少量	ややあまい	暗茶灰～暗茶褐	淡灰黄	
445	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–		ナデ	工具ナデ	微粒石英多量	ややあまい	淡灰褐	茶褐	
446	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	工具ナデ?	微細砂やや多い	あまい	橙黄～灰褐	淡灰黄	外面:マメツ
447	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	丁寧ナデ	粗細砂微量	ややあまい	淡橙褐	淡黄褐	
448	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢		–	–	ナデ	ミガキ状	微細砂多量	良	淡褐	淡褐～淡灰黄	
449	IV区 V層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	砂・金雲母を含む	やや良	暗褐	暗褐	
450	VI区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	–	–	細砂を含む	やや不良	淡黄褐	淡黄褐	両面:マメツ
451	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	良	良	淡黄褐	淡橙褐	
452	IV区 V層	縄文土器	深鉢	–	–		粗ナデ	丁寧ナデ	微細砂を含む	やや不良	褐～にぶい褐	淡褐	
453	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ	粗細砂少量	あまい	黄褐～淡橙黄	暗黄灰～灰褐	口縁部:マメツ
454	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	細砂小礫少量	良	淡黄褐～淡灰褐	灰褐～淡灰褐	
455	IV区 V層	縄文土器	深鉢		–	–	ナデ	丁寧ナデ	微細砂を含む	やや良	にぶい褐	暗黄褐	
456	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	丁寧ナデ	粗砂を含む	良	にぶい褐	にぶい褐	
457	III区 SX-02	縄文土器	深鉢	–		–	ナデ	粗ナデ→平ミガキ	砂を多く含む	やや不良	暗灰褐～淡赤褐～暗褐	褐～淡褐	
458	IV区 V層	縄文土器	深鉢	–		–	ナデ	丁寧ナデ	砂黒雲母を多く含む	やや不良	褐～淡褐	暗褐～暗黄褐	外面:マメツ
459	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	細砂少量	良	淡橙茶	淡茶橙	
460	V区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ→ナデ消し	砂多く含む	やや良	灰褐	灰褐～黒褐	
461	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	丁寧ナデ	微細砂を含む	やや良	褐	暗褐	
462	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	–	–	–	工具ナデ	工具ナデ	細砂微量	ややあまい	淡黄褐	淡黄褐～褐	
463	V区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ナデ	ナデ消し	細砂多く含む	やや良	灰褐	黒褐	
464	VI区 V層	縄文土器	深鉢	–		–	ミガキ	ミガキ	微細砂を含む	やや良	黒褐	黒茶褐	
465	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	–	–	–	ケズリ～ミガキ	ナデ	砂黒雲母を含む	やや良	褐～暗褐	褐～暗褐	
466	VIII区 IV層	縄文土器	深鉢	–	–	–	ケズリ	ナデ	砂粒 白色粒を含む	やや良	淡褐～褐～黒褐	淡褐～褐～黒褐	
第20図 467	VII区 V層	弥生土器	壺	56	–	–	ナデ	ナデ	細砂を含む	やや良	浅黄	浅黄～灰褐	
468	VIII区 IV層	弥生土器	鉢?		59	–	ナデ→粗ミガキ	ナデ	細砂を含む	良	褐～黒褐	褐	

表10　出土遺物観察表（10）　弥生土器・土師器

No	出土地	種類	器種	法量 口径	法量 底径	法量 器高	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	備考
第20図 469	Ⅶ区 Ⅳ層	弥生土器	鉢	104	–	58	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	細砂・赤・白色粒を含む	やや良	褐～橙	暗褐～黒褐	
470	Ⅵ区 Ⅳ層	土師器	甕	–	–	–	ナデ	ナデ	砂・細白色粒を含む	やや良	暗黄褐～灰黒褐	暗灰褐～暗褐	
471	3Tre Ⅳ層	土師器	甕	250	–	–	–	–	5mm程の砂粒を含む	やや良	淡褐～浅黄～暗褐	淡橙～浅黄	内面:マメツ
472	Ⅲ区 北斜面	土師器	甕	276	–	–	ナデ	ナデ	砂・赤・白色粒を含む	やや良	淡暗褐～灰褐	淡褐～灰褐	
473	Ⅶ区 Ⅳ層	土師器	甕	–	–	–	ナデ	丁寧ナデ	砂・赤・白色粒を含む	やや良	暗褐～灰褐	暗黄褐	
474	Ⅶ区 Ⅳ層	土師器	高坏	152	–	–	ヘラミガキ	ヘラミガキ	細赤色粒少量	良	淡褐	淡褐～白褐	
475	Ⅳ区 Ⅲb層	土師器	埦	–	69	–	–	回転ナデ	細白色粒少量	やや良	淡白褐	淡褐	外面:マメツ
476	Ⅷ区 Ⅳ層	土師器	甕	–	–	–	ナデ	ナデ	微砂を含む	良	暗褐～暗橙	暗灰褐	

表11　出土遺物観察表（11）　土製品

No	出土地	種類	法量(mm) 径	法量(mm) 厚さ	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	備考
第20図 477	3Tre Ⅳ層	布痕土器	–	–	粗ナデ	布目	クサリ礫粗粒やや多い	ややあまい	橙褐～橙	黄褐	
478	Ⅱ区 Ⅲ～Ⅴ層	土器片加工円盤	(34)	10	ナデ	ナデ	細赤・白色粒含む	良	灰褐	橙～暗褐	

表12　出土遺物観察表（12）　鉄器・銅製品

No	出土地	器種	法量(mm) 長さ	法量(mm) 幅	法量(mm) 厚さ	重さ g	材質	備考
第20図 479	Ⅶ区 Ⅳ層	鋤先	(19)	(67)	3～7	–	鉄	
480	Ⅳ区 Ⅲb層	銭貨	22	22	1	–	銅	寛永通寳 初鋳年1624年

表13　出土遺物観察表（13）　石器・石製品

No	出土地	器種	法量(mm) 長さ	法量(mm) 幅	法量(mm) 厚さ	重さ g	石材	備考
第21図 481	Ⅶ区 Ⅴ層	石鏃	(26)	(16)	4	1	チャート	
482	Ⅶ区 Ⅴ層	石鏃未製品	26	21	7	3	チャート	
483	Ⅵ区 Ⅳ層	石鏃	(28)	20	5	2	黒曜石	
484	Ⅵ区 Ⅴ層	石鏃	24	20	5	2	チャート	
485	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	33	19	4	2	チャート	
486	Ⅲ区 Ⅲ～Ⅴ層	石鏃未製品	20	16	4	2	チャート	
487	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	21	20	5	–	チャート	
488	Ⅵ区 Ⅲ層	石鏃	(22)	15	5	1	黒曜石	
489	Ⅵ区 Ⅴ層	石鏃	23	17	4	1	チャート	
490	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃	25	20	4	2	チャート	
491	Ⅵ区 Ⅳ層	石鏃	(18)	26	5	3	チャート	
492	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	(13)	(13)	(4)	1	黒曜石	
493	Ⅶ区 Ⅳ層	石鏃	20	17	5	–	黒曜石	
494	Ⅵ区 Ⅳ層	石鏃	(15)	(12)	2	–	黒曜石	
495	Ⅶ区 Ⅳ層	石鏃	13	13	2	–	チャート	
496	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃	17	14	5	–	黒曜石	
497	Ⅲ区 SX-02	石鏃	(15)	(13)	(5)	1	チャート	
498	Ⅳ区 Ⅲb層	石鏃	17	12	3	–	チャート	
499	Ⅴ区 Ⅳ層	石鏃	8	11	2	–	黒曜石	
500	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	10	13	4	–	黒曜石	
501	Ⅱ区 北斜面	石鏃	32	21	4	3	チャート	
502	Ⅱ区 SX-01	石鏃	33	20	5	2	チャート	
503	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃	35	18	4	2	チャート	
504	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	31	(19)	5	2	チャート	
505	Ⅲ区 SX-01	石鏃	(33)	(16)	2	1	ハリ質安山岩	
506	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	(27)	(14)	5	1	チャート	
第21図 513	Ⅶ区 Ⅴ層	石鏃	(30)	(17)	4	2	チャート	
514	Ⅶ区 Ⅴ層	石鏃	32	20	4	2	チャート	
515	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	(30)	(17)	5	2	チャート	
516	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃	43	25	6	5	チャート	
517	Ⅶ区 Ⅴ層	石鏃	(21)	(11)	6	–	黒曜石	
518	Ⅵ区 Ⅳ層	石鏃未製品	20	14	5	1	チャート	
519	Ⅴ区 Ⅴ層	石鏃	23	16	3	1	チャート	
520	Ⅶ区 Ⅴ層	石鏃	(16)	(17)	6	2	黒曜石	
第22図 521	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃未製品	30	20	5	3	チャート	
522	Ⅱ区 北斜面	石鏃	(28)	(20)	7	2	チャート	
523	Ⅵ区 Ⅳ層	石鏃	(28)	(15)	4	1	チャート	
524	Ⅶ区 Ⅴ層	石鏃	24	18	5	2	チャート	
525	Ⅳ区 Ⅲb層	石鏃	(25)	(16)	4	2	玉髄	
526	Ⅶ区 Ⅳ層	石鏃	(25)	(17)	5	1	黒曜石?	
527	Ⅶ区 Ⅱ～Ⅳ層	石鏃	(26)	(16)	5	2	チャート	
528	Ⅱ区 SX-01	石鏃	(27)	(20)	6	2	チャート	
529	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	29	18	4	2	チャート	
530	Ⅶ区 Ⅴ層	石鏃	(23)	18	4	2	玉髄	
531	Ⅱ区 SX-01	石鏃	(26)	(16)	5	2	チャート	
532	Ⅶ区 Ⅴ層	石鏃	27	17	4	2	チャート	
533	Ⅱ区 SX-01	石鏃	28	20	5	2	チャート	
534	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃	(25)	(18)	5	–	チャート	
535	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	(28)	22	6	2	黒曜石	鋸歯
536	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃	(27)	17	5	2	チャート	
537	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃	31	16	5	2	チャート	
538	Ⅴ区 Ⅳ層	石鏃	28	17	4	1	ハリ質安山岩	

表14　出土遺物観察表（14）　石器・石製品

No	出土地	器種	法量(mm) 長さ	幅	厚さ	重さg	石材	備考
第21図 507	Ⅶ区 Ⅴ層	石鏃	29	19	4	2	チャート	
508	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	(29)	(18)	5	2	チャート	
509	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	(29)	16	5	2	黒曜石	漆黒
510	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	(29)	(16)	4	1	チャート	
511	Ⅴ区 Ⅴ層	石鏃	(31)	(29)	4	2	チャート	
512	Ⅶ区 Ⅱ~Ⅳ層	石鏃	28	16	4	2	チャート	
第22図 545	Ⅲ区 SX-02	石鏃	29	17	5	1	チャート	
546	Ⅲ区 SX-01	石鏃	(25)	(16)	3	-	チャート	
547	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	(20)	13	4	1	チャート	
548	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	(24)	(16)	4	1	チャート	
549	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	28	16	5	2	チャート	
550	Ⅳ区 Ⅲb層	石鏃	22	15	4	1	チャート	
551	Ⅵ区 Ⅳ層	石鏃	25	16	5	2	チャート	
552	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	23	11	5	1	チャート	
553	Ⅶ区 Ⅳ層	石鏃未製品	20	15	5	2	黒曜石	
554	Ⅳ区 Ⅳ層	石鏃	23	16	5	1	チャート	
555	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃	(21)	(18)	5	2	チャート	
556	Ⅱ区 SX-01	石鏃	(23)	(17)	4	1	チャート	
557	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	(19)	18	6	2	黒曜石	
558	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃	23	18	4	1	黒曜石	
559	Ⅳ区 Ⅳ層	石鏃	24	13	5	-	チャート	
第23図 560	Ⅵ区 Ⅴ層	石鏃	23	17	5	2	チャート	
561	Ⅶ区 Ⅳ層	石鏃	(19)	(17)	4	2	チャート	
562	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	23	17	4	1	ハリ質安山岩	
563	Ⅵ区 Ⅴ層	石鏃	(22)	(14)	5	1	黒曜石	
564	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	21	15	4	1	チャート	
565	Ⅶ区 Ⅴ層	石鏃	(20)	(14)	3	-	黒曜石	桑ノ木津留
566	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	20	15	3		チャート	
567	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃	(18)	(15)	4	-	黒曜石	
568	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	(15)	17	3	-	チャート	
569	Ⅵ区 Ⅴ層	石鏃	(15)	20	5	2	チャート	
570	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	22	16	4	1	チャート	[illegible]
571	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	(22)	13	3	1	チャート	
572	Ⅶ区 Ⅴ層	石鏃	(21)	19	4	1	チャート	
573	Ⅴ区 Ⅴ層	石鏃	19	15	3		黒曜石	
574	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃	(19)	(12)	3	-	黒曜石	
575	Ⅶ区 Ⅴ層	石鏃	(20)	(13)	3	-	チャート	
576	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃	(15)	(13)	4		黒曜石	
577	Ⅱ区 SX-01	石鏃未製品	18	(14)	5	1	黒曜石	
578	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	(14)	15	3	-	黒曜石	
579	Ⅴ区 Ⅴ層	石鏃	(16)	(12)	(3)	1	チャート	
580	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	(15)	(12)	3	-	黒曜石	
581	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	9	10	3	-	黒曜石	
582	Ⅶ区 Ⅱ~Ⅲ層	石鏃未製品?	31	22	5	4	チャート	
583	Ⅴ区 Ⅴ層	石鏃未製品	(34)	(20)	3	2	チャート	
584	Ⅳ区 Ⅲb層	石鏃	(14)	14	3	-	チャート	
585	Ⅲ区 SX-01	石鏃未製品	36	20	9	6	ハリ質安山岩	
586	Ⅲ区 SX-02	石鏃未製品	33	25	13	9	チャート	
587	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃未製品	29	19	5	2	チャート	
588	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃未製品	20	21	9	3	安山岩	
589	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃未製品	36	15	6	3	チャート	
590	Ⅷ区 Ⅳ層	石鏃未製品	29	16	7	3	砂質頁岩?	
591	Ⅱ区 SX-01	石鏃未製品	42	30	8	11	チャート	
592	Ⅳ区 Ⅲb層	石鏃未製品	31	23	9	6	チャート	
593	Ⅳ区 Ⅴ層	石鏃未製品	30	25	8	6	チャート	
594	Ⅴ区 Ⅴ層	石鏃未製品	(30)	(21)	6	3	チャート	
第23図 539	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	(24)	(16)	5	1	チャート	
540	Ⅱ区 北斜面	石鏃	27	18	4	2	チャート	
541	Ⅳ区 Ⅳ層	石鏃	(25)	19	4	2	チャート	
542	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	(28)	(17)	5	1	黒曜石	腰岳
543	Ⅲ区 SX-01	石鏃	27	16	4	1	玉髄	
544	Ⅷ区 Ⅴ層	石鏃	(23)	(16)	4	-	チャート	
第24図 595	Ⅱ区 Ⅲb層	石鏃?	28	20	13	5	ハリ質安山岩?	
596	Ⅲ区 SX-0[illegible]	石匙	50	18	6	6	安山岩	
597	Ⅲ区 SX-01	石匙?	45	30	6	10	ハリ質安山岩	
598	Ⅳ区 Ⅴ層	石匙	55	28	11	16	安山岩	
599	Ⅷ区 Ⅴ層	石匙	15	24	2	1	安山岩	
600	Ⅶ区 Ⅱ~Ⅳ層	石匙	17	23	4	1	チャート	
601	Ⅲ区 北斜面	石匙?	12	14	4	1	安山岩	
602	Ⅵ区 Ⅴ層	石匙	27	(30)	7	5	チャート	
603	Ⅳ区 Ⅴ層	石匙	39	32	4	5	チャート	
604	Ⅷ区 Ⅳ層	石匙	43	64	6	11	チャート	
605	Ⅲ区 SX-01	石匙	35	35	7	8	チャート	
606	Ⅱ区 SX-02	石匙	(28)	(29)	5	3	チャート	
607	Ⅲ区 SX-01	石匙	30	61	8	11	チャート	
608	Ⅲ区 SX-01	石匙未製品か石錐	33	39	11	12	チャート	
609	Ⅱ区 Ⅲb層	石匙未製品	68	41	17	35	チャート	
610	Ⅲ区 SX-01	石匙未製品	55	28	12	18	安山岩?	
611	Ⅲ区 Ⅲ~Ⅴ層	石匙未製品	46	26	9	9	チャート	
612	Ⅳ区 Ⅴ層	石匙未製品	44	26	7	8	チャート	
第25図 613	Ⅵ区 Ⅳ層	石匙未製品	29	54	13	19	チャート	
614	Ⅳ区 Ⅴ層	石匙未製品	48	28	10	12	チャート	
615	Ⅴ区 Ⅴ層	石匙未製品?	23	32	10	7	チャート	
616	Ⅷ区 Ⅱ~Ⅲ層	石匙未製品?	27	29	11	7	頁岩?	
617	Ⅵ区 Ⅴ層	異形石器	28	[illegible]	8	15	安山岩	
618	Ⅳ区 Ⅳ層	抉り入り石器	16	25	2		チャート	
619	Ⅳ区 Ⅴ層	抉り入り石器	19	26	4	2	ハリ質安山岩	
620	Ⅵ区 Ⅳ層	抉り入り石器	20	20	7	4	チャート	
621	Ⅳ区 Ⅳ層	異形石器	25	19	3	1	チャート	
622	Ⅲ区 SX-01	異形石器	26	13	5	2	凝灰質	
623	Ⅵ区 Ⅲ層	装飾品	24	40	28	24	加久藤溶結安山岩	
624	Ⅱ区 Ⅲ~Ⅴ層	刃器	133	60	34	112	砂質頁岩	
625	Ⅶ区 Ⅴ層	刃器	85	133	29	388	加久藤溶結安山岩	
636	Ⅷ区 Ⅱ~Ⅳ層	石斧	83	60	30	228	硬砂岩	
627	Ⅳ区 Ⅲb層	石斧	90	61	23	164	砂岩	
628	Ⅳ区 Ⅲb層	剥片	48	54	15	42	チャート	
629	Ⅲ区 SX-02	スクレイパー	21	55	11	19	黒曜石	
630	Ⅵ区 Ⅳ層	スクレイパー	28	41	8	8	チャート	
631	Ⅷ区 Ⅳ層	2次加工のある剥片	41	40	10	19	安山岩	
632	Ⅷ区 Ⅴ層	2次加工のある剥片	29	37	11	10	チャート	
633	Ⅲ区 Ⅲ~Ⅴ層	大形剥片	91	94	29	210	チャート	

第４章　古屋敷遺跡

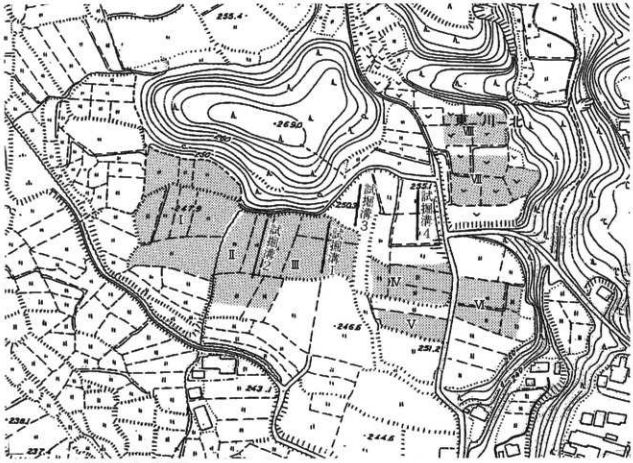
第４章　古屋敷遺跡

第１節　はじめに

古屋敷遺跡は、えびの市大字東川北字古屋敷・天神元に所在し、手仕山遺跡が立地する標高271mの独立丘陵の南部から東部にかけて広がる緩斜面上に位置する。南部は標高246～250mの緩斜面で、東部は南部より一段高い丘陵で、平坦面が南北にのび、標高250～256mで、南部緩斜面との比高差は４～５mを測る。

調査に先立って、南部緩斜面で試掘調査を行い、土層の堆積状況と遺構の有無、遺物の出土状況の確認、重機による上土除去をどの層まで行うかを確認した。

調査は、南部緩斜面から行った。独立丘陵の南側の裾端に沿って西から流れる水路を北端として、南北幅65～75m、その水路は丘陵西端から約65mで南へ向かうが、それを東端として、東西幅50～60m、標高247～250mの部分をⅠ区、水路から東側の丘陵裾端を北端とした、南北幅65m、東西幅40～45m、標高246～248mの部分をⅡ区、Ⅱ区の東側に南北幅30m、東西幅40m、標高247mの部分をⅢ区とした。東部丘陵上は、中央を南北に走る農道の西側に、西へのびる農道から南へ約45mのところを北端として、南北幅26m、東西幅45m、標高252mの部分をⅣ区、その南側の南北幅９～14m、東西幅45m、標高250mの部分をⅤ区とした。東側は、東へ走る農道から南へ約25mのところを北端として、南北幅27～31m、東西幅31m、標高251～252mの部分をⅥ区、農道の北



第１図　地区割図（１：2,500）

側、南北幅30～33m、東西幅37～52m、南半分が15mほど東へ突出した形をした、標高255mの部分をⅦ区、その北側の南北幅14m、東西幅30mの標高256mの部分をⅧ区とした。調査は表土からⅢb層までを重機で除去し、Ⅲc層上面とⅣ層上面で遺構検出を行った。調査期間は、平成12年11月6日から平成13年3月30日までと、平成13年4月6日から同年5月31日まで行った。

第2節　基本的層序

層序は、上から、Ⅰ層：耕作土、Ⅱ層：旧耕作土（灰褐色～黄褐色土）、Ⅲ層：黒灰色～茶褐色土、Ⅳ層：アカホヤ火山灰、Ⅴ層：暗褐色土、Ⅵ層：白色粘質土に分別した。Ⅲ層は、3つに分層でき、a：暗茶褐色土（主として15～16世紀）、b：黒灰色土（主として12～13世紀だが、9～10世紀の遺物も多く含み、一時期土石流となる）、c：茶褐色微砂質土（主として5～6世紀で、縄文後期から10世紀の遺物も多く含む）で、Ⅳ層は、a：淡黄褐色微細砂質土（2次堆積のアカホヤ火山灰）、b：アカホヤ火山灰に分けられる。

第3節　試掘調査

調査に先立って、東部丘陵西側の裾端から約20m西に、南北方向に長さ35m、幅1mで試掘溝1を、南緩斜面の北から南に流れる水路から約20m東に、南北方向に長さ45m、幅1mで試掘溝2を、試掘溝1の北側にある水田の中央部分に南北方向に長さ15m、幅1mで試掘溝3を、その東側の水田の中央に南北方向に長さ25m、幅1mで試掘溝4を設定し、土層の堆積状況、遺物の出土状況の確認と、重機による上土除去をどの層まで行うか検討するため試掘調査を行った。

試掘溝1

Ⅰ層は、10～20cmの厚さがあり、Ⅱ層は灰褐色～黄褐色微細砂質土で25～110cm堆積した旧耕作土や床土・客土である。出土遺物は、土師器・土師質土器・黒色土器・白磁が出土している。Ⅲ層は、灰茶褐色～黒色粘質土で、10～20cm堆積しており、a：暗茶褐色土、b：黒灰色土、c：茶褐色微砂質土に分層される。出土遺物は多く、弥生土器・土師器・土師質土器・黒色土器・白磁が出土している。遺構は柱穴が検出された。

試掘溝2

Ⅰ層は10～30cmの厚さがあり、Ⅱ層は灰色～黄褐色粗砂質土で20～80cm堆積した旧耕作土や床土・客土である。出土遺物は、土師質土器・青磁・白磁・青花・鉄器が出土している。Ⅲ層は、茶褐色～黒色粘質土で、20～30cm堆積しており、a：暗茶褐色土、b：黒灰色土、c：茶褐色微砂質土に分層される。出土遺物は多く、弥生土器、土師器・須恵器・土師質土器・黒色土器・布痕土器・青磁・白磁が出土している。Ⅳ層は暗褐色～黄褐色砂質土で、20～30cm堆積しており、土師器が出土している。遺構は柱穴が検出された。

Y=−19,080
Y=−19,100
Y=−19,120
X=−104,000
X=−103,940
X=−103,960
X=−103,980
0
20m
現代SD
SB-01
SB-02
SB-03
SB-04
SB-05
SB-06
SB-07
SB-08
SB-09
SB-10
SB-11
SB-12
SB-13
SB-14
SB-15
SB-16
SB-17
SB-18
SB-19
SB-20
SB-21
SB-22
SB-23
SB-24
SB-25
SB-26
SB-27
SB-28
SB-29
SB-30
SB-31
SB-32
SB-33
SB-34
SB-35
SB-36
SB-37
SB-38
SB-39
SB-40
SB-41
SB-42
SB-43
SB-44
SB-45
SB-46
SB-47
SB-48
SB-49
SB-50
SB-51
SB-52
SB-53
SB-54
SB-55
SB-56
SB-57
SB-58
SB-59
SB-60
SB-61
SB-62
SB-63
SB-64
SB-65
SB-66
SB-67
SB-68
SB-69
SB-70
SB-71
SB-72
SB-73
SB-74
SB-75
SB-76
SB-77
SB-78
SB-79
SB-80
SB-81
SB-82
SB-83
SB-84
SB-85
SB-86
SB-87
SB-88
SA-01
SA-02
SA-03
SD-01
SD-02
SD-03
SD-04
SD-05
SD-06
SD-07
SD-08
SK-01
SK-02
SK-03
SK-04
SK-05
SK-06
SK-07
SK-08
SK-09
SK-10
SK-11
SK-12
SK-13
SK-14
SK-15
SK-16
SK-17
SK-18
SK-19
SK-20
SK-21
SK-22
SK-23
SK-24
SK-25
SK-26
SK-27
SK-28
SK-29
SK-30
SK-31
SK-32
SK-33
SK-34
SK-35
SK-36
SK-37
SK-38
SK-39
SK-40
SK-41
SK-42
SK-43
SK-44
SK-45
SK-46
SK-47
SK-48
SK-49
SK-50
SK-51
SK-52
SK-53
SK-54
SK-55
SK-56
SK-57
SK-58
SK-59
SK-60
SK-61
SK-62
SK-63
SK-64
SK-65
SK-66
SK-67
SK-68
SK-69
SK-70
SK-71
SK-72
SK-73
SK-74
SK-75
SK-76
SK-77
SK-78
SK-79
SK-80
SK-81
SK-82
SK-83
SK-84
SK-85
SK-86
SK-87
SK-88
SK-89
SK-90
SK-91
SK-92
SK-93
SK-94
SK-95
SK-96
SK-97
SK-98
SK-99
SK-100
SK-101
SK-102
SK-103
SK-104
SK-105
SK-106
SK-107
SK-108
SK-109
SK-110
SK-111
SK-112
SK-113
SK-114
SK-115
SK-116
SK-117
SK-118
SK-119
SK-120
SK-121
SK-122
SK-123
SK-124
SK-125
SK-126
SK-127
SK-128
SK-129
SK-130
SK-131
SK-132
SK-133
SK-134
SK-135
SK-136
SK-137
SK-138
SK-139
SK-140
SK-141
SK-142
SK-143
SK-144
SK-145
SK-146
SK-147
SK-148
SK-149
SK-150
SK-151
SK-152
SK-153
SK-154
SK-155
SK-156
SK-157
SK-158
SK-159
SK-160
SK-161
SK-162
SK-163
SK-164
SK-165
SK-166
SK-167
SK-168
SK-169
SK-170
SK-171
SK-172
SK-173
SK-174
SK-175
SK-176
SK-177
SK-178
SK-179
SK-180
SK-181
SK-182
SK-183
SK-184
SK-185
SK-186
SK-187
SK-188
SK-189
SK-190
SK-191
SK-192
SK-193
SK-194
SK-195
SK-196
SK-197
SK-198
SK-199
SK-200
SK-201
SK-202
SK-203
SK-204
SK-205
SK-206
SK-207
SK-208
SK-209
SK-210
SK-211
SK-212
SK-213
SK-214
SK-215
SK-216
SK-217
SK-218
SK-219
SK-220
SK-221
SK-222
SK-223
SK-224
SK-225
SK-226
SK-227
SK-228
SK-229
SK-230
SK-231
SK-232
SK-233
SK-234
SK-235
SK-236
SK-237
SK-238
SK-239
SK-240
SK-241
SK-242
SK-243
SK-244
SK-245
SK-246
SK-247
SK-248
SK-249
SK-250
SK-251
SK-252
SK-253
SK-254
SK-255
SK-256
SK-257
SK-258
SK-259
SK-260
SK-261
SK-262
SK-263
SK-264
SK-265
SK-266
SK-267
SK-268
SK-269
SK-270
SK-271
SK-272
SK-273
SK-274
SK-275
SK-276
SK-277
SK-278
SK-279
SK-280
SK-281
SK-282
SK-283
SK-284
SK-285
SK-286
SK-287
SK-288
SK-289
SK-290
SK-291
SK-292
SK-293
SK-294
SK-295
SK-296
SK-297
SK-298
SK-299
SK-300
SK-301
SK-302
SK-303
SK-304
SK-305
SK-306
SK-307
SK-308
SK-309
SK-310
SK-311
SK-312
SK-313
SK-314
SK-315
SK-316
SK-317
SK-318
SK-319
SK-320
SK-321
SK-322
SK-323
SK-324
SK-325
SK-326
SK-327
SK-328
SK-329
SK-330
SK-331
SK-332
SK-333
SK-334
SK-335
SK-336
SK-337
SK-338
SK-339
SK-340
SK-341
SK-342
SK-343
SK-344
SK-345
SK-346
SK-347
SK-348
SK-349
SK-350
SK-351
SK-352
SK-353
SK-354
SK-355
SK-356
SK-357
SK-358
SK-359
SK-360
SK-361
SK-362
SK-363
SK-364
SK-365
SK-366
SK-367
SK-368
SK-369
SK-370
SK-371
SK-372
SK-373
SK-374
SK-375
SK-376
SK-377
SK-378
SK-379
SK-380
SK-381
SK-382
SK-383
SK-384
SK-385
SK-386
SK-387
SK-388
SK-389
SK-390
SK-391
SK-392
SK-393
SK-394
SK-395
SK-396
SK-397
SK-398
SK-399
SK-400
SK-401
SK-402
SK-403
SK-404
SK-405
SK-406
SK-407
SK-408
SK-409
SK-410
SK-411
SK-412
SK-413
SK-414
SK-415
SK-416
SK-417
SK-418
SK-419
SK-420
SK-421
SK-422
SK-423
SK-424
SK-425
SK-426
SK-427
SK-428
SK-429
SK-430
SK-431
SK-432
SK-433
SK-434
SK-435
SK-436
SK-437
SK-438
SK-439
SK-440
SK-441
SK-442
SK-443
SK-444
SK-445
SK-446
SK-447
SK-448
SK-449
SK-450
SK-451
SK-452
SK-453
SK-454
SK-455
SK-456
SK-457
SK-458
SK-459
SK-460
SK-461
SK-462
SK-463
SK-464
SK-465
SK-466
SK-467
SK-468
SK-469
SK-470
SK-471
SK-472
SK-473
SK-474
SK-475
SK-476
SK-477
SK-478
SK-479
SK-480
SK-481
SK-482
SK-483
SK-484
SK-485
SK-486
SK-487
SK-488
SK-489
SK-490
SK-491
SK-492
SK-493
SK-494
SK-495
SK-496
SK-497
SK-498
SK-499
SK-500
SK-501
SK-502
SK-503
SK-504
SK-505
SK-506
SK-507
SK-508
SK-509
SK-510
SK-511
SK-512
SK-513
SK-514
SK-515
SK-516
SK-517
SK-518
SK-519
SK-520
SK-521
SK-522
SK-523
SK-524
SK-525
SK-526
SK-527
SK-528
SK-529
SK-530
SK-531
SK-532
SK-533
SK-534
SK-535
SK-536
SK-537
SK-538
SK-539
SK-540
SK-541
SK-542
SK-543
SK-544
SK-545
SK-546
SK-547
SK-548
SK-549
SK-550
SK-551
SK-552
SK-553
SK-554
SK-555
SK-556
SK-557
SK-558
SK-559
SK-560
SK-561
SK-562
SK-563
SK-564
SK-565
SK-566
SK-567
SK-568
SK-569
SK-570
SK-571
SK-572
SK-573
SK-574
SK-575
SK-576
SK-577
SK-578
SK-579
SK-580
SK-581
SK-582
SK-583
SK-584
SK-585
SK-586
SK-587
SK-588
SK-589
SK-590
SK-591
SK-592
SK-593
SK-594
SK-595
SK-596
SK-597
SK-598
SK-599
SK-600
SK-601
SK-602
SK-603
SK-604
SK-605
SK-606
SK-607
SK-608
SK-609
SK-610
SK-611
SK-612
SK-613
SK-614
SK-615
SK-616
SK-617
SK-618
SK-619
SK-620
SK-621
SK-622
SK-623
SK-624
SK-625
SK-626
SK-627
SK-628
SK-629
SK-630
SK-631
SK-632
SK-633
SK-634
SK-635
SK-636
SK-637
SK-638
SK-639
SK-640
SK-641
SK-642
SK-643
SK-644
SK-645
SK-646
SK-647
SK-648
SK-649
SK-650
SK-651
SK-652
SK-653
SK-654
SK-655
SK-656
SK-657
SK-658
SK-659
SK-660
SK-661
SK-662
SK-663
SK-664
SK-665
SK-666
SK-667
SK-668
SK-669
SK-670
SK-671
SK-672
SK-673
SK-674
SK-675
SK-676
SK-677
SK-678
SK-679
SK-680
SK-681
SK-682
SK-683
SK-684
SK-685
SK-686
SK-687
SK-688
SK-689
SK-690
SK-691
SK-692
SK-693
SK-694
SK-695
SK-696
SK-697
SK-698
SK-699
SK-700
SK-701
SK-702
SK-703
SK-704
SK-705
SK-706
SK-707
SK-708
SK-709
SK-710
SK-711
SK-712
SK-713
SK-714
SK-715
SK-716
SK-717
SK-718
SK-719
SK-720
SK-721
SK-722
SK-723
SK-724
SK-725
SK-726
SK-727
SK-728
SK-729
SK-730
SK-731
SK-732
SK-733
SK-734
SK-735
SK-736
SK-737
SK-738
SK-739
SK-740
SK-741
SK-742
SK-743
SK-744
SK-745
SK-746
SK-747
SK-748
SK-749
SK-750
SK-751
SK-752
SK-753
SK-754
SK-755
SK-756
SK-757
SK-758
SK-759
SK-760
SK-761
SK-762
SK-763
SK-764
SK-765
SK-766
SK-767
SK-768
SK-769
SK-770
SK-771
SK-772
SK-773
SK-774
SK-775
SK-776
SK-777
SK-778
SK-779
SK-780
SK-781
SK-782
SK-783
SK-784
SK-785
SK-786
SK-787
SK-788
SK-789
SK-790
SK-791
SK-792
SK-793
SK-794
SK-795
SK-796
SK-797
SK-798
SK-799
SK-800
SK-801
SK-802
SK-803
SK-804
SK-805
SK-806
SK-807
SK-808
SK-809
SK-810
SK-811
SK-812
SK-813
SK-814
SK-815
SK-816
SK-817
SK-818
SK-819
SK-820
SK-821
SK-822
SK-823
SK-824
SK-825
SK-826
SK-827
SK-828
SK-829
SK-830
SK-831
SK-832
SK-833
SK-834
SK-835
SK-836
SK-837
SK-838
SK-839
SK-840
SK-841
SK-842
SK-843
SK-844
SK-845
SK-846
SK-847
SK-848
SK-849
SK-850
SK-851
SK-852
SK-853
SK-854
SK-855
SK-856
SK-857
SK-858
SK-859
SK-860
SK-861
SK-862
SK-863
SK-864
SK-865
SK-866
SK-867
SK-868
SK-869
SK-870
SK-871
SK-872
SK-873
SK-874
SK-875
SK-876
SK-877
SK-878
SK-879
SK-880
SK-881
SK-882
SK-883
SK-884
SK-885
SK-886
SK-887
SK-888
SK-889
SK-890
SK-891
SK-892
SK-893
SK-894
SK-895
SK-896
SK-897
SK-898
SK-899
SK-900
SK-901
SK-902
SK-903
SK-904
SK-905
SK-906
SK-907
SK-908
SK-909
SK-910
SK-911
SK-912
SK-913
SK-914
SK-915
SK-916
SK-917
SK-918
SK-919
SK-920
SK-921
SK-922
SK-923
SK-924
SK-925
SK-926
SK-927
SK-928
SK-929
SK-930
SK-931
SK-932
SK-933
SK-934
SK-935
SK-936
SK-937
SK-938
SK-939
SK-940
SK-941
SK-942
SK-943
SK-944
SK-945
SK-946
SK-947
SK-948
SK-949
SK-950
SK-951
SK-952
SK-953
SK-954
SK-955
SK-956
SK-957
SK-958
SK-959
SK-960
SK-961
SK-962
SK-963
SK-964
SK-965
SK-966
SK-967
SK-968
SK-969
SK-970
SK-971
SK-972
SK-973
SK-974
SK-975
SK-976
SK-977
SK-978
SK-979
SK-980
SK-981
SK-982
SK-983
SK-984
SK-985
SK-986
SK-987
SK-988
SK-989
SK-990
SK-991
SK-992
SK-993
SK-994
SK-995
SK-996
SK-997
SK-998
SK-999
SK-1000

第2図　Ⅰ区　遺構全体図

試掘溝３

Ⅰ層は、10～20cmの厚さがあり、Ⅱ層は、灰褐色～黄褐色微細砂質土で、20～60cm堆積した旧耕作土や床土・客土である。Ⅲ層は、灰茶褐色～黒色粘質土で20～30cm堆積しており、ａ：暗茶褐色土、ｂ：黒灰色土、ｃ：茶褐色微砂質土に分層される。遺物は、須恵器・布痕土器・鉄器・青磁・白磁が出土している。遺構は検出されなかった。

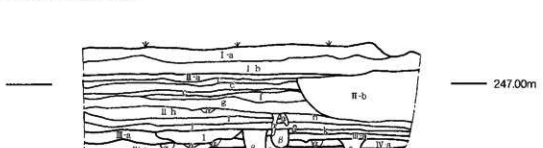
試掘溝４

Ⅰ層は10～20cmの厚さがあり、Ⅱ層は、30～40cm堆積しており、灰褐色～黄褐色粗砂質土で、旧耕作土や床土・客土である。遺物・遺構は検出されなかった。

試掘調査の結果、Ⅲ層から多量の遺物が出土したが、Ⅲ層すべてを調査することは、調査域が広範囲であるため、時間的に無理であると判断し、密度の高い部分以外は表土からⅢｂ層までを重機で除去することとした。

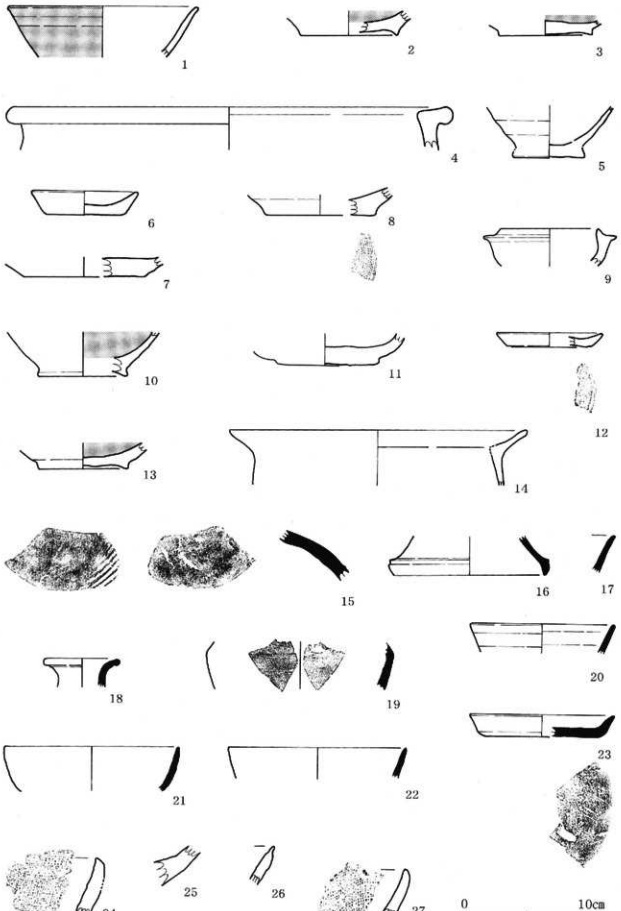
第４節　Ⅰ区の調査

調査は、重機でⅢｂ層まで除去し、遺構の検出は、Ⅲｃ層上面とⅣ層上面で行った。その結果、竪穴住居１基、竪穴状遺構２基、土坑・土壙墓91基、溝状遺構９条、道路状遺構と多数の柱穴を検出し、特に柱穴は、調査区南部中央付近から東にかけて密集して検出された。掘立柱建物は復元できたもので61棟である。重機による上土除去の際、Ⅲ層を剥いでいたところ、調査区中央で、幅12～20mで西から東へ横断する礫層がみられ、土石流と思われる。Ⅳａ層からは縄文土器が出土したが、遺構は検出されなかった。



Ⅰ-a. 灰色粗砂質土
b. 灰色細砂質土
Ⅱ-a. 灰色＋橙色細粘質土
b. 灰色細砂質土
c. 褐色＋淡灰微細粘質土
d. 灰橙色微細粘質土
e. 橙色細砂質土
f. 灰色粗粘質土
g. 灰色細粘質土
h. 橙色微細粘質土
Ⅱ-i. 灰色粗粘質土
j. 灰色細粘質土
k. 灰色微細粘質土
Ⅲ-a. 黒色細粘質土
Ⅳ-a. 暗褐色粗砂質土
1. 黒色微細粘質土
α・木の根
β・柱穴

第３図　Ⅰ区　南壁層序図



第４図　試掘溝　出土遺物実測図（１）

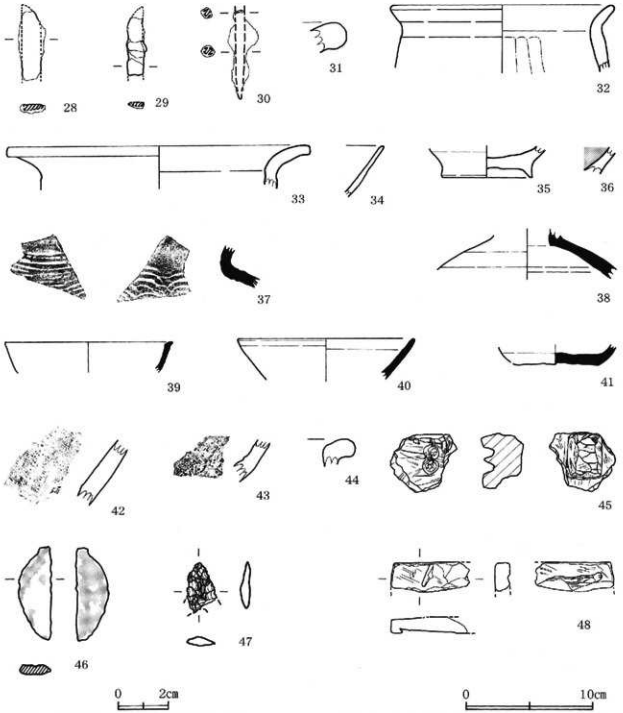
1・3：1Tre Ⅱ～Ⅲ層,2：1Tre Ⅰ～Ⅱ層,4：2Tre Ⅱ～Ⅳa層,5～10：2Tre Ⅰ～Ⅲ層,
11・13：3Tre Ⅲ～Ⅳa層,12：3Tre Ⅰ～Ⅱ層,14：4Tre Ⅰ～Ⅲ層,15～27：4Tre Ⅲ～Ⅳa層

弥生時代

Ⅳ層上面で遺構検出を行った結果、調査区の南西隅に、不整形の日向型間仕切り住居が１基検出された。その他の遺構は検出されなかった。

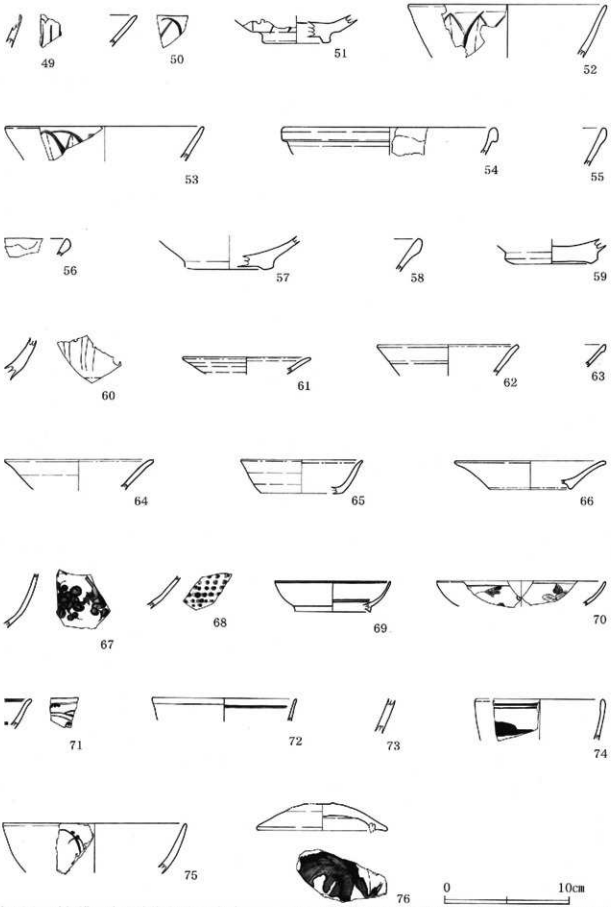
ＳＡ－04（第８・11図）

調査区の南西隅に検出された、不整形の間仕切り住居である。西側は西壁にかかっており、南側は削平されているため規模の詳細は不明である。検出面から床面までの深さは26cmを測る。柱穴は２個検出した。炉跡や貼床などは検出されなかった。遺物は、甕、壺、土師器の高坏、台石が出土



第５図　試掘溝　出土遺物実測図（２）

28：4TreⅠ～Ⅲ№,29～30：4TreⅢ～Ⅳa№,31～36・38～43：5TreⅢ～Ⅳa№,37・48：5TreⅠ～Ⅲ№,44・46：8TreⅠ～Ⅲ№,45：1TreⅢ№,47：3TreⅠ～Ⅱ№



第６図　試掘溝　出土遺物実測図（３）

49･55～56･62･67･71：3Tre Ⅰ～Ⅱ層，50･57･63･72：3Tre Ⅱ～Ⅳa層，51：4Tre Ⅰ～Ⅲ層，52･68：5Tre Ⅰ～Ⅲ層，53･58～59･65：Ⅲ～Ⅳa層，54･69･73：1Tre Ⅰ～Ⅱ層，60･66･74～76：8Tre Ⅰ～Ⅲ層，61：2Tre Ⅰ～Ⅲ層，64：4Tre Ⅲ～Ⅳa層，70：2Tre Ⅰ～Ⅱ層

している。

古代～中世

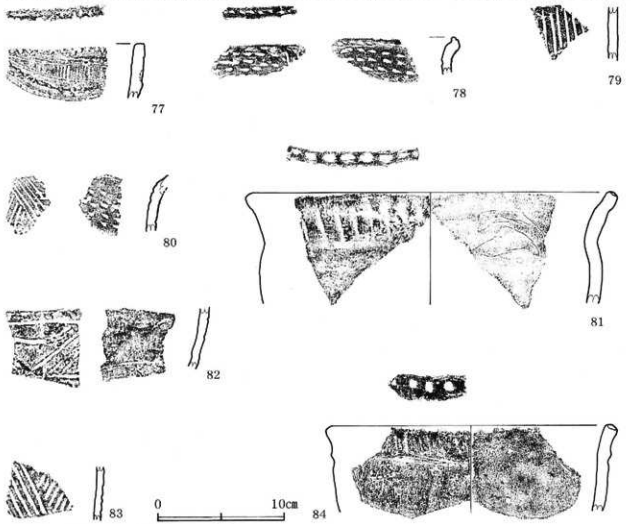
Ⅲｃ層上面で遺構検出を行った結果、竪穴状遺構２基、掘立柱建物61棟、土坑・土壙墓91基、溝状遺構９条、道路状遺構１、そのほか多数の柱穴を検出した。特に、柱穴は調査区南部に集中している。

ＳＡ－01（第９・11図）

調査区の中央部やや西寄りで検出された竪穴状遺構で、１辺が2.8mのほぼ正方形を呈する。検出面から床面までの深さは12cmを測る。柱穴は６個で、径12～20cm、深さ14～28cmを測る。住居中央に炭化物を含んだ黒色土がみられたが、掘り込みにはならず、炉跡と思われる。遺物は須恵器の塊の底部のみである。

ＳＡ－03（第10・11図）

調査区の南部中央やや西寄りで検出された竪穴状遺構で、１辺が3.3～3.4mのほぼ正方形を呈する。検出面から床面までの深さは40cmを測る。柱穴は４個で、径20～40cm、深さ50～55cmを測る。



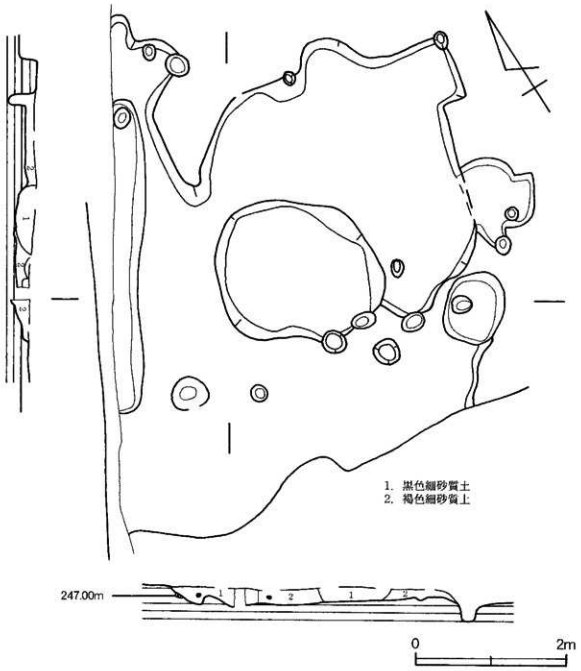
第７図　Ｉ区　出土遺物実測図（１）

81:1193,82:SA-04,83:Ⅳ層,84:SK-117

住居の中央には長さ2.64m、幅70～90cmの楕円形を呈する深さ12cmの浅い掘り込みがみられる。また、西・北・東壁隅には幅20～40cm、深さ10～12cmの溝がめぐらされている。遺物は、土師器の甕の口縁部、塊の底部、すり鉢、銅銭、磨石が出土した。

ＳＢ－01（第12図）

調査区の北部中央やや東よりにある、梁行２間2.98～3.30m、桁行３間5.84～5.88mを測る建物で



第８図　ＳＡ－04　遺構実測図

ある。柱穴の規模は、径20～38cm、深さ14～34cmを測る。主軸方位はN80° Wである。

SB－02（第12図）

SB－01と同位置にある、梁行２間3.26～3.28m、桁行２間3.97mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～44cm、深さ24～36cmを測る。主軸方位はN78° Wである。

SB－03（第12図）

調査区の北部中央にある、現存で梁行2.80m、桁行１間1.12～1.46mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～25cm、深さ28～39cmを測る。主軸方位はN60° Eである。

SB－04（第12図）

調査区の北部中央やや西よりにある、梁行２間2.56～2.74m、桁行２間3.25～3.40mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～44cm、深さ16～41cmを測る。主軸方位はN27° Eである。

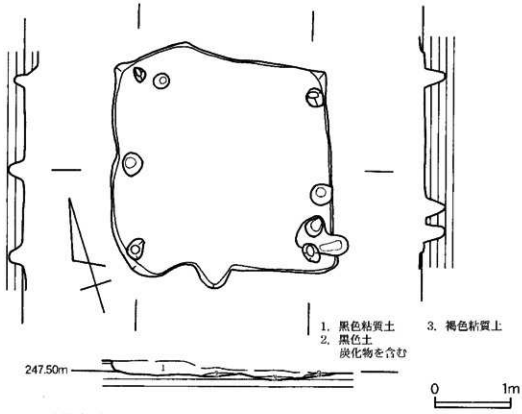
SB－05（第12図）

SB－04の南西にある、梁行２間3.12～3.18m、桁行３間5.54～5.78mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～38cm、深さは20～42cmを測る。主軸方位はN65° Eである。

SB－06（第12図）

調査区の中央部西側にある、梁行２間4.06m、桁行３間6.60～6.62mを測る、北・西に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径22～35cm、深さ27～40cmを測る。主軸方位はN12° Eである。

SB－07（第13図）



第９図　SA－01　遺構実測図

調査区の中央部西側にある、梁行１間3.89～3.95m、桁行３間6.45～6.48mを測る建物である。柱穴の規模は、径25～40cm、深さ32～46cmを測る。主軸方位はN13° Eである。

ＳＢ－08（第13図）

調査区の中央部西側にある、梁行２間3.45～3.50m、桁行２間3.82～4.08mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～29cm、深さ16～35cmを測る。主軸方位はN23° Eである。

ＳＢ－09（第13図）

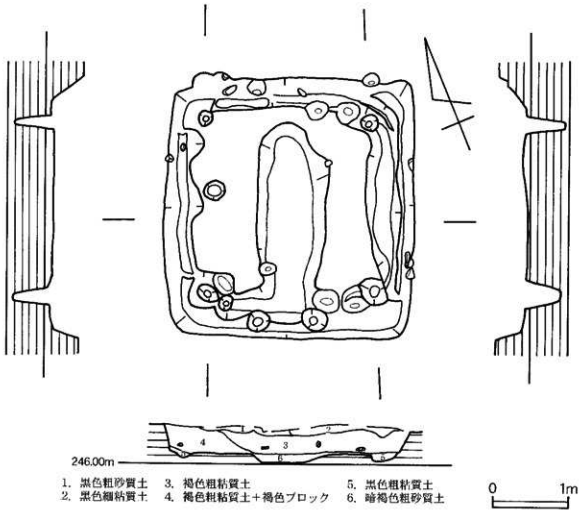
調査区の中央西側にある、梁行２間3.85～4.12m、桁行３間8.60～8.88mを測る、東側に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径27～62cm、深さ28～45cmを測る。主軸方位はN14° Eである。

ＳＢ－10（第13図）

調査区の中央部やや西よりにある、梁行２間3.24～3.58m、桁行３間5.86～5.90mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～32cm、深さ21～42cmを測る。主軸方位はN70° Wである。

ＳＢ－11（第14図）

調査区の中央部にある、梁行２間4.94～5.13m、桁行6.55～6.60mを測る建物である。柱穴の規模



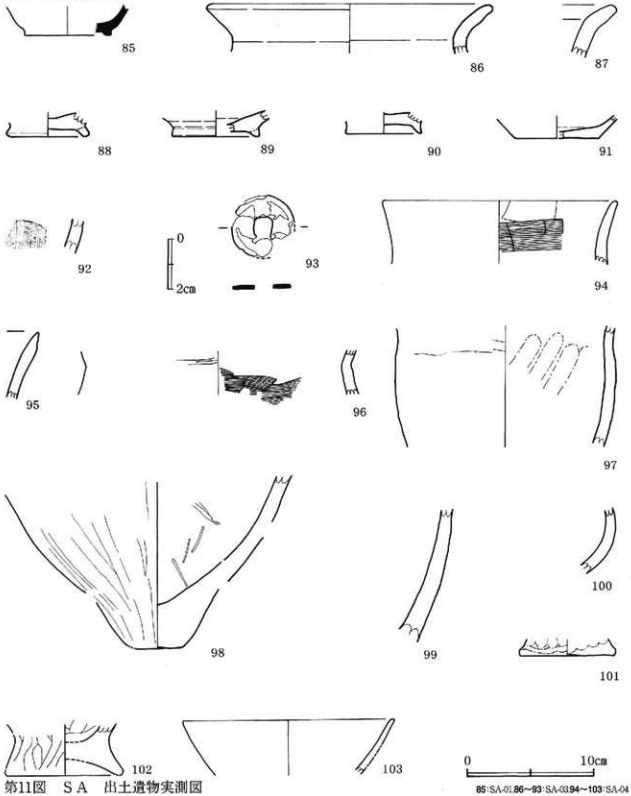
第10図　ＳＡ－03　遺構実測図

は、径27～36cm、深さ23～52cmを測る。主軸方位はN72° Wである。

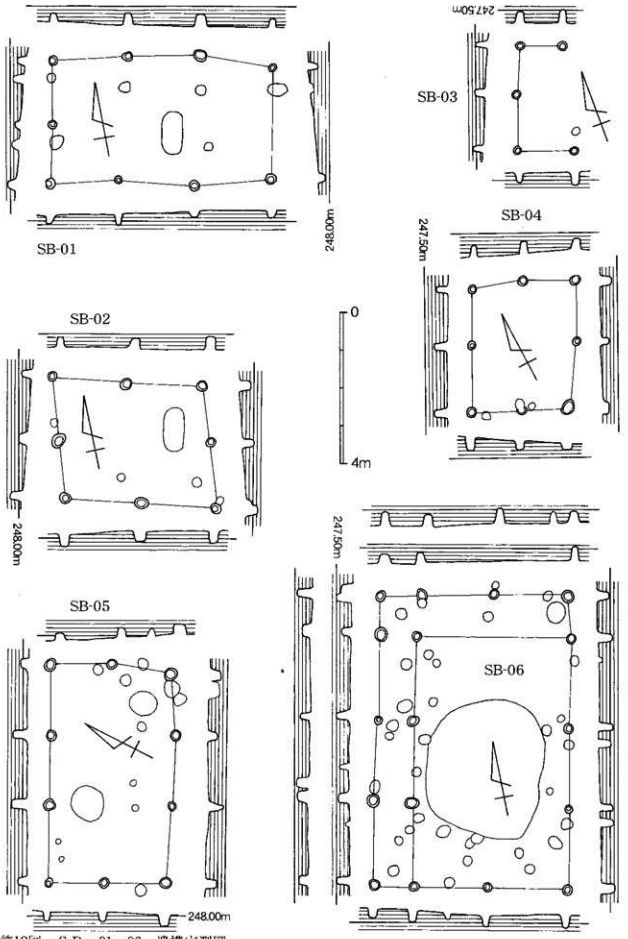
SB－12（第14図）

調査区の中央部にある、梁行２間3.49～3.60m、桁行３間7.34～7.47mを測る建物である。柱穴の規模は、径26～36cm、深さ26～52cmを測る。主軸方位はN72° Wである。

SB－13（第14図）



第11図　ＳＡ　出土遺物実測図



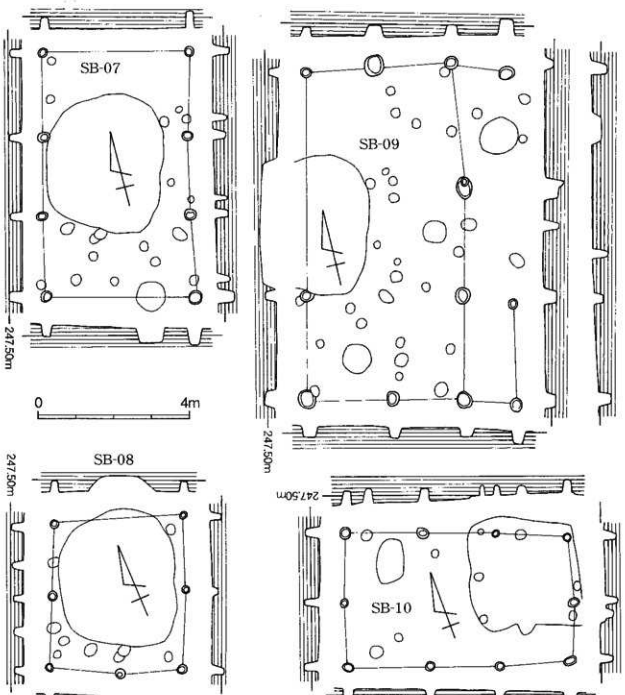
第12図　ＳＢ－01～06　遺構実測図

調査区の中央部にある、梁行２間3.40～3.44m、桁行４間8.62mを測る、北側に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径22～45cm、深さ20～47cmを測る。主軸方位はN71° Wである。

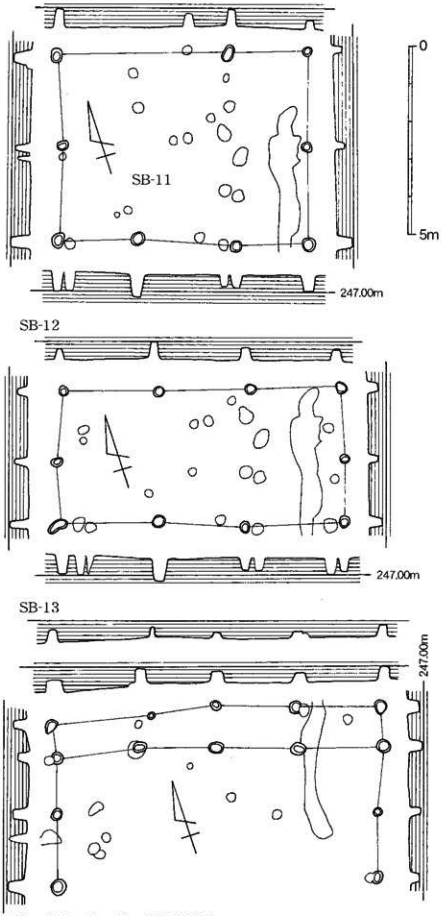
ＳＢ－14（第15図）

調査区の中央部やや東よりにある、梁行２間4.47～4.58m、桁行３間7.95～7.99mを測る、西側に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径26～44cm、深さ23～52cmを測る。主軸方位はN18° Eである。

ＳＢ－15（第15図）



第13図　ＳＢ－07～10　遺構実測図



第14図　ＳＢ－11～13　遺構実測図

調査区の中央部やや東よりにある、梁行２間2.55～2.57m、桁行３間4.82～5.08mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～29cm、深さ22～40cmを測る。主軸方位はＮ79°Ｗである。

ＳＢ－16（第15図）

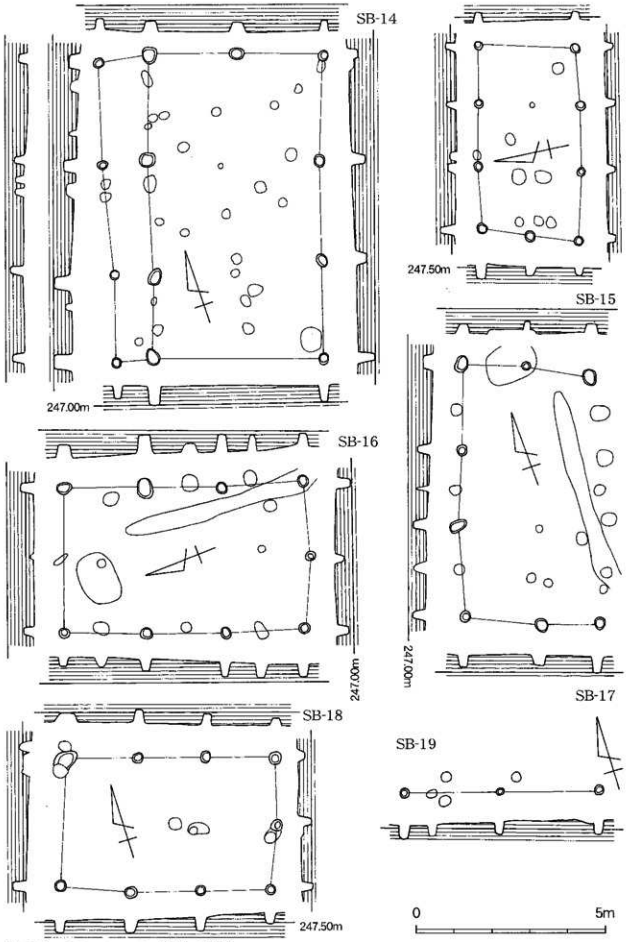
調査区の中央部やや東よりにある、梁行２間3.77～3.86m、桁行３間6.30～6.35mを測る建物である。柱穴の規模は、径26～53cm、深さ23～52cmを測る。主軸方位はＮ21°Ｅである。

ＳＢ－17（第15図）

調査区の中央部やや東よりにある、梁行２間3.35～3.52m、桁行３間6.64mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～44cm、深さ27～45cmを測る。主軸方位はＮ20°Ｅである。

ＳＢ－18（第15図）

調査区の中央部東側にある、梁行２間3.40～3.48m、桁行３間5.47～5.53mを測る建



第15図　ＳＢ－14～19　遺構実測図

物である。柱穴の規模は、径27～44cm、深さ21～35cmを測る。主軸方位はN70° Wである。

ＳＢ－19（第15図）

調査区の中央部東側にある、現存で２間5.13mを測る建物である。柱穴の規模は、径27～30cm、深さ21～40cmを測る。

ＳＢ－20（第16図）

調査区の中央部やや東よりにある、現存で梁行２間3.60m、桁行１間1.35～1.40mを測る建物である。柱穴の規模は、径21～29cm、深さ19～32cmを測る。

ＳＢ－21（第16図）

調査区の中央部東側にある、梁行２間3.30～3.36m、桁行３間5.93mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～30cm、深さ19～38cmを測る。主軸方位はN78° Wである。

ＳＢ－22（第16図）

調査区の中央部東側にある、梁行１間1.78m、桁行３間5.94mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～40cm、深さ38～51cmを測る。主軸方位はN73° Wである。

ＳＢ－23（第16図）

調査区の中央部東側にある、梁行２間3.64m、桁行２間3.94mを測る、北側に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径22～31cm、深さ23～46cmを測る。主軸方位はN76° Wである。

ＳＢ－24（第16図）

調査区の中央部東側にある、梁行１間4.16m、桁行４間8.76mを測る建物である。柱穴の規模は、径30～43cm、深さ40～51cmを測る。主軸方位はN80° Wである。

ＳＢ－25（第16図）

調査区の中央部東側にある、梁行２間3.30～3.60m、桁行３間6.44～6.55mを測る建物である。柱穴の規模は、径29～41cm、深さ16～30cmを測る。主軸方位はN79° Wである。

ＳＢ－26（第17図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.94m、桁行３間5.55mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～55cm、深さ11～31cmを測る。主軸方位はN87° Wである。

ＳＢ－27（第17図）

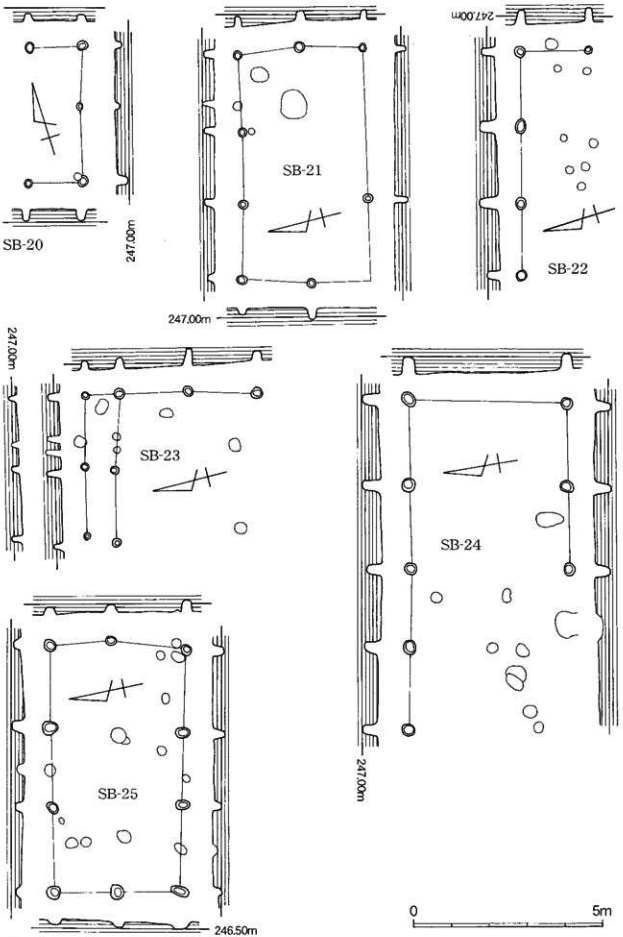
調査区の南部中央にある、梁行２間3.70～4.06m、桁行２間5.38mを測る建物である。柱穴の規模は、径27～45cm、深さは19～40cmを測る。主軸方位はＮ５° Ｅである。

ＳＢ－28（第17図）

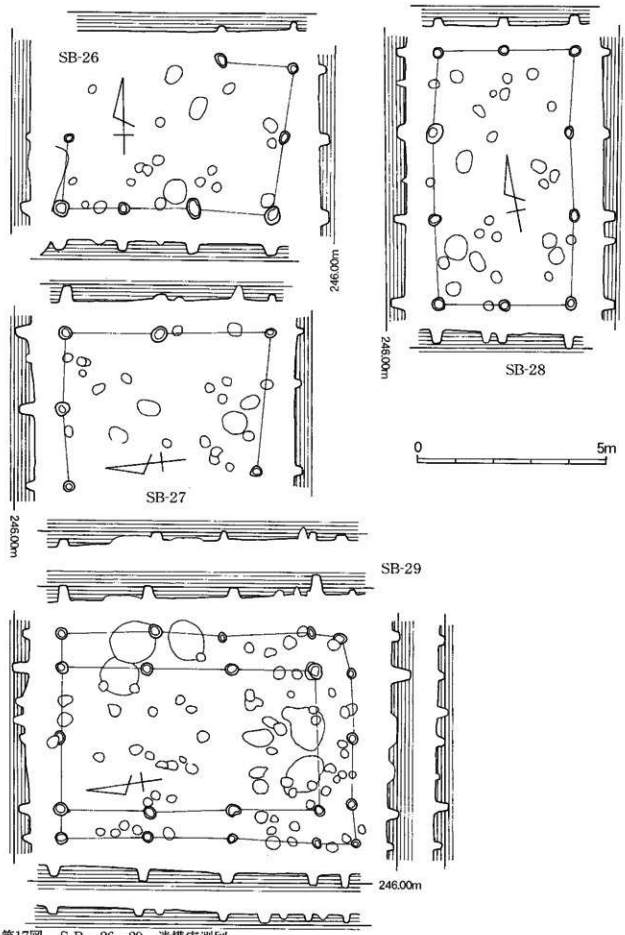
調査区の南部中央にある、梁行２間3.52～3.66m、桁行３間6.65～6.68mを測る建物である。柱穴の規模は、径27～55cm、深さ18～39cmを測る。主軸方位はN11° Eの建物である。

ＳＢ－29（第17図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.66～3.74m、桁行３間6.68～6.83mを測る、南・東・西３面に廂を持つ建物である。柱穴の規模は径24～42cm、深さ17～54cmを測る。主軸方位はＮ８° Ｅであ



第16図　ＳＢ－20～25　遺構実測図



第17図　ＳＢ－26～29　遺構実測図

る。

ＳＢ－30（第18図）

調査区の中央やや東側にある、梁行１間2.04～2.62m、桁行３間6.08mを測る建物である。柱穴の規模は、径29～36cm、深さ10～37cmを測る。主軸方位はＮ１° Ｗである。

ＳＢ－31（第18図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.92～4.08m、桁行３間5.80～5.84mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～41cm、深さ17～35cmを測る。主軸方位はＮ６° Ｅである。

ＳＢ－32（第18図）

調査区の南部中央にある、梁行１間3.58m、桁行３間5.86mを測る、北側に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径23～31cm、深さ13～35cmを測る。主軸方位はＮ82° Ｗである。

ＳＢ－33（第18図）

調査区の南部中央にある、梁行２間4.55～4.59m、桁行３間5.86～6.56mを測る建物である。柱穴の規模は、径26～43cm、深さ18～48cmを測る。主軸方位はＮ23° Ｅである。

ＳＢ－34（第18図）

調査区の南部やや東側にある、梁行２間3.38～3.75m、桁行３間6.04～6.12mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～29cm、深さ18～31cmを測る。主軸方位はＮ82° Ｗである。

ＳＢ－35（第18図）

調査区の南部東側にある、梁行１間2.95～3.20m、桁行３間5.26～5.36mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～28cm、深さ16～47cmを測る。主軸方位はＮ78° Ｗである。

ＳＢ－36（第19図）

調査区の南部西側にある、梁行２間3.50m、桁行３間4.80mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～37cm、深さは18～52cmを測る。主軸方位はＮ14° Ｅである。

ＳＢ－37（第19図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.78～3.87m、桁行３間6.62～6.64mを測る北・南・東３面に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径23～61cm、25～73cmを測る。主軸方位はＮ81° Ｗである。

ＳＢ－38（第19図）

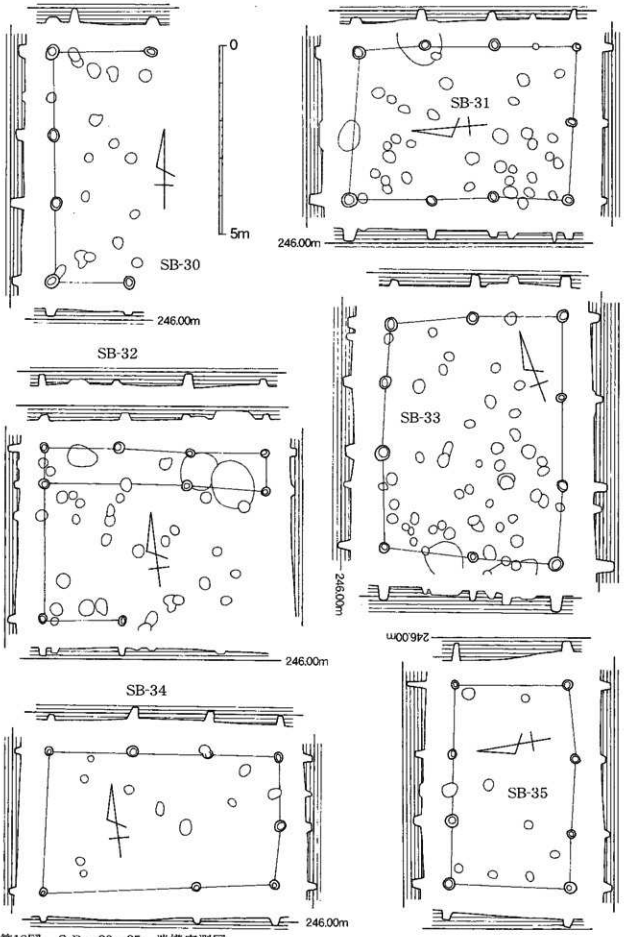
調査区の南部中央にある、梁行２間3.70m、桁行３間5.04mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～45cm、深さ17～51cmを測る。主軸方位はＮ83° Ｗである。

ＳＢ－39（第20図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.44～4.04m、桁行３間5.72～6.06mを測る建物である。柱穴の規模は、径30～38cm、深さ21～57cmを測る。主軸方位はＮ６° Ｅである。

ＳＢ－40（第20図）

調査区の南部中央にある、梁行１間3.10～3.14m、桁行４間7.34～7.40mを測る建物である。柱穴の規模は、径31～49cm、深さ47～70cmを測る。主軸方位はＮ86° Ｗである。



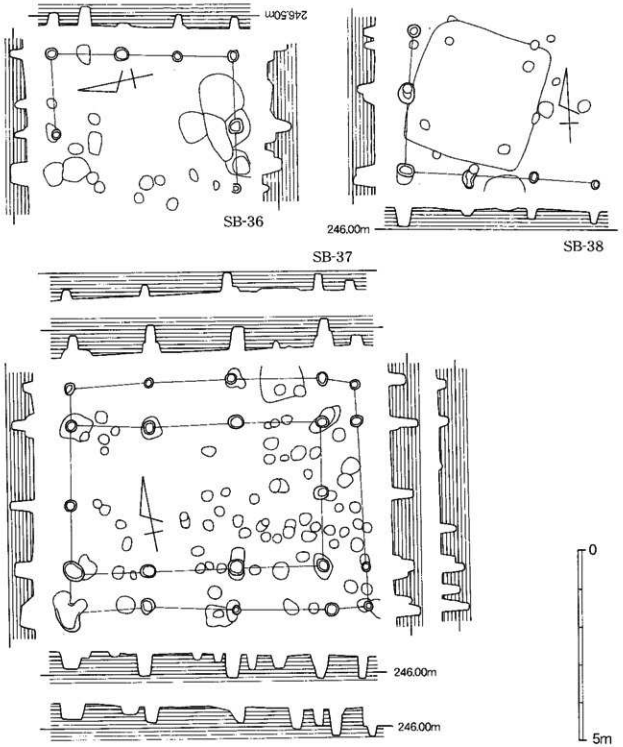
第18図　ＳＢ－30～35　遺構実測図

ＳＢ－41（第20図）

調査区の南部中央にある、梁行２間4.64～4.76m、桁行３間5.99～6.10mの建物である。柱穴の規模は、径25～39cm、深さ19～47cmを測る。主軸方位はＮ９° Ｅである。

ＳＢ－42（第20図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.51～3.81m、桁行３間6.03～6.35mの建物である。柱穴の規模は、径27～53cm、深さは19～42cmを測る。主軸方位はＮ89° Ｗである。



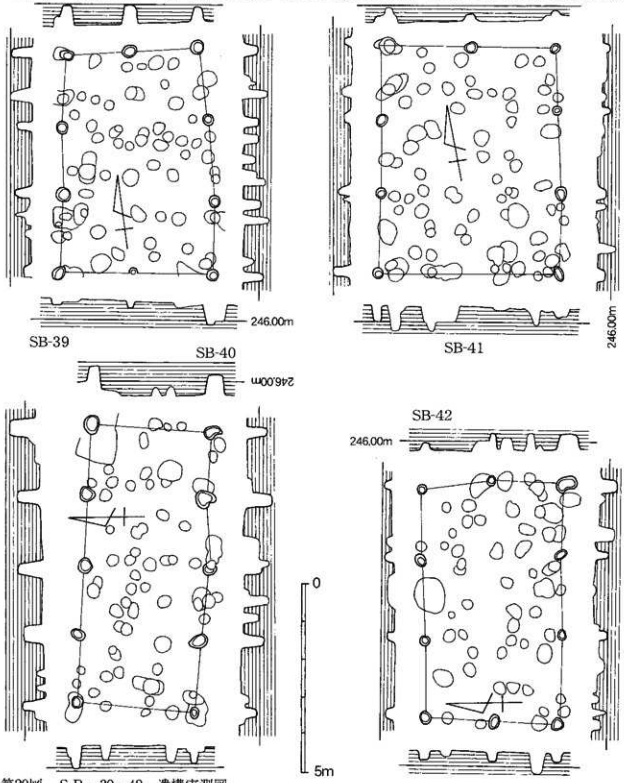
第19図　ＳＢ－36～38　遺構実測図

ＳＢ－43（第21図）

調査区の南部中央にある、梁行２間4.34～4.67m、桁行３間6.34～6.61mを測る建物である。柱穴の規模は、径20～43cm、深さは23～43cmを測る。主軸方位はＮ13° Ｅである。

ＳＢ－44（第21図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.03～3.24m、桁行３間5.87～6.30mを測る建物である。柱穴



第20図　ＳＢ－39～42　遺構実測図

の規模は、径24～53cm、深さは21～41cmを測る。主軸方位はN83° Wである。

SB－45（第21図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.20～3.24m、桁行３間5.36～5.50mを測る建物である。柱穴の規模は、径26～37cm、深さは20～47cmを測る。主軸方位はN85° Wである。

SB－46（第21図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.83～3.87m、桁行３間5.65～6.02mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～41cm、深さは20～50cmを測る。主軸方位はN88° Wである。

SB－47（第21図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.48～3.65m、桁行３間4.74～5.20mを測る建物である。柱穴の規模は、径25～45cm、深さは30～49cmを測る。主軸方位はN82° Wである。

SB－48（第22図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.81～3.85m、桁行３間6.10～6.12mを測る建物である。柱穴の規模は、径33～62cm、深さは29～52cmを測る。主軸方位はN83° Wである。

SB－49（第22図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.63～3.74m、桁行３間5.85～6.13mを測る建物である。柱穴の規模は、径26～45cm、深さは27～67cmを測る。主軸方位はN81° Wである。

SB－50（第22図）

調査区の南部中央にある、梁行１間1.90～1.96m、桁行３間6.63mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～57cm、深さは21～35cmを測る。主軸方位はN84° Wである。

SB－51（第22図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.41～3.58m、桁行３間5.52～5.58mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～60cm、深さは29～52cmを測る。主軸方位はN81° Wである。

SB－52（第22図）

調査区の南部中央にある、梁行２間4.02～4.07m、桁行３間5.95～6.56mを測る建物である。柱穴の規模は、径29～45cm、深さは21～57cmを測る。主軸方位はN85° Wである。

SB－53（第23図）

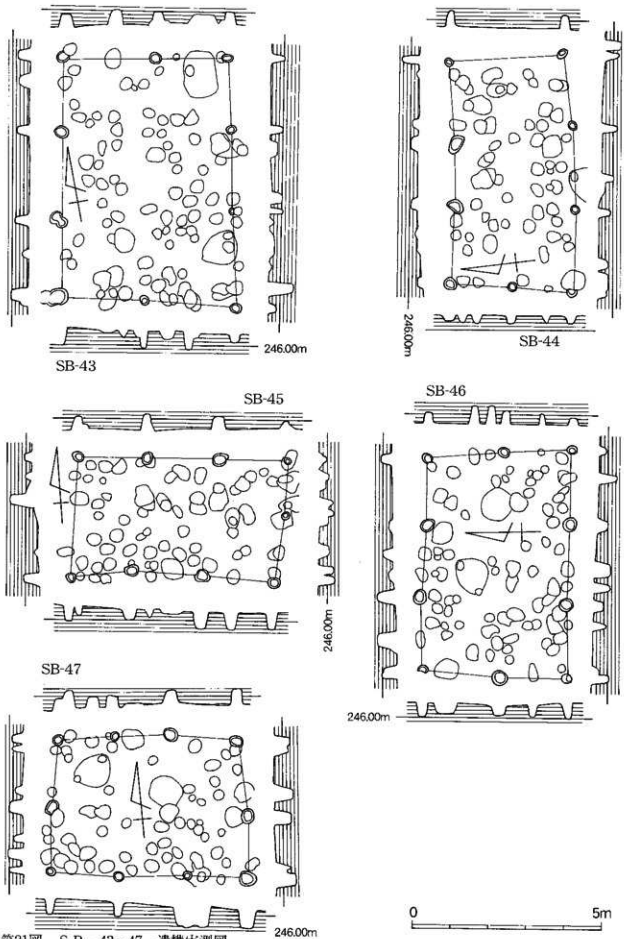
調査区の南部中央にある、梁行２間3.63～4.02m、桁行３間6.58～6.60mを測る建物である。柱穴の規模は、23～78cm、深さは35～77cmを測る。主軸方位はN82° Wである。

SB－54（第23図）

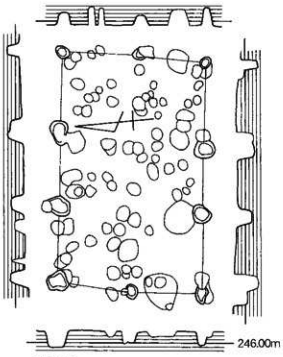
調査区の南部中央にある、梁行２間3.74～3.88m、桁行３間6.18～6.38mを測る建物である。柱穴の規模は、径27～35cm、深さは15～51cmを測る。主軸方位はN７° Eである。

SB－55（第23図）

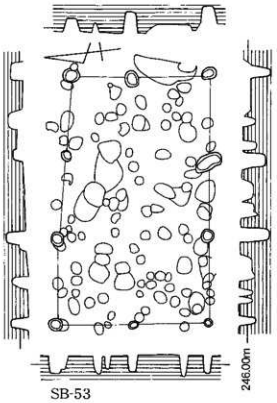
調査区の南部中央にある、梁行２間4.05～4.46m、桁行３間7.40～7.42mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～57cm、深さは13～59cmを測る。主軸方位はN83° Wである。



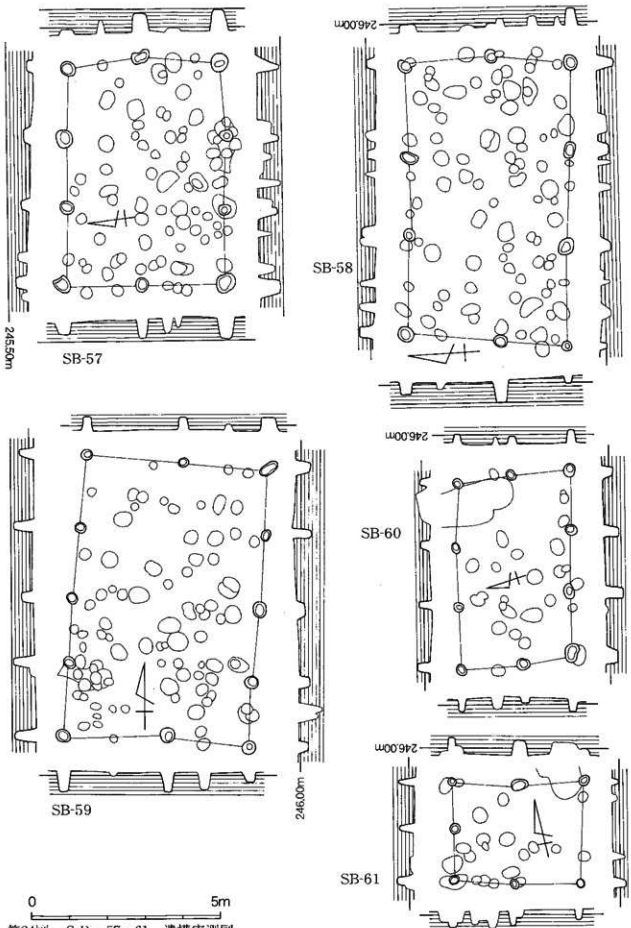
第21図　ＳＢ－43～47　遺構実測図



第22図　ＳＢ－48～52　遺構実測図



第23図　ＳＢ－53～56　遺構実測図



第24図　S B －57～61　遺構実測図

ＳＢ－56（第23図）

調査区の南部中央にある、梁行２間3.93～4.03m、桁行３間6.78～7.07mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～45cm、深さは19～49cmを測る。主軸方位はＮ81° Ｗである。

ＳＢ－57（第24図）

調査区の南部中央にある、梁行２間4.03～4.30m、桁行３間5.75～5.82mを測る建物である。柱穴の規模は、径31～56cm、深さは17～58cmを測る。主軸方位はＮ79° Ｗである。

ＳＢ－58（第24図）

調査区の南部東側にある、梁行２間4.29～4.39m、桁行３間7.05～7.46mを測る建物である。柱穴の規模は、径26～51cm、深さは13～58cmを測る。主軸方位はＮ87° Ｗである。

ＳＢ－59（第24図）

調査区の南部東側にある、梁行２間4.80～4.93m、桁行４間7.35～7.49mを測る建物である。柱穴の規模は、径25～54cm、深さは23～58cmを測る。主軸方位はＮ４° Ｗである。

ＳＢ－60（第24図）

調査区の南部東側にある、梁行２間2.98～3.00m、桁行３間4.92～4.94mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～51cm、深さは16～47cmを測る。主軸方位はＮ83° Ｗである。

ＳＢ－61（第24図）

調査区の南部東側にある、梁行２間2.62～2.73m、桁行２間3.33～3.49mを測る建物である。柱穴の規模は、径21～45cm、深さは19～49cmを測る。主軸方位はＮ77° Ｗである。

ＳＫ－01

調査区の西部中央、西壁際で検出された円形を呈する土坑である。規模は、径0.98m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は土師器の皿の底部が出土した。

ＳＫ－02

ＳＫ－01の東3.3mで検出された円形を呈する土坑である。規模は、径0.97m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－03

ＳＫ－02の南東0.4mで検出されたＳＫ－04を切っている、円形を呈する土坑である。規模は、径1.02m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－04

ＳＫ－03の南に検出された、ＳＫ－03に切られている土坑である。詳細は不明であるが、現存で、径0.81m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－05

調査区の西部中央やや北側の西壁際で検出された、西壁に入っている土坑である。詳細は不明であるが、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は土師器片、陶磁器片が出土した。

ＳＫ－06

ＳＫ－05の東隣に検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.09m、短径0.82m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

ＳＫ－07

ＳＫ－06の東隣に検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.8m、短径0.7m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－08

ＳＫ－07の東隣に検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.91m、短径0.82m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は石鏃未製品と石包丁が出土した。

ＳＫ－10（第25図）

調査区の西部中央やや北よりで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.95m、短径0.90m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－13

ＳＫ－11の東へ約２ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.03m、短径0.95m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－14（第25図）

ＳＫ－10から3.5m東で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、長径0.98m、短径0.90m、検出面から床面までの深さは22cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－15

ＳＫ－14の北東１ｍで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.9m、短径0.68m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－16

ＳＫ－15の南で検出された、ＳＫ－17と切りあっている、楕円形を呈する土坑である。詳細は不明であるが、現存で、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－17

ＳＫ－15の南で検出された、ＳＫ－16と切りあっている、楕円形を呈する土坑である。詳細は不明であるが、現存で、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－18（第25図）

ＳＫ－14から4.5m南で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.02m、短径0.90m、検出面から床面までの深さは10cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－19

調査区の北部中央やや西よりで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径2.04m、短径0.78m、検出面から床面までの深さは45cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－20

ＳＫ－19の南で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径2.1m、短径0.96m、検出面から床面までの深さは57cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－23

調査区の中央部やや西側で検出された、ＳＫ－24と切りあっている土坑である。現存で、径0.74m、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－25（第25図）

ＳＫ－14から2.7m南で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.00m、短径0.92m、検出面から床面までの深さは22cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－28（第25図）

ＳＫ－25から南東１mで検出された、ＳＫ－29に南側を切られているため詳細は不明であるが、現存で、東西長0.80m、検出面から床面までの深さは４cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－29（第25図）

ＳＫ－28に北接する土坑で、方形を呈する土坑である。規模は、0.74×0.78m、検出面から床面までの深さは24cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－30

ＳＫ－29の南0.4mで検出された円形を呈する土坑である。規模は、径0.94m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－31（第25図）

ＳＫ－30の西0.2mで検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、径0.90m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－32

ＳＫ－30の南0.2mで検出されたＳＫ－33と切りあっている土坑である。現存で、東西長0.94m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－33

ＳＫ－32の南で検出された、ＳＫ－32と切りあっている土坑である。現存で、東西長0.97m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－34（第25図）

ＳＫ－31から１m南東で検出された土坑で、ＳＫ－35と切り合っているため詳細は不明であるが、現存で南北長0.78m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＫ－35（第25図）

ＳＫ－34と切り合っている土坑で、現存で南北長1.18m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－36（第25図）

ＳＫ－35から2.5m南西で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.04m、検出面から

床面までの深さは20cmを測る。遺物は土師器の甕の口縁部、須恵器の甕の破片が出土した。

ＳＫ－37

ＳＫ－35の南西0.3mで検出された楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.62m、短径0.92m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－42（第26図）

ＳＫ－10から２m東で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.75m、短径0.69m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－45（第26図）

ＳＫ－36から2.7m西で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.78m、短径0.74m、検出面から床面までの深さは28cmを測る。遺物は土師質土器の皿が２点出土し、時期は14世紀と思われる。

ＳＫ－47

調査区の北部中央、ＳＫ－46の南４mで検出された、方形を呈する土坑である。規模は、1.23×0.68m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－48

調査区の北部東側、ＳＫ－47の東5.2mで検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、長径1.2m、短径1.17m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－51

調査区の中央部東側、ＳＫ－49の南10mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.79m、短径0.61m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－52（第26図）

調査区の東部中央やや北よりで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.82m、短径0.78m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－53（第26図）

ＳＫ－52に南接する、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.14m、短径0.88m、検出面から床面までの深さは26cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－57

調査区の東部中央、ＳＫ－58と切りあっている土坑である。現存で、径0.91m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－58

調査区の東部中央、ＳＫ－58と切りあっている土坑である。現存で、径0.82m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－59

ＳＫ－58に南接し、ＳＫ－60と切りあっている土坑である。現存で、径0.92m、検出面から床面

までの深さは18cmを測る。遺物は縄文土器片、土師器片、黒色土器片、陶磁器片が出土した。

ＳＫ－60

ＳＫ－59と切りあっている土坑である。現存で、径0.89m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－67

調査区の南部西壁際で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.89m、短径0.81m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－68

調査区の南部西壁際で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.63m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－72

調査区の南部西壁際、ＳＫ－68の南西１mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.78m、短径0.62m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－74

調査区の南部西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.82m、短径0.61m、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－83

調査区の南西隅、ＳＫ－82の東0.5mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.13m、短径0.98m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－87

調査区の南西隅で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.23m、短径1.02m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

ＳＫ－89

調査区の南西隅、ＳＫ－87の西接する形で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.97m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－107

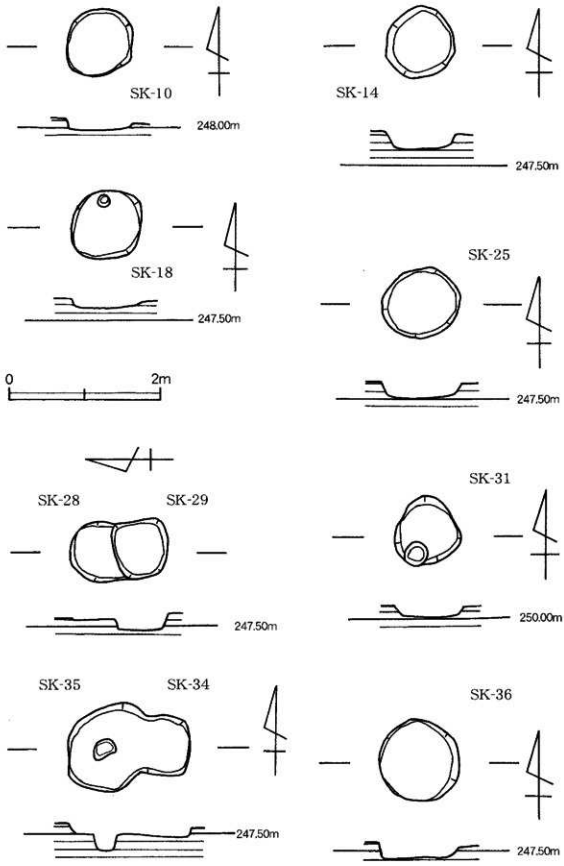
調査区の南部中央、ＳＫ－74の東1.3mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.76m、短径0.57m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－108（第26図）

調査区の南部中央やや西より、ＳＫ－107の東2.5mで検出された、方形を呈する土坑である。規模は、0.80×1.10m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－113

調査区の南部中央、ＳＫ－108の北東６mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.72m、短径0.51m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。



第25図　ＳＫ－10・14・18・25・28・29・31・34～36　遺構実測図

ＳＫ－117（第27図）

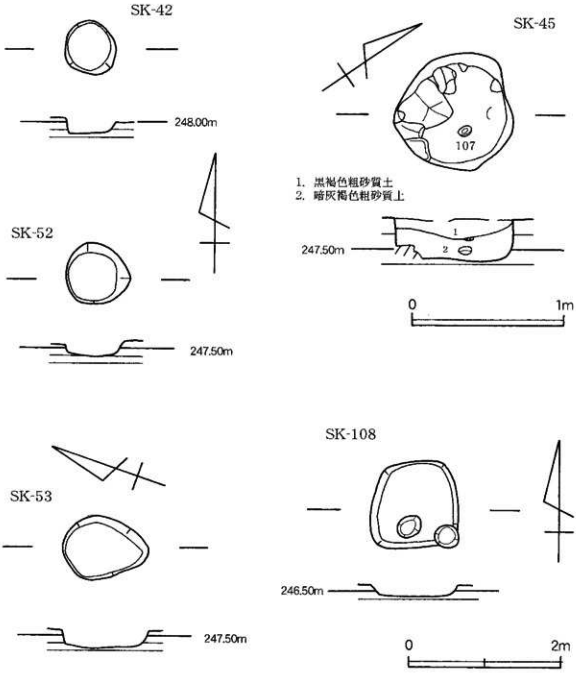
ＳＫ－116の南接する、不整形を呈する土坑である。規模は、0.87×1.26m、検出面から床面までの深さは29cmを測る。遺物は縄文土器片と青磁の碗・台石が出土した。

ＳＫ－125

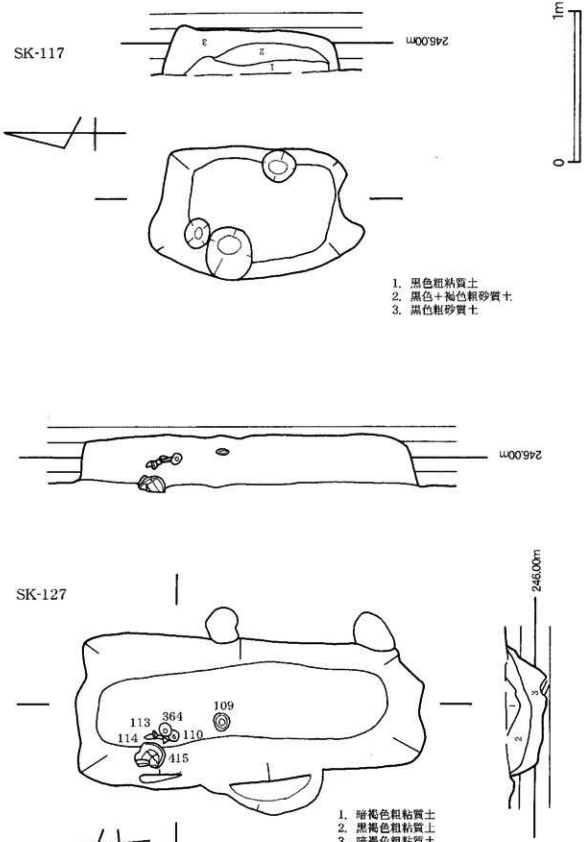
調査区の南部東側で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.72m、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－126

調査区の南部東側、ＳＫ－125の東1.5mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長



第26図　ＳＫ－42・45・52・53・108　遺構実測図



第27図　ＳＫ－117・127　遺構実測図

径0.68m、短径0.63m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

SK－127（第27図）

SK－126の南7mで検出された隅丸長方形を呈する土壙墓である。規模は、0.94×2.28m、検出面から床面までの深さは34cmを測る。遺物は土壙墓の北側、西壁より26cmのところに流れ込みの石鍋が床面より26cm浮いた状態で出土しており、その東側に、鉄製の紡錘車と刀子が重なって床面より16cm浮いた状態であり、さらにその東側に、鉄製の小杯（片口）と白磁の底面を上にした小皿、その直下に青白磁の合子が床面より5cm浮いた状態で出土した。中央付近には土師質土器の皿が出土した。土層断面では確認できなかったが、遺物が床面より浮いた状態で出土していることから、木棺墓であった可能性も考えられる。白磁の小皿の年代から時期は12～13世紀と思われる。

SK－131

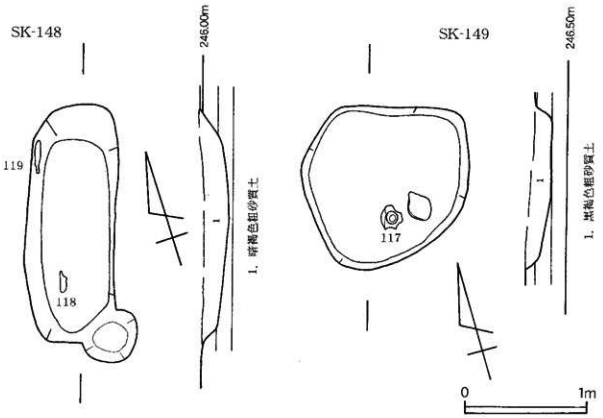
調査区の東部中央南側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.2m、短径0.82m、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は土師質土器の碗と青磁の碗が出土した。

SK－134

SK－133の南西5mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.25m、短径0.98m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

SK－136

SK－134の北0.3mで検出された、SK－137を切っている円形を呈する土坑である。規模は、



第28図　SK－148・149　遺構実測図

径1.25m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は、土師器の甕の口縁部片と青白磁の合子が出土した。時期は12～13世紀と思われる。

ＳＫ－137

ＳＫ－136と東接し、切られている土坑である。現存で、径1.02m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－140

ＳＫ－134の西0.3mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.13m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は土師器片、瓦質土器片が出土した。

ＳＫ－141

ＳＫ－140の南2.4mで検出された、方形を呈する土坑である。規模は、1.04×1.18m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－143

ＳＫ－142の南１mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.96m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－145

ＳＫ－143の南東４mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.76m、短径0.57m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＫ－148（第28図）

調査区の南壁際、東壁から14.5mのところで検出された隅丸長方形を呈する土壙墓である。規模は、0.58×1.57m、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は、土壙墓の北側西壁際に小刀、主軸から西へ10cm、南壁から30cmのところに刀子が床面より浮いた状態で出土した。

ＳＫ－149（第28図）

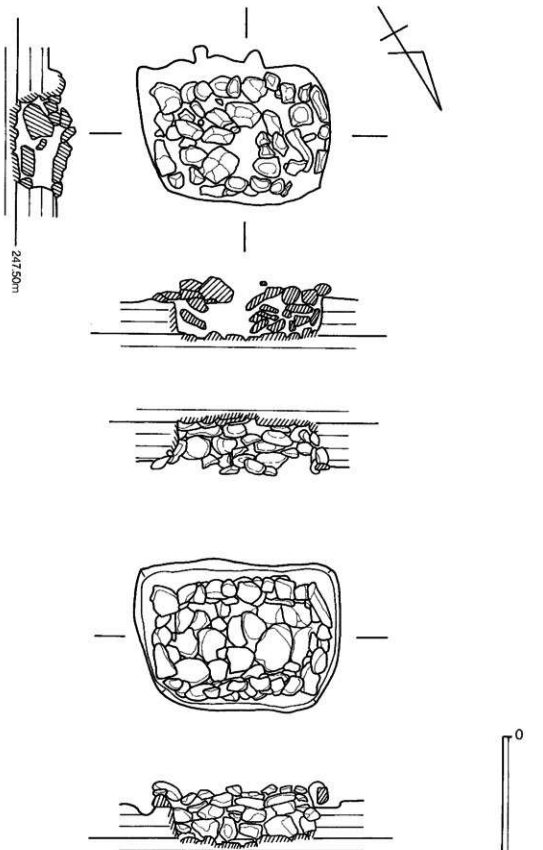
調査区の南部西側、ＳＫ－90の東接する、不整形を呈する土坑である。規模は、径1.10m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は、土師器の坏と須恵器の甕の底部が出土し、時期は12世紀と思われる。

ＳＫ－152（第30図）

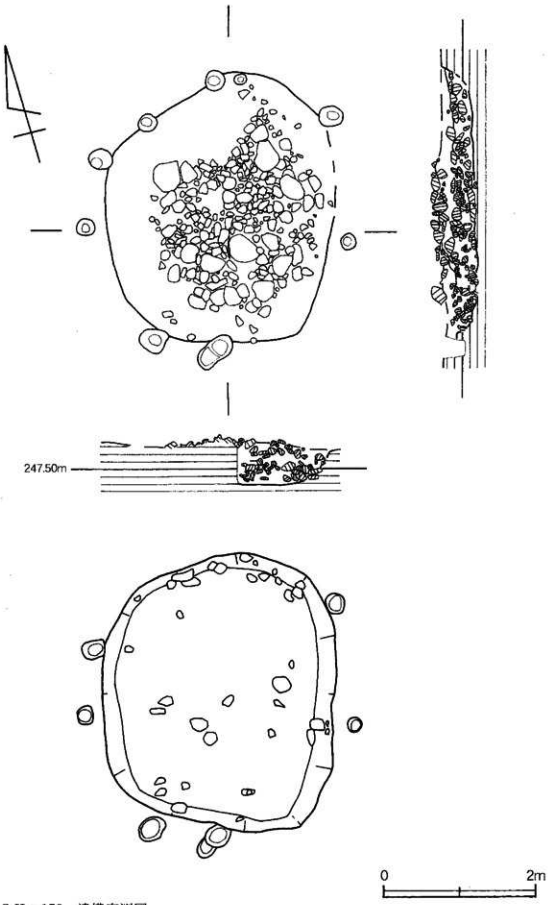
調査区の中央部西側で検出された土坑で、規模は、3.54×3.06mで検出面から床面までの深さ48cmを測り、不整形を呈する。検出時、礫は掘り込みの肩よりも狭い中央の約２mの範囲にしかみられなかったが、掘り込んでいくうちに全体に広がり、径２～40cm大の多量の礫が混入されていた。礫の密度は、底面より20～30cmの間が高い。遺物は須恵器の坏が１点出土した。

ＳＤ－01

調査区の北部西側で検出された、北西から南東へのびる溝状遺構で、現存で、長さ約8.5m、幅0.4～0.5m、深さ20～40cmを測る。遺物は出土していない。



第29図　ＳＫ－150　遺構実測図



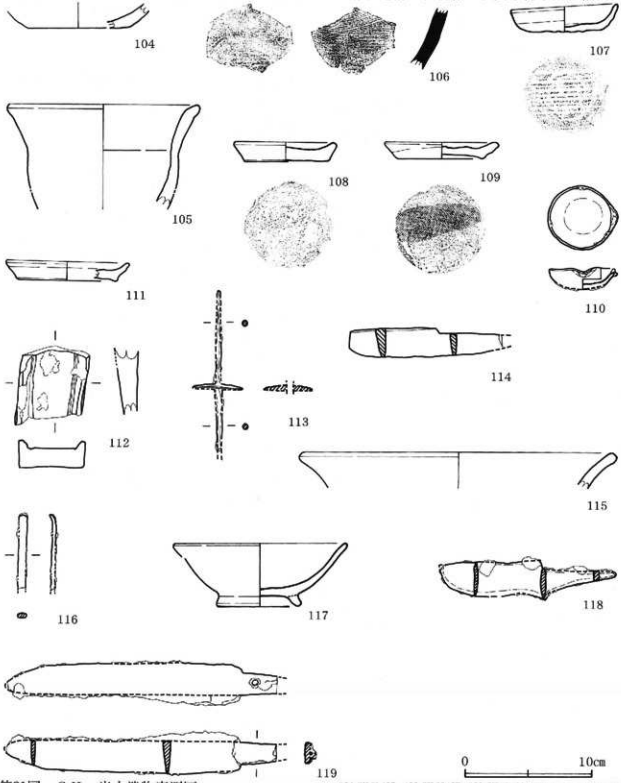
第30図　ＳＫ－152　遺構実測図

ＳＤ－02

調査区の中央やや西よりで検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約５ｍ、幅0.5～0.6m、深さ24～35cmを測る。遺物は出土していない。

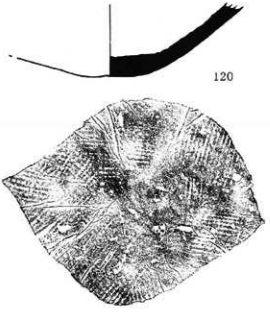
ＳＤ－03

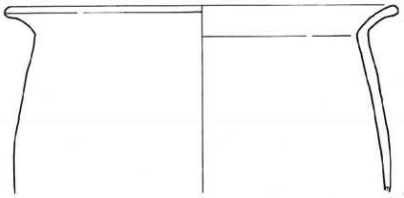
調査区の中央やや東側で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約８ｍ、幅0.4～

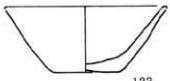


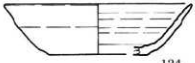
104:SK-01,105～106:SK-36,107～108:SK-45,109～111・113～114:SK-127,112:SK-131,115:SK-136,116・118～119:SK-148,117:SK-149

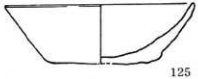
第31図　ＳＫ　出土遺物実測図

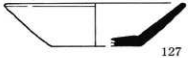


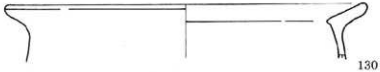


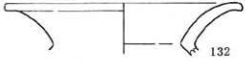






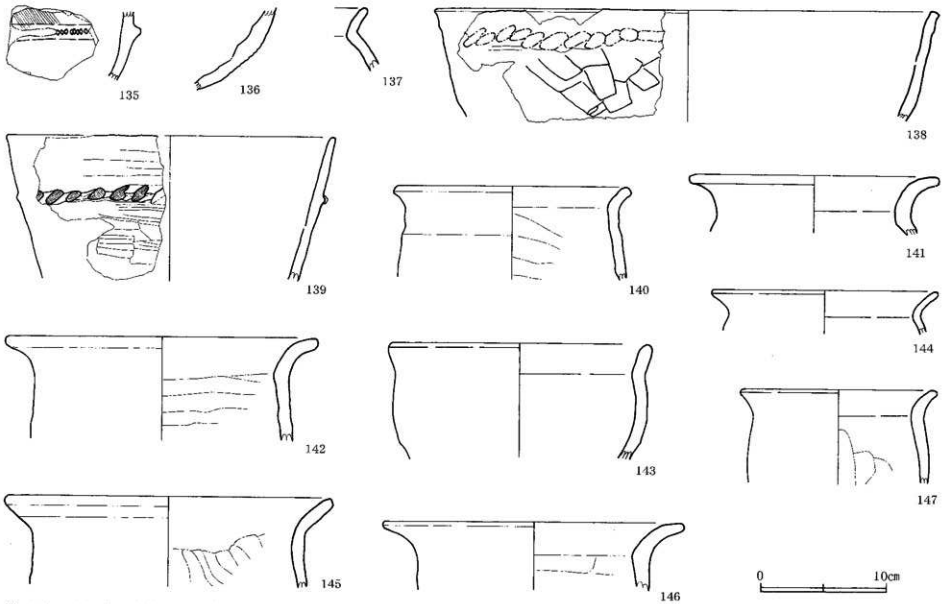






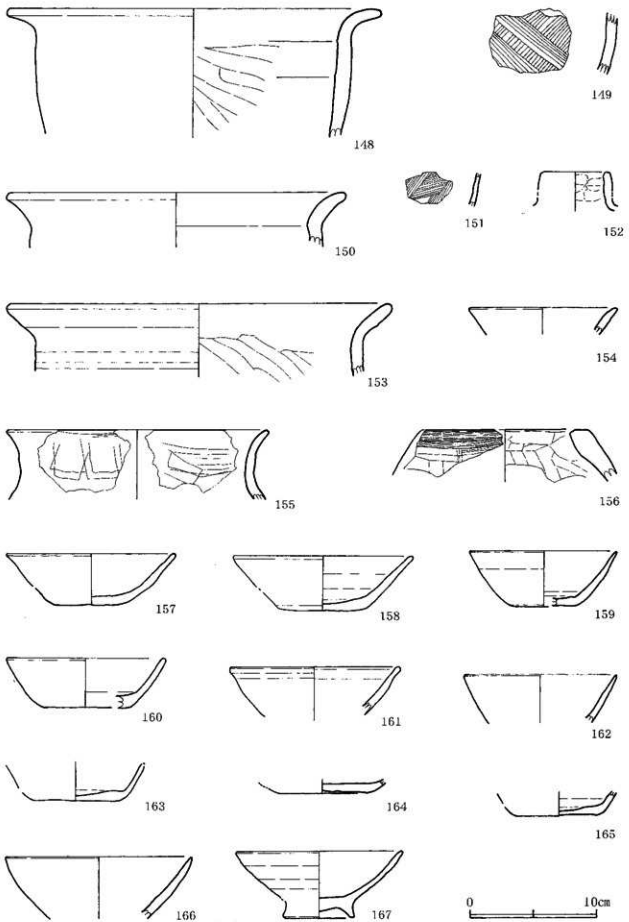
第32図　ＳＫ・Ⅰ区　出土遺物実測図（2）

120:SK-149,121～122:SK-255,123～125:SD-03,127:SZ-01

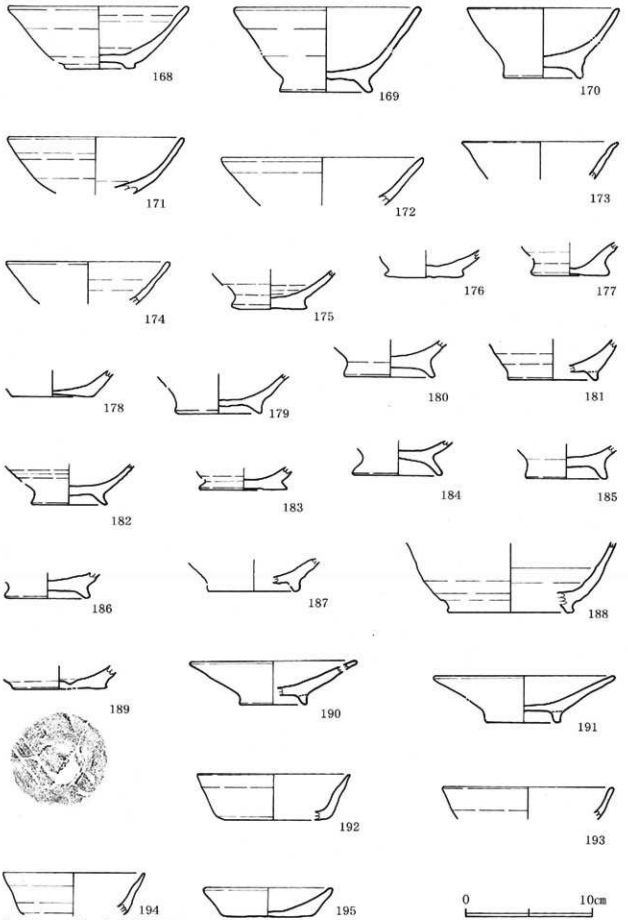


第33図　I区　出土遺物実測図（3）

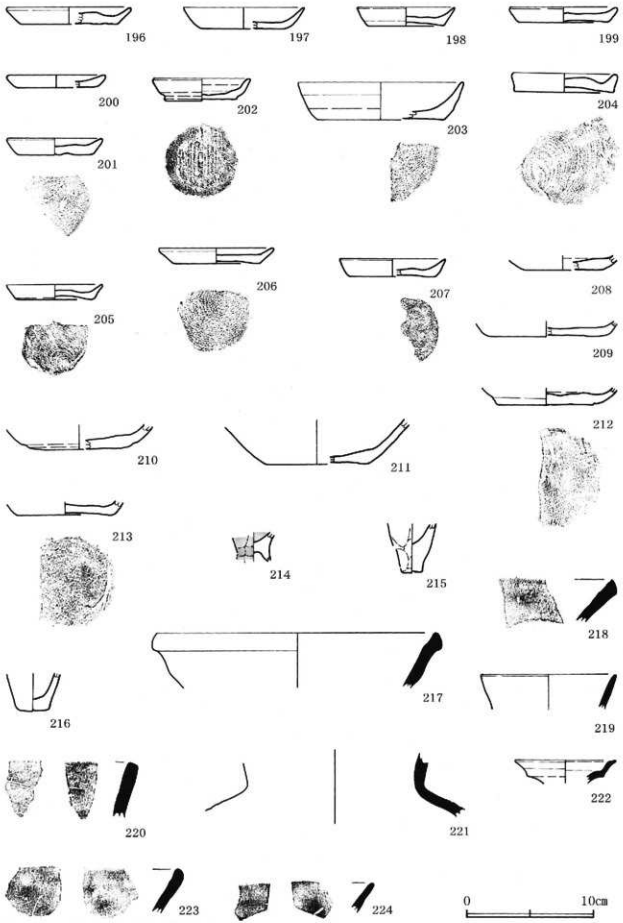
138・139：IV層,143：1436



第34図　Ⅰ区　出土遺物実測図（4）

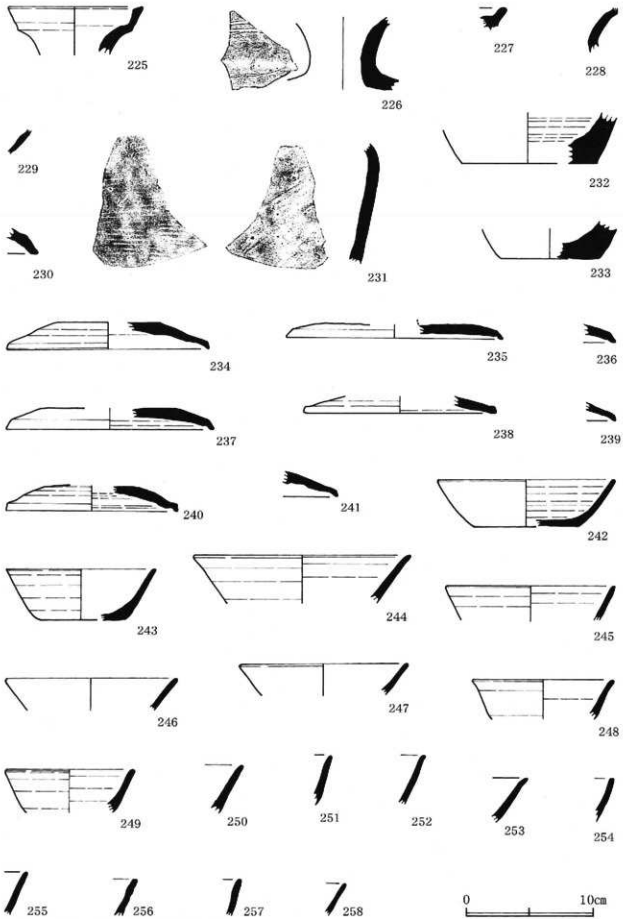


第35図　Ⅰ区　出土遺物実測図（5）

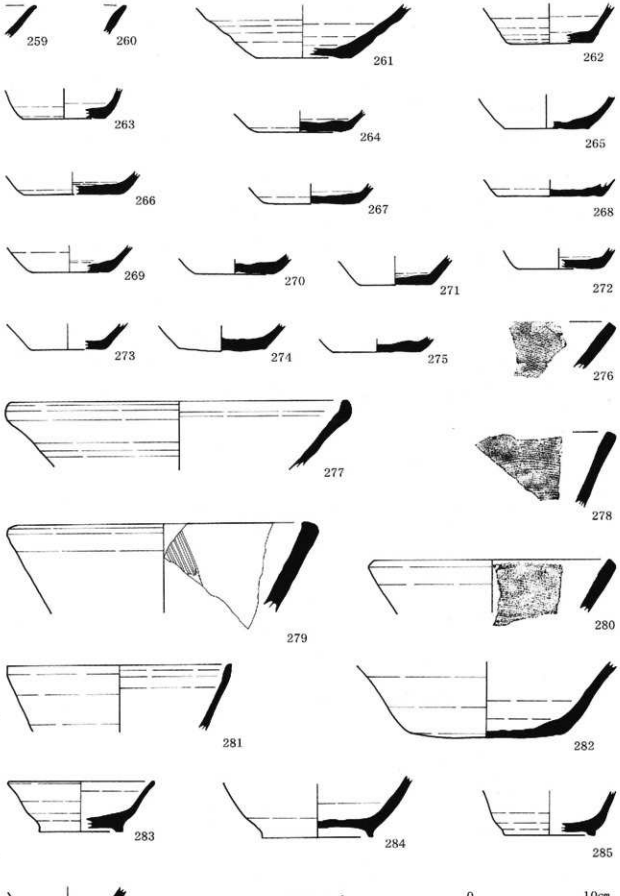


第36図　Ⅰ区　出土遺物実測図（6）

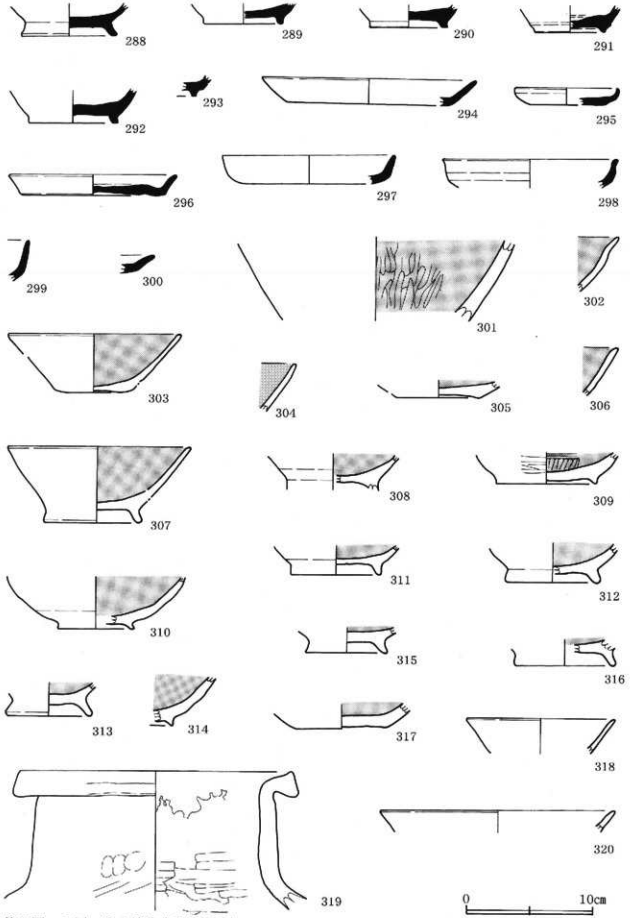
198:838,202:1262,213:1175,216:Ⅳ層



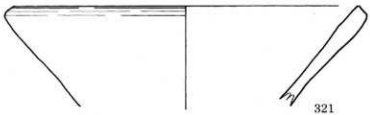
第37図　Ⅰ区　出土遺物実測図（7）

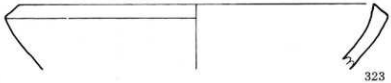


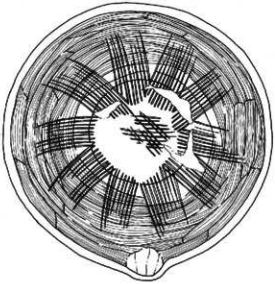
第38図　Ⅰ区　出土遺物実測図（8）

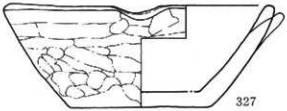


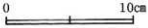
第39図　Ⅰ区　出土遺物実測図（9）











第40図　Ⅰ区　出土遺物実測図（10）　324:百層,327:613

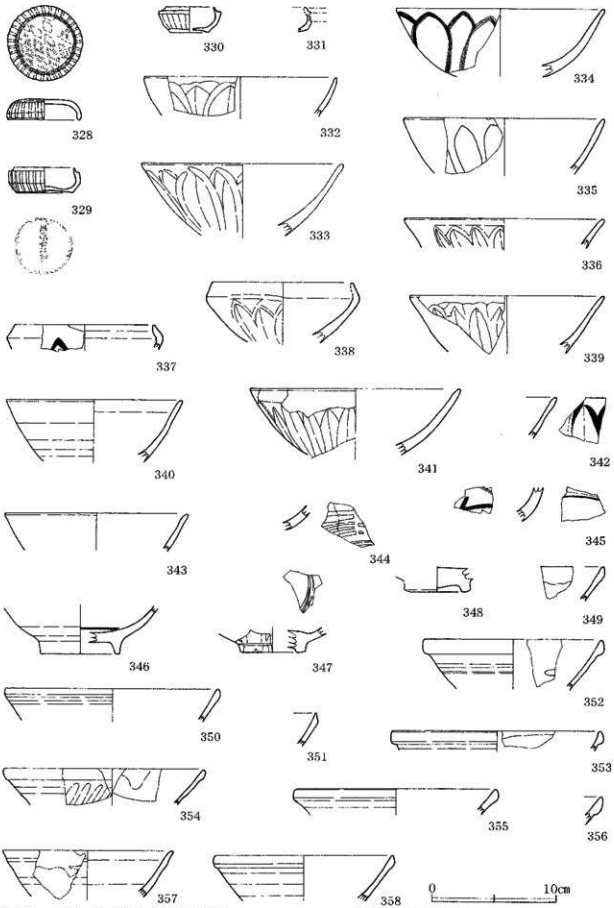
0.8m、深さ10～15cmを測る。遺物は土師器の坏が出土している。

ＳＤ－04

ＳＤ－03の2.7m東で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約８ｍ、幅0.4～0.8m、深さ10～19cmを測る。遺物は出土していない。

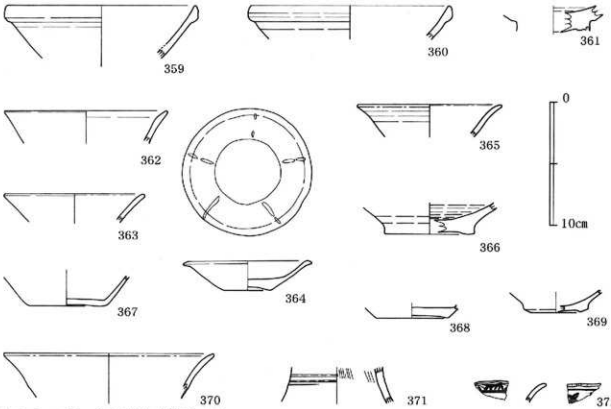
ＳＤ－05

ＳＤ－04の1.6m東で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約８ｍ、幅0.3～0.7m、



第41図　Ⅰ区　出土遺物実測図（11）

328～329：SK-127,330：SK-136,332：SK-117,333：SK(PP)-131,334：169,
344～345：SA-03,347：1207,352：1450,355：SA-01



第42図　Ⅰ区　出土遺物実測図（12）　364:SK-127,365:1481

深さ10～15cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＤ－06

ＳＤ－05の1.3m東で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約６m、幅0.6～0.9m、深さ13～20cmを測る。遺物は出土していない。

ＳＤ－07

ＳＤ－06の1.2m北東で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約８m、幅0.3～0.6m、深さ15～20cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

ＳＤ－08

調査区の東部中央やや南側で検出された、東西にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約10m、幅0.8～0.9m、深さ15～20cmを測る。遺物は弥生土器片が出土した。

ＳＤ－09

調査区の南部中央で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約20m、幅0.5～0.7m、深さ20～37cmを測る。遺物は出土していない。

近世～近代

ＳＫ－150（第29図）

調査区の北部中央やや東よりで検出された、方形を呈する土坑である。規模は、1.23m×1.57m、検出面から床面までの深さは36cmを測る。長さ10～20cm大の礫を積んで、四方の壁を作っている

が、内部にも礫がいくつか入っており、これは壁の部分の礫が落ち込んだものと思われる。礫は被熱した形跡が見られないことから、火葬墓である可能性は低い。内部から遺物などは出土しなかった。

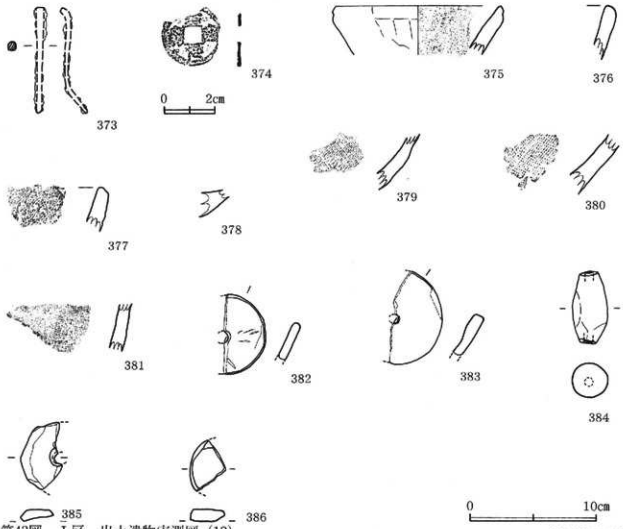
ＳＲ－01

調査区の西部北側で検出された、東西にのびる道路状遺構である。現存で、長さ16.7m、幅2.35～4.4mを測る。側溝は検出されていないが、楕円形を呈する深さ10～30cmの土坑が連続して並ぶことから道路状遺構と判断した。遺物は出土していない。終戦後（短期間）に瓦を焼いて運んだ道があったらしく、当時の道路と推定される。

出土遺物

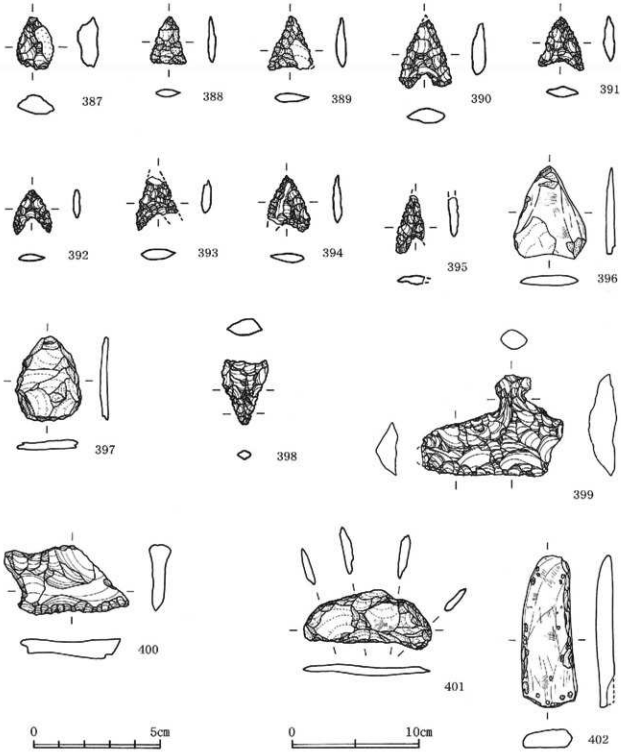
Ⅲｃ層上面での遺構検出、同層の掘り下げとⅣ層上面での遺構検出の際、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・黒色土器・瓦質土器・輸入陶磁器・国産陶器・石器が出土した。

縄文土器は、中期から後期の土器が８点、弥生土器は、甕・壺の口縁部や底部が十数点、土師器は、甕・壺・坏・高坏・埦・皿・ミニチュアなどが出土し、須恵器は、甕・壺・高坏・鉢・埦・擂



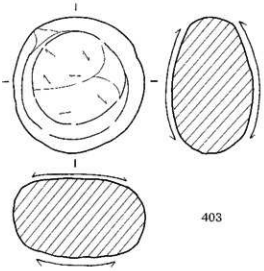
第43図　Ⅰ区　出土遺物実測図（13）

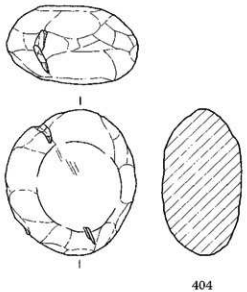
鉢・蓋が出土している。土師質土器と黒色土器は、埦・皿、瓦質土器は、埦・皿・擂鉢が3点出土している。布痕土器や土錘、紡錘車も出土している。中世の国産陶器は、甕や鉢のほか、備前焼の擂鉢、常滑焼のコネ鉢が出土し、輸入陶磁器は青磁の碗・天目茶碗、青白磁の合子、白磁の椀・皿・口禿皿・瓶、青花の鉢が出土し、石器は、打製石鏃・磨製石鏃、石匙・石匙未製品、砥石、磨石、石鍋・石鍋片加工品・石鍋片加工未製品、温石、手鎌と思われるものの未製品、石核が出土した。

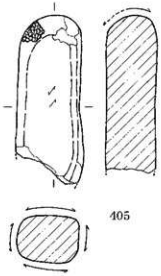


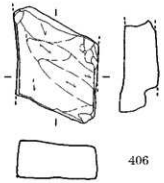
第44図　Ⅰ区　出土遺物実測図（14）

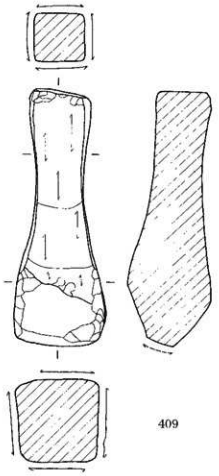
387:SK-08,391・396～397・401:Ⅳ層

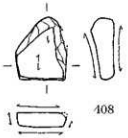


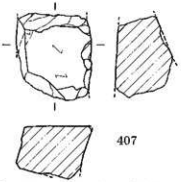






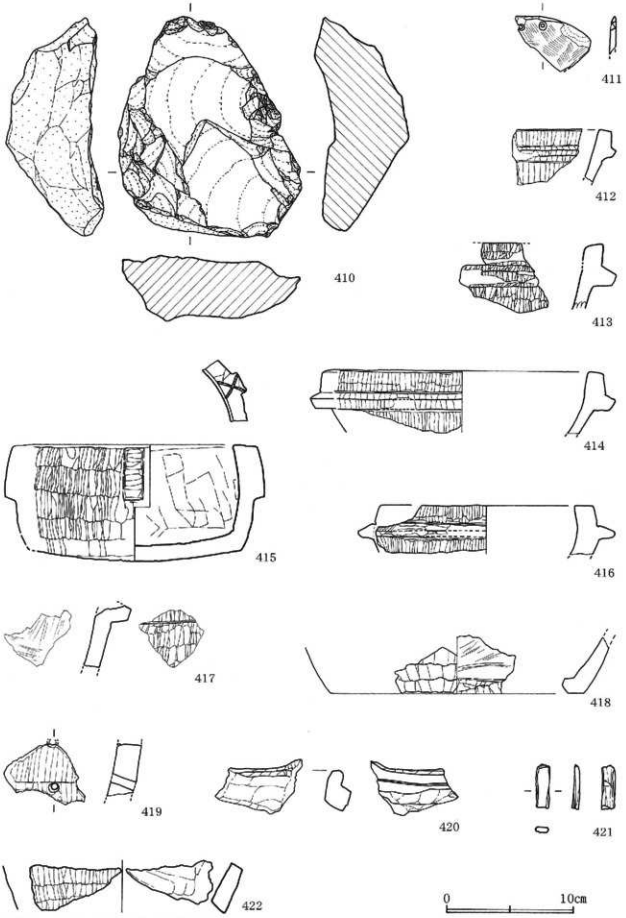






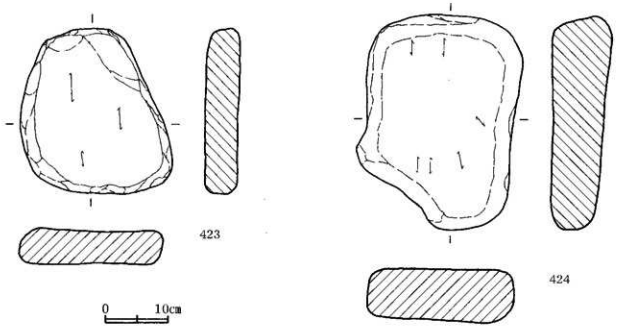
404:SA-03,405:IV層

第45図　1区　出土遺物実測図（15）



第46図　Ⅰ区　出土遺物実測図（16）

411:SK-08,415:SK-127,416:244,417:227,418:1453



第47図　Ⅰ区　出土遺物実測図（17）　423:SK-117,424:SA-04

第５節　Ⅱ区～Ⅲ区の調査

調査は重機でⅢｂ層まで除去し、Ⅱ区の南半分は遺物が多量に出土することから、Ⅲｂ・ｃ層を手掘りで掘り下げた。遺構検出はⅢｃ層上面とⅣａ層上面で行った。その結果、Ⅲｃ層上面では、Ⅱ・Ⅲ区合計で、竪穴状遺構４基、掘立柱建物40棟、土坑・土壙墓92基、溝状遺構２条、多数の柱穴を検出した。Ⅳａ層上面では、竪穴住居23基を検出した。Ⅱ区の東壁中央やや北側では、竪穴住居が東壁にかかって検出されたため、その部分を東へ拡張した。

弥生時代

Ⅳ層上面で遺構検出を行った結果、Ⅱ区の中央部北側で間仕切り住居が３基検出された。その他の遺構は検出されなかった。

ＳＡ－17（第52・55図）

Ⅱ区の中央部北側で検出された、方形を基調とする間仕切り住居で、ＳＡ－18・32と切り合っている。規模は、6.68×6.71ｍ、検出面から床面までの深さは14cmを測る。柱穴は、４個で、径20～33cm、深さ39～62cmを測る。また、貼床が施されており、厚さは６～10cmを測る。

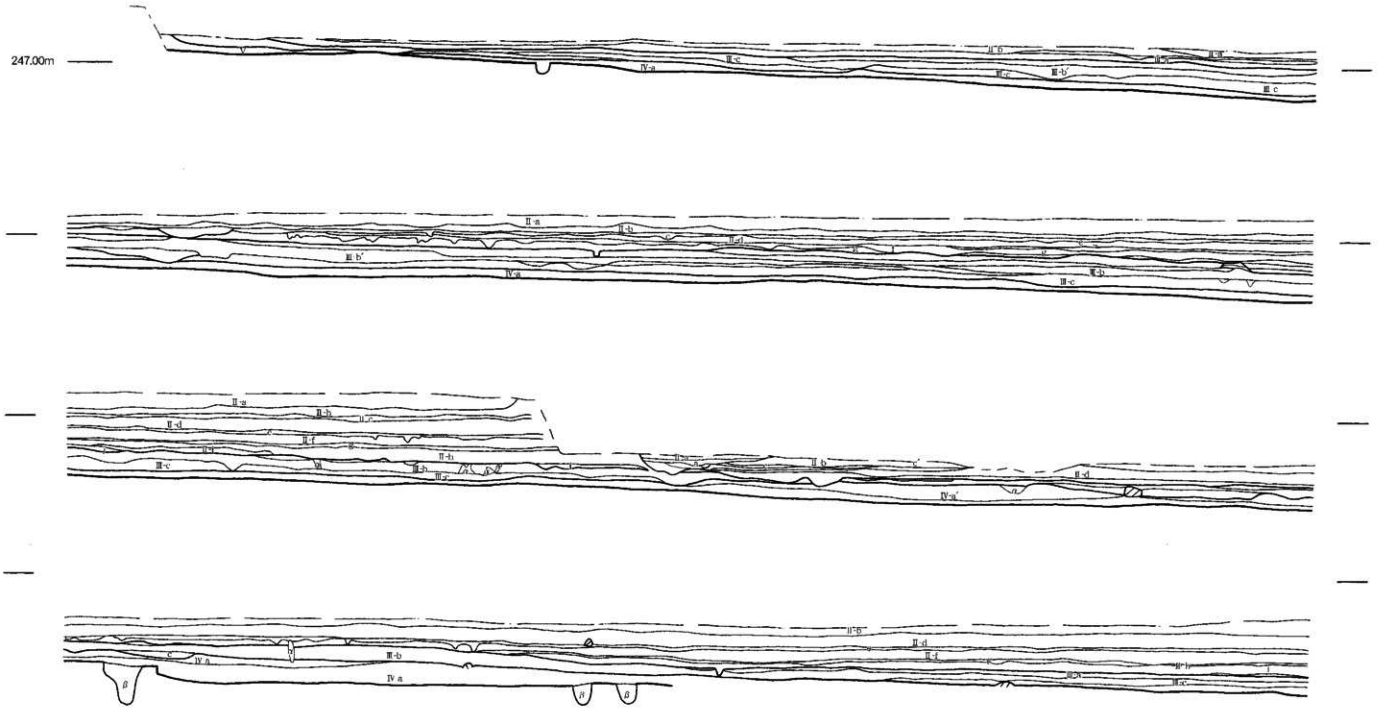
遺物は壷の肩部片１点のみである。

ＳＡ－18（第53図）

Ⅱ区の中央部北側やや東よりで検出された、ＳＡ－17・19・32と切り合っている、現存で5.21×7.05mの方形を基調とする間仕切り住居である。検出面から床面までの深さは８～11cmを測る。柱穴は、３個で、径21～27cm、深さ27～45cmを測る。炉跡や貼床などは検出されなかった。遺物は出土していない。

ＳＡ－21（第54・55図）

第48図　Ⅱ区　遺構全体図

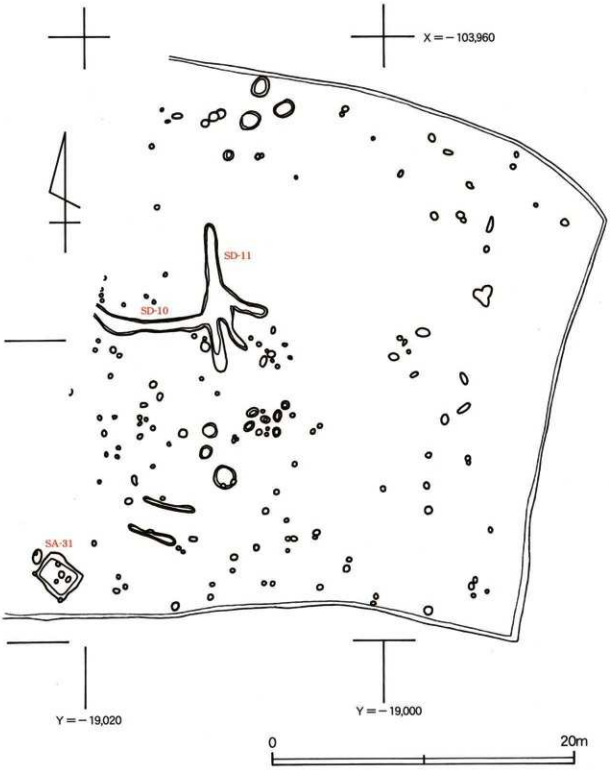


Ⅱ-a，黄褐色＋灰色＋赤褐色細砂質土
a'，黄褐色＋赤褐色細砂質土
b，灰色粗砂質土
c，黄褐色粗砂質土
c'，黄褐色細砂質土
d，灰色粗砂質土＋白色軽石
e，黄褐色粗砂質土
f，灰色＋白色粗砂質土
g，黄褐色粗砂質土
h，暗灰色粗粘質土
i，暗灰色＋茶色細粘質土
j，暗灰色細粘質土
Ⅲ-a，茶褐色細粘質土＋灰色粗砂質土
b，黒色微細粘質土＋灰色粗砂質土
b'，黒色粗粘質土＋灰色粗砂質土
c，灰色＋黒色粘質土＋淡黄褐色細粘質土
Ⅳa，暗褐色微細砂質土
Ⅴ，白色＋黄褐色微細粘質土

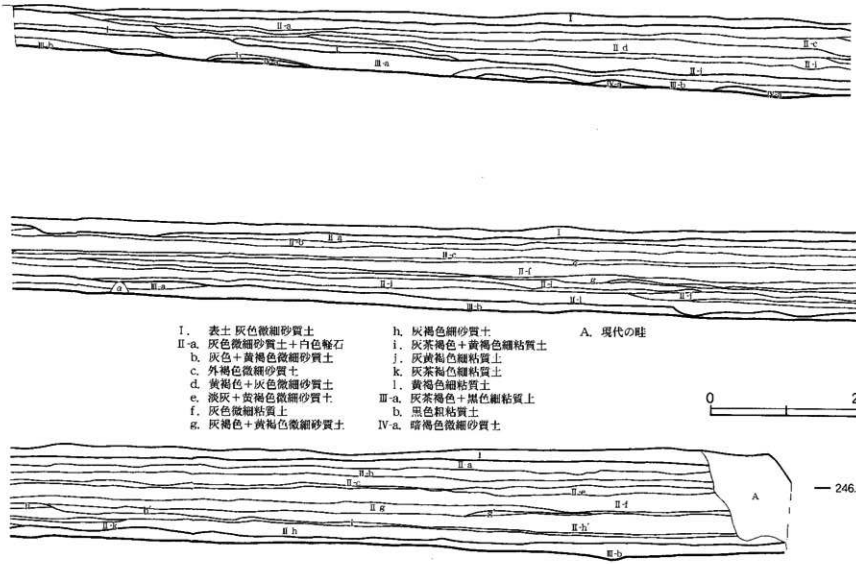
第49図　Ⅱ区　中央壁層序図

Ⅱ区の中央部西側で検出された、間仕切り住居である。住居の中央部分をＳＡ－20によって切られているため、突出部分だけが現存している状態で、6.12×7.84mの不整形を呈しており、詳細は不明である。

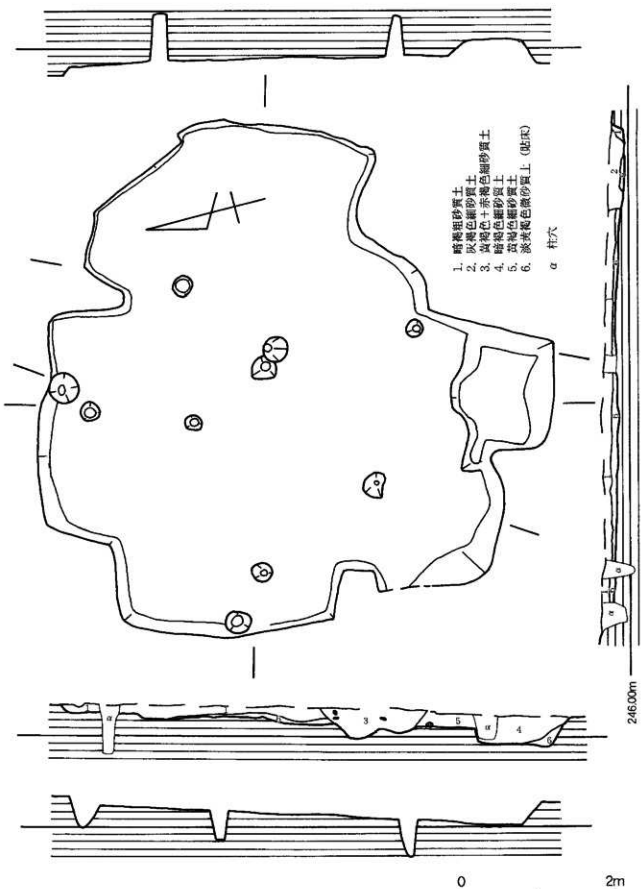
遺物は、土師器の丹塗りの高坏の破片が１点出土しただけである。



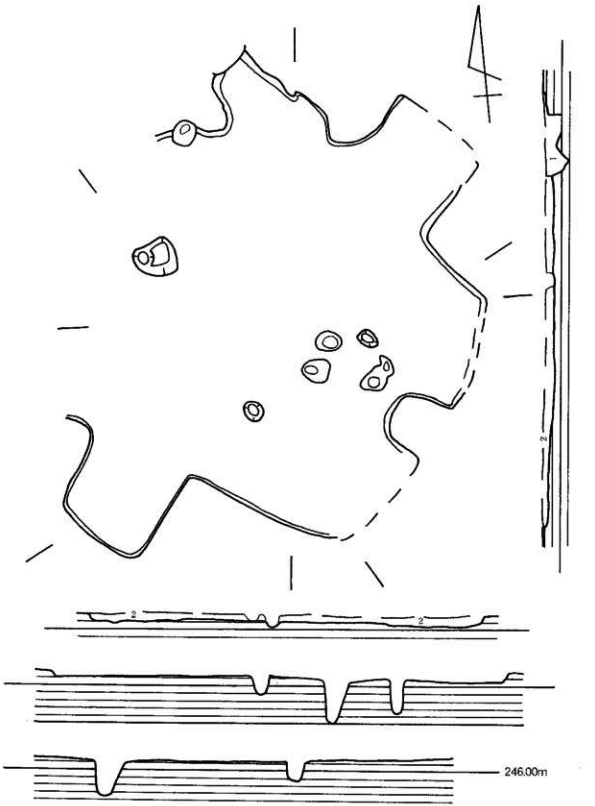
第50図　Ⅲ区　遺構全体図



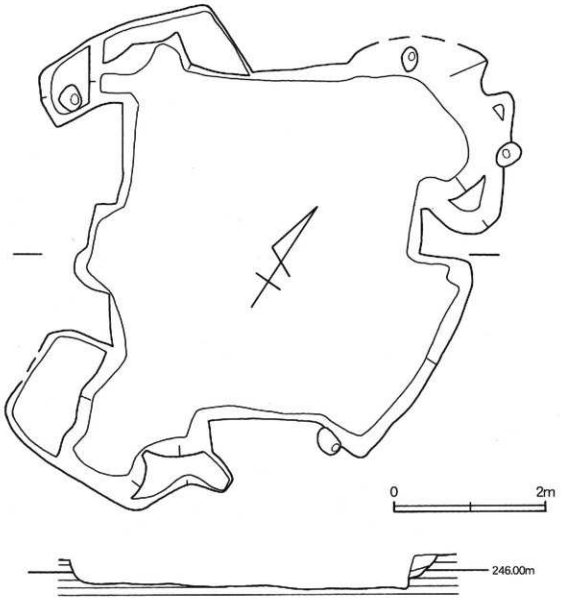
第51図　Ⅲ区　中央壁層序図



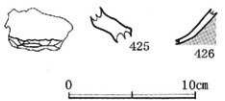
第52図　ＳＡ－17　遺構実測図



第53図　ＳＡ－18　遺構実測図



第54図　ＳＡ－21　遺構実測図



第55図　ＳＡ　出土遺物実測図

古墳時代

Ⅳ層上面で遺構検出を行った結果、Ⅱ区で竪穴住居が18基、Ⅲ区で２基検出された。

ＳＡ－08（第56・59図）

Ⅱ区の北部西側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、1.91×3.01m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。柱穴は３個で、径18～23cm、深さ19～38cmを測る。住居中央は、1.01×2.31mの不整形を呈する、深さ３～８cmの掘り込みがあるが、焼土や炭化物は検出されなかった。貼床も検出されなかった。

遺物は、弥生土器の甕の底部、土師器の甕の口縁部・壷の胴部・高坏の口縁部や脚部などの土器

片が出土しており、壺は丹塗りのものも1点出土している。石器は、溶結安山岩製の台石が出土している。

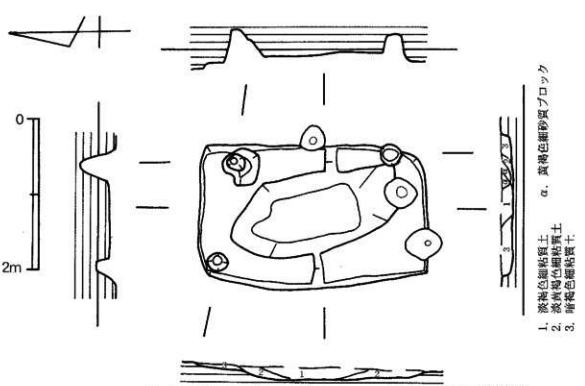
SA－10（第57・60・61・62図）

Ⅱ区の中央部西側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、3.98×5.41m、検出面から床面までの深さは48cmを測る。柱穴は3個で、径20～29cm、深さ12～27cmを測る。住居の北壁側には、ほぼ中心から東側に長さ1.8m、幅121cm、床面からの高さ30～35cmを測る略台形を呈するベッド状遺構と、中心から西側に幅29～48cmで北東隅までのび、そこから西壁に沿って1.6m、床面からの高さ24～33cmを測るL字を呈するベッド状遺構がみられる。住居の中央に南北に通した土層断面用のベルトで、中央から南側に床直上で長さ90cm、厚さ4cmの炭化物を含む暗褐色土が確認された。焼土は検出されなかったが、おそらく炉跡であると思われる。貼床は検出されなかった。

遺物の出土量は多く、弥生土器の甕の口縁部と底部、土師器の甕の口縁部と底部・壺の口縁部・高坏の口縁部と脚部・坏の口縁部・鉢の口縁部、須恵器の蓋坏の口縁部・高坏の口縁部などの土器片が出土した。また、丹塗りの壺・高坏・鉢もみられる。石器は、打製石鏃・敲き石・砥石・台石が出土した。

SA－11（第58・62図）

Ⅱ区の中央部やや西よりで検出された、方形を呈する住居である。規模は、3.25×4.27m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。柱穴は2個で、径15～37cm、深さ16～30cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。遺物は、土師器の甕の刻目突帯部の土器片1点のみである。

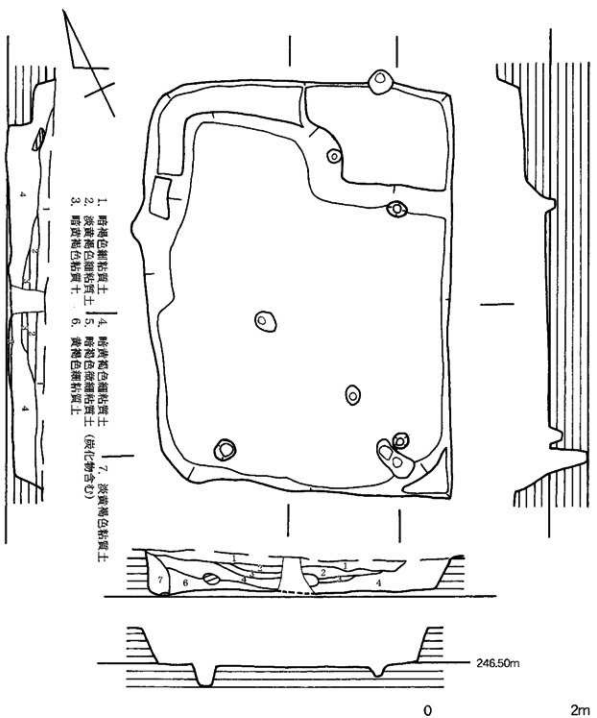


第56図　SA－08　遺構実測図

ＳＡ－12（第63・64・65図）

Ⅱ区の中央部南側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、5.71×6.43m、検出面から床面までの深さは31cmを測る。柱穴は４個で、径26～43cm、深さ39～43cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。

遺物の出土量は多く、土師器の甕の口縁部や底部・壷の口縁部・高坏の口縁部や脚部・鉢の口縁部、須恵器の高坏の脚部などの土器片が出土した。土師器は丹塗りの壷や高坏も出土した。また、



第57図　ＳＡ－10　遺構実測図

鉄鏃の茎部も１点出土した。

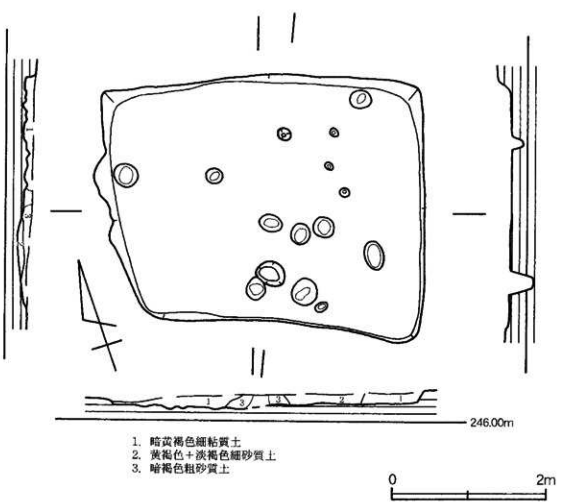
ＳＡ－13（第66・68図）

Ⅱ区の南部西側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、2.79×3.91m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。柱穴は４個で、径19～39cm、深さ７～19cmを測る。住居の北・南側にはベッド状遺構が見られ、北側は、北東隅から長さ1.55m、幅20～33cm、床面からの高さ８～18cmを測り、南側は、南東隅から長さ2.44m、幅２～38cm、床面からの高さ11cmを測る。住居の中央やや南西よりに、長径79cm、短径72cm、深さ11cmの楕円形を呈する掘り込みが検出され、焼土は確認されなかったが、黒色の炭化物が確認されたことから、この掘り込みは炉跡であると思われる。

遺物は少なく、弥生土器の甕の口縁部と底部、土師器の高坏の口縁部と脚部・鉢・台付鉢などの土器片が出土した。鉢は完形品が出土しており、口径12.6cm、器高4.7cmを測る。

ＳＡ－15（第67・68図）

Ⅱ区の南部中央やや西側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、3.15×3.55m、検出面から床面までの深さは31cmを測る。柱穴は３個で、径20～31cm、深さ30～41cmを測る。住居中央部からやや北西の部分で炭化した木材が床直で検出されたが、掘り込みなどは検出されなかった。



第58図　ＳＡ－11　遺構実測図

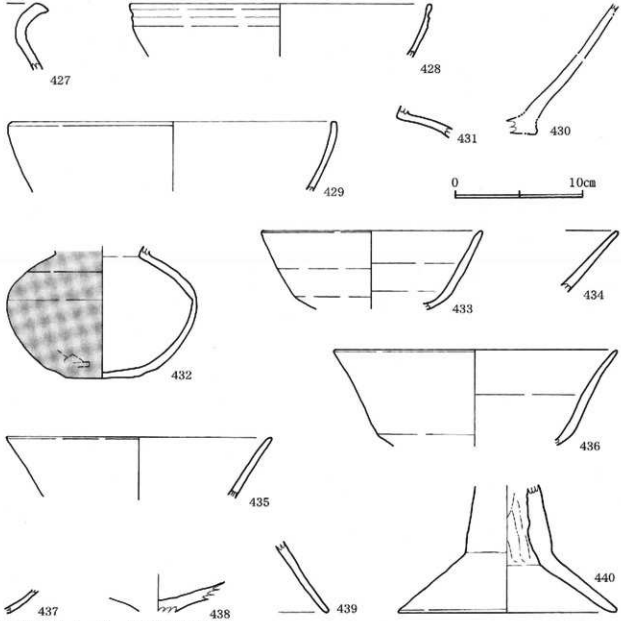
貼床は検出されなかった。

遺物は少なく、弥生土器の甕の口縁部・壷の胴部、土師器の甕の口縁部・壷の頸部・高坏の坏部と脚部・塊の底部などの土器片が出土した。また、丹塗りの壷・高坏や角坏状土器の底部が出土した。石器は、溶結安山岩製の磨石と敲き石が出土した。

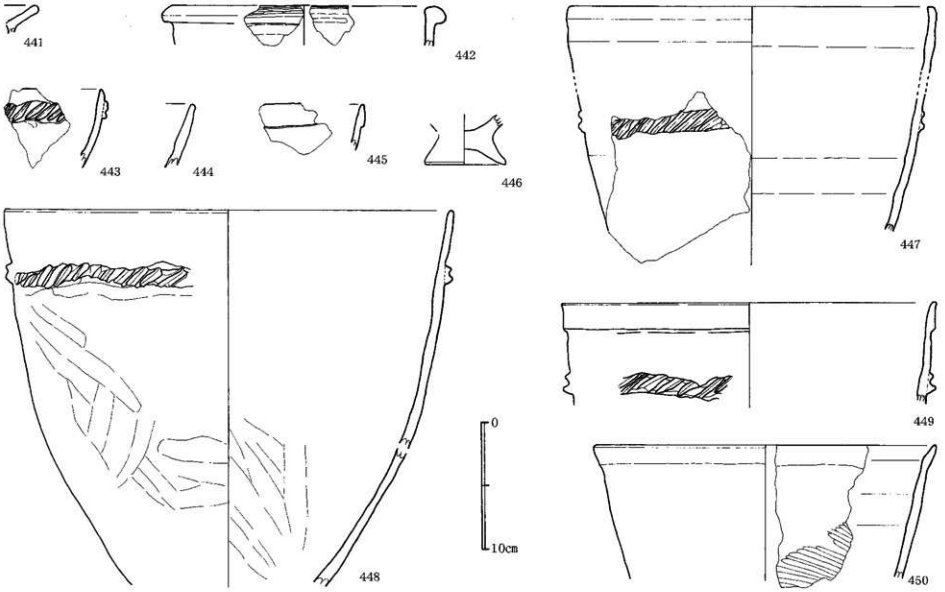
ＳＡ－16（第69・70・71図）

Ⅱ区の南部中央で検出された、方形を呈する住居である。規模は、4.95×5.09m、検出面から床面までの深さは39～43cmを測る。柱穴は３個で、径19～40cm、深さ８～25cmを測る。貼床が施されており、厚さは５～12cmを測る。住居の中央部には、長径79cm、短径71cm、深さ９cmを測る、楕円形を呈する掘り込みが検出された。焼土は確認されなかったが、埋土は炭化物を含んだ黒褐色土であることから、この掘り込みは炉跡と思われる。

遺物の出土量は多く、弥生土器の甕の口縁部・壷の胴部、土師器の甕の口縁部と胴部と底部・壷

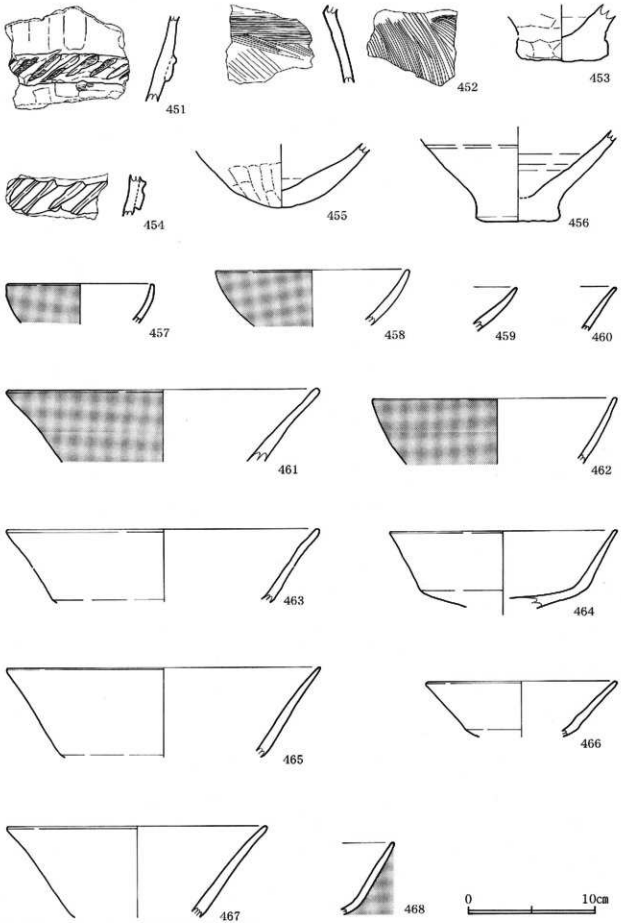


第59図　ＳＡ－08　出土遺物実測図



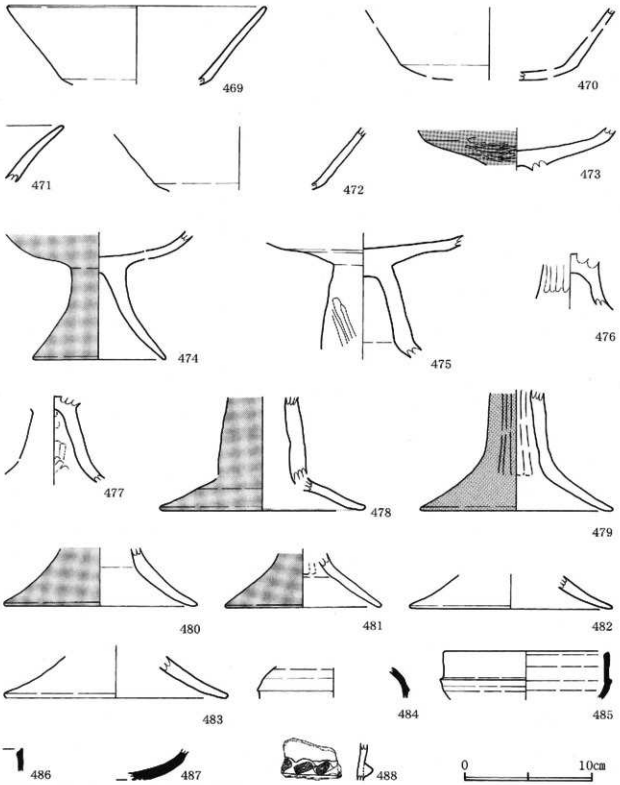
第60図　ＳＡ－10　出土遺物実測図（1）

441～443・445・447～450：SA-10　444・446：SA-10ベルト内



第61図　ＳＡ－10　出土遺物実測図（２）

451～453・455～468：SA-10,454：SA-10・ベルト内



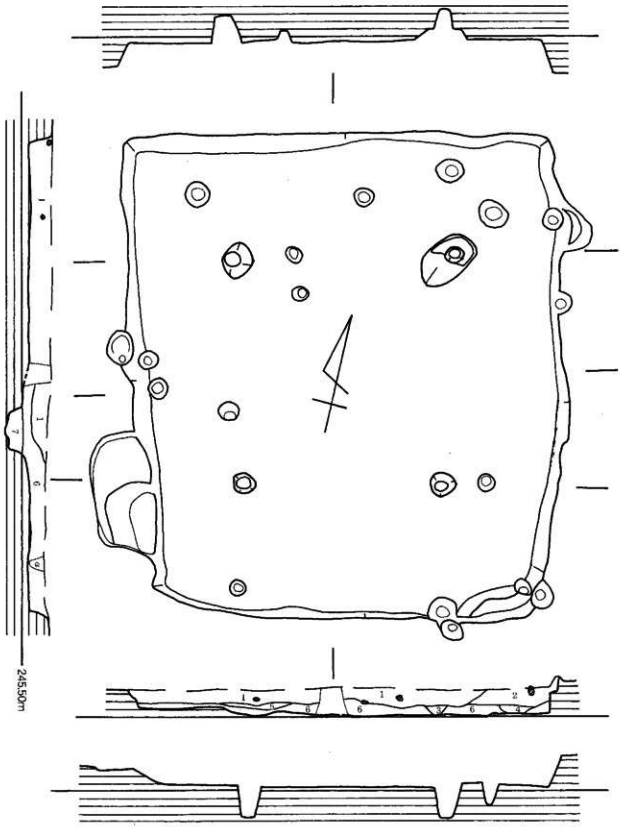
第62図　ＳＡ－10・11　出土遺物実測図

469～487：SA-10,488：SA-11

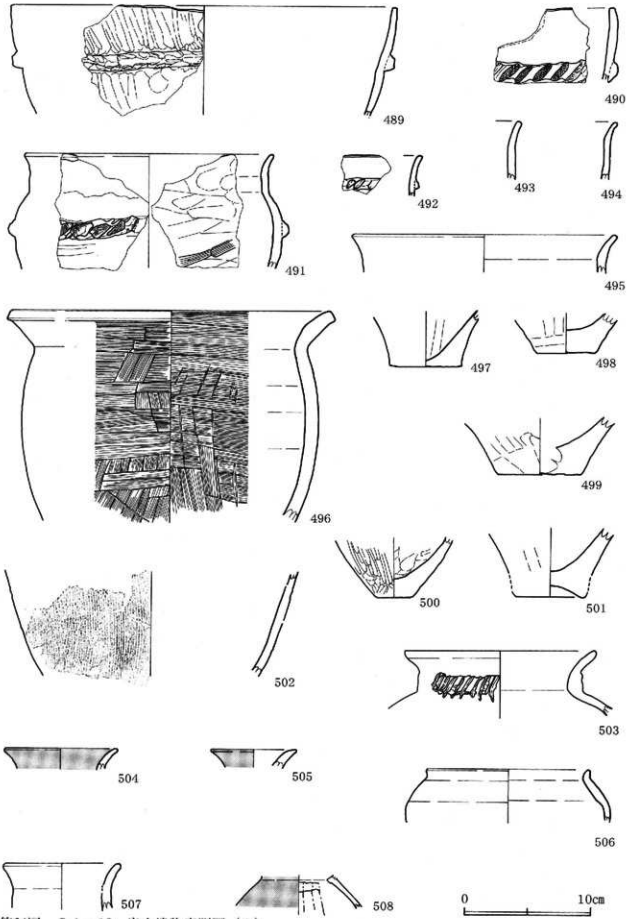
の口縁部と頸部と胴部と底部・高坏の口縁部と脚部・鉢などの土器片が出土しており、土師器では、丹塗りの壷や高坏も出土した。石器では、磨製石鏃１点と剣型垂飾品と思われるものが出土した。

ＳＡ－19（第72・73図）

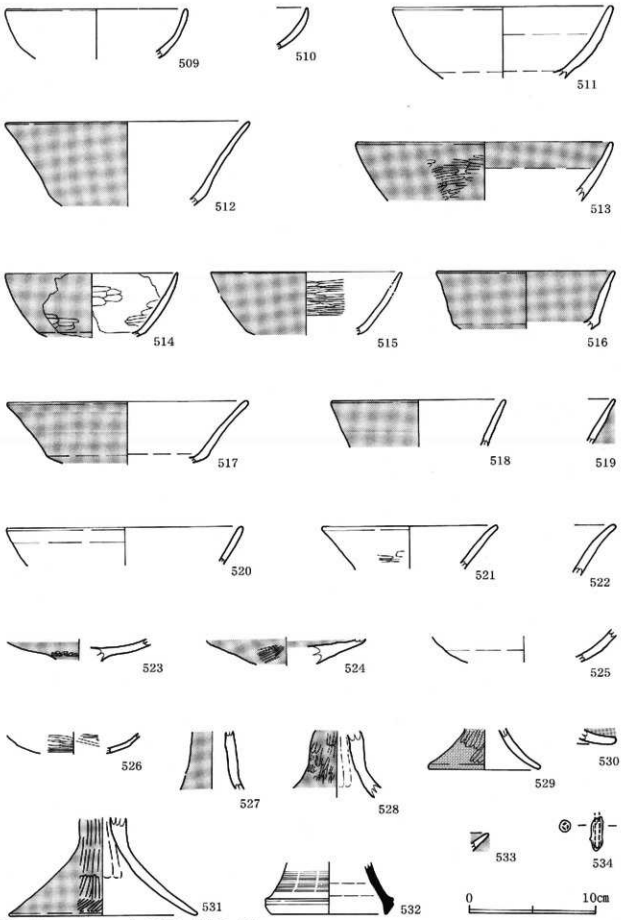
Ⅱ区の北部東側で検出された、ＳＡ－18を切っている、方形を呈する住居である。規模は、2.88×3.21m、検出面から床面までの深さは39cmを測る。柱穴は２個で、径31～34cm、深さ28～31cmを



第63図　ＳＡ－12　遺構実測図



第64図　ＳＡ－12　出土遺物実測図（1）



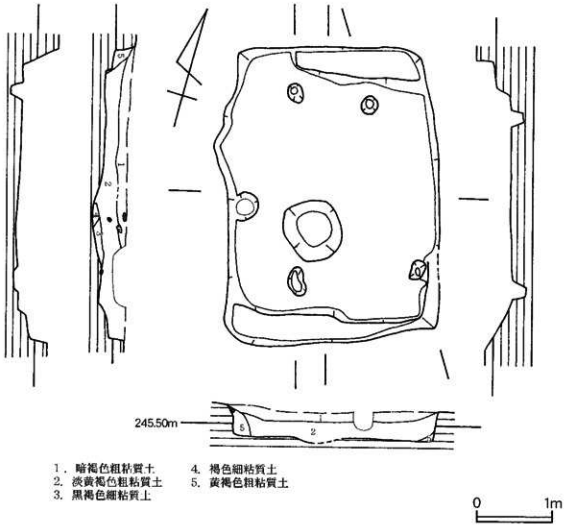
第65図　ＳＡ－12　出土遺物実測図（2）

測る。貼床は検出されず、住居の中央部には、掘り込みは検出されなかったが、土層断面用のベルトで、床直上で炭化物を含んだ黒褐色土が確認されたことから、炉跡があったと思われる。規模は、東西幅1.15mで、南北幅は、土坑と柱穴によって切られているため不明である。

遺物は、弥生土器の甕の口縁部、土師器の甕の口縁部・壺の口縁部・高坏の口縁部と脚部・鉢の口縁部・台付鉢の脚部などの土器片が出土しており、土師器の甕の611は住居の中央部やや北東よりのところで、床直上で出土したものである。また、丹塗りの高坏や鉢も出土している。石器は、溶結安山岩製の台石が出土した。

ＳＡ－20（第74・77・78・79図）

Ⅱ区の中央部東側、ＳＡ－21を切る形で検出された、方形を呈する住居である。規模は、3.92×4.61m、検出面から床面までの深さは41cmを測る。柱穴は２個で、径21～33cm、深さ21～22cmを測る。貼床が施されており、厚さ９～13cmを測る。住居の中央では、土層断面で炭化物を含んだ黒褐色土が貼床直上に確認された。掘り込みの肩はみられなかったが、炉跡と思われる。規模は、径91



第66図　ＳＡ－13　遺構実測図

cmを測る。

遺物の出土量は多く、弥生土器の甕の口縁部と底部、土師器の甕の口縁部と底部・壷の口縁部と底部・高坏の口縁部と脚部・鉢の口縁部、須恵器の甕の胴部などの土器片が出土しており、土師器では丹塗りの甕・壷・高坏・鉢も出土した。また、鉢の完形品が出土しており、口径5.8cm、器高5.1cmを測る。石器では、刃器1点と溶結安山岩製の台石が出土しており、台石は熱を受けた跡がみられる。

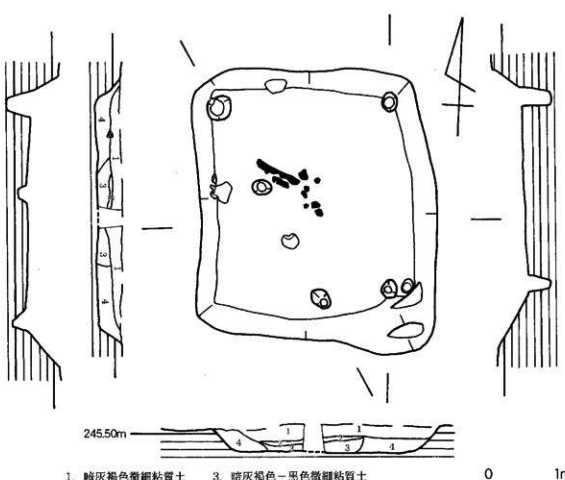
ＳＡ－22（第75・79図）

Ⅱ区の中央部東側で検出された、ＳＡ－23・33と切り合っている方形を呈する住居である。規模は、3.29×3.61m、検出面から床面までの深さは26cmを測る。柱穴は2個で、径22～29cm、深さ31～41cmを測る。貼床が施されており、厚さ3～13cmを測る。炉跡は検出されなかった。

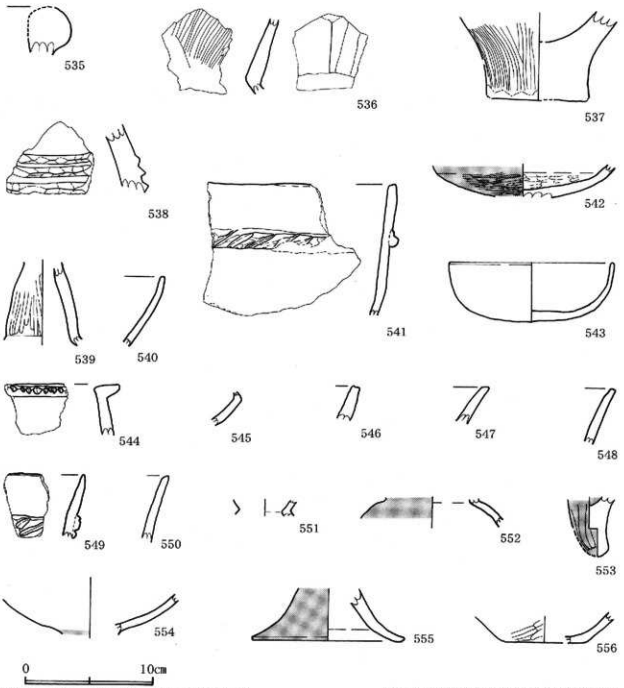
遺物の出土量は少なく、土師器の甕の口縁部・壷の口縁部と肩部・高坏の脚部などの土器片が出土しており、丹塗りの壷がみられる。石器は、剣型垂飾品の未製品と思われるものが1点出土した。

ＳＡ－23（第75・80図）

Ⅱ区の中央部東側で検出された、ＳＡ－22と切り合っている方形を呈する住居である。規模は、



第67図　ＳＡ－15　遺構実測図



第68図　ＳＡ－13・15　出土遺物実測図

535・537～543：SA-13,536：SA-13・ベルト内,544～545・547～555：SA-15,546・556：SA-15・ベルト内

2.39×2.54m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。柱穴は２個で、径30～37cm、深さ７～53cmを測る。貼床と炉跡は検出されなかった。

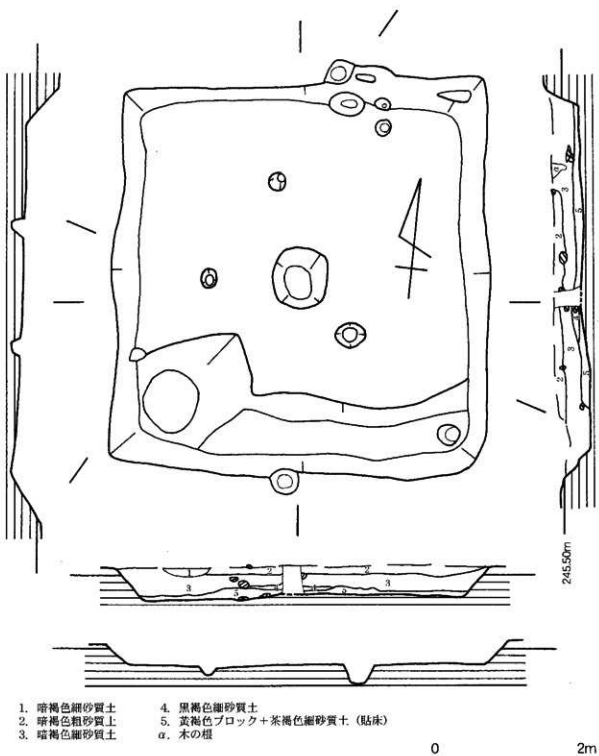
遺物の出土量は少なく、弥生土器の甕の胴部、土師器の甕の口縁部・壷の口縁部・高坏の口縁部・鉢の口縁部や脚部などの土器片が出土しており、丹塗りの壷・高坏・鉢も出土した。石器は、打製石鏃未製品１点、磨製石鏃１点、台石が１点出土した。

ＳＡ－24（第76・80・81図）

Ⅱ区の中央部南側やや東よりで検出された、方形を呈する住居である。規模は、3.81×3.91m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。柱穴は６個で、径15～36cm、深さ７～71cmを測る。貼床は検出されなかったが、住居中央には、長径98cm、短径61cm、深さ９cmを測る不整形を呈する掘り

込みがあり、埋土は炭化物を含んだ黒褐色土が確認されたため、この掘り込みは竪穴住居跡と思われる。

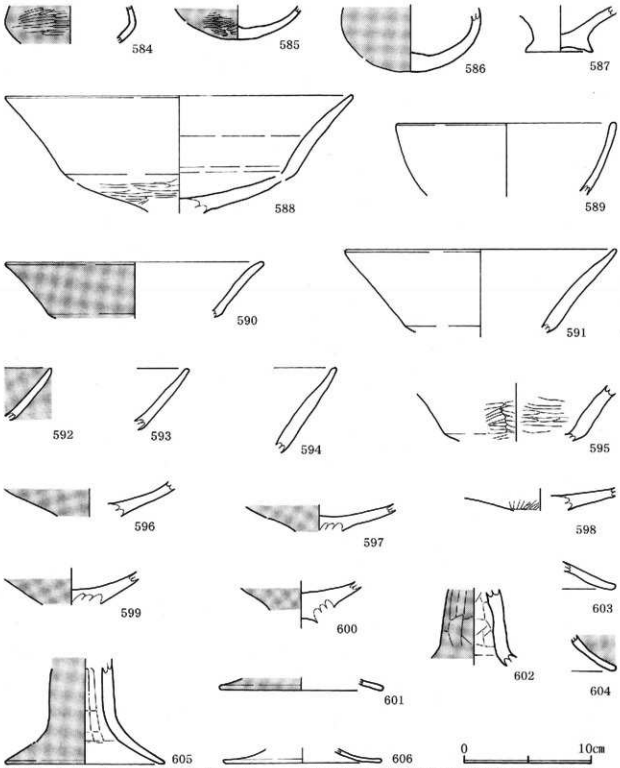
遺物は、弥生土器の甕の胴部、土師器の甕の口縁部と底部・壷の口縁部・高坏の口縁部と脚部などの土器片が出土しており、土師器は丹塗りの壷・高坏もみられる。また、714は帯金具もしくは



第69図　ＳＡ－16　遺構実測図

第70図　ＳＡ－16　出土遺物実測図（1）

557・559～562・564～566・568～569・571・573・575～576・579～580・582：SA-16,558・567・574：SA-16・上層,563・581・583：SA-16・中層,570・572・578：SA-16・ベルト先,577：SA-16・下層



第71図　ＳＡ－16　出土遺物実測図（２）　584～586・588～590・592～594・596～600・602～604・606：SA 16,587・591・595・605：SA 16・ベルト内,601：SA 16・中層

馬具と思われる鉄製品で、現存で角に３箇の孔が確認できる。Ｘ線写真撮影を行ったところ、孔に５mmほど残っているものは、Ｘ線を透過せず黒く残っていたため、この物質は、鉄ではなく、Ｘ線を透過しない別の物質であることが判明したが、物質そのものは不明である。石器は、硬砂岩製の石斧を転用した刃器未製品１点と粘板岩製の剣型模造品と思われるもの１点、溶結安山岩製の台石１点が出土した。

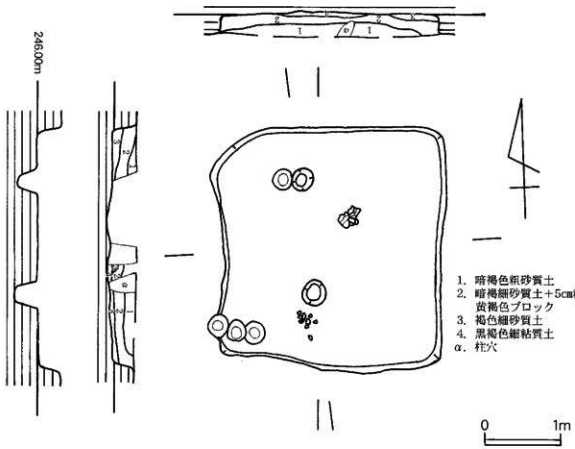
ＳＡ－25（第82・88図）

Ⅱ区の中央部やや南よりで検出された、方形を呈する住居である。規模は、4.18×4.41m、検出面から床面までの深さは８～12cmを測る。柱穴は４個で、径15～22cm、深さ19～39cmを測る。貼床が施されており、厚さ12～20cmを測る。住居中央には、径68cm、深さ16cmの貼床から掘り込まれた掘り込みがあり、埋土は炭化物を含んだ黒褐色土が確認されたため、この堀込みは炉跡と思われる。

遺物の出土量は少なく、弥生土器の甕の口縁部と胴部・壺の胴部、須恵器の甕の口縁部などの土器片と粘板岩製の石包丁、溶結安山岩製の台石が出土した。

ＳＡ－26（第83・88図）

Ⅱ区の東部中央やや南側の拡張部で検出された、方形を呈する住居である。規模は、3.23×4.21m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。柱穴は５個で、径14～33cm、深さ５～12cmを測る。住居の中央部やや南側には、長径73cm、短径66cm、深さ４～６cmの掘り込みがあり、埋土は炭化物を含む黒褐色土であるため、この掘り込みは炉跡と思われる。また、住居の内部の壁際には、幅12～34cm、深さ５～10cmの溝が４辺に廻らされている。



第72図　ＳＡ－19　遺構実測図

遺物の出土量は少ないが、住居の西壁際で、土師器の甕が、壁にもたれるような形で出土した。そのほか、土師器の壺の口縁部・高坏の口縁部・鉢の口縁部などの土器片が出土しており、丹塗りの壺・高坏・鉢がみられる。

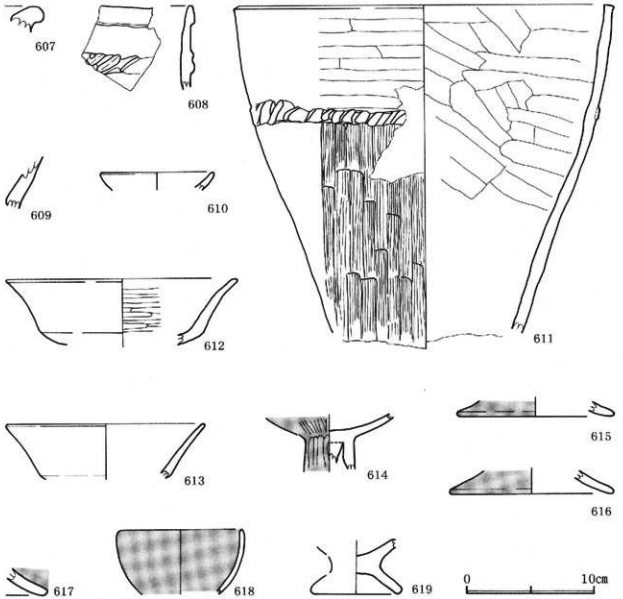
ＳＡ－27（第83図）

Ⅱ区の南部東側で検出された、中央から西半分が20cmほど長い、方形を呈する住居である。規模は、1.57×1.64m、検出面から床面までの深さ10cmを測る。柱穴・炉跡などは検出されなかった。

遺物は出土していない。

ＳＡ－28（第84・88図）

Ⅱ区の南部東側で検出された、隅丸方形を呈する住居である。規模は、2.61×2.95m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。柱穴は４個で、径12～31cm、深さ13～23cmを測る。貼床や炉跡は検出されず、遺物は弥生土器の壺の口縁部から頸部にかけての破片が出土したのみである。



第73図　ＳＡ－19　出土遺物実測図

607・609～611・615～619：SA-19,608・613：SA-19・上層,612・614：SA-19・下層

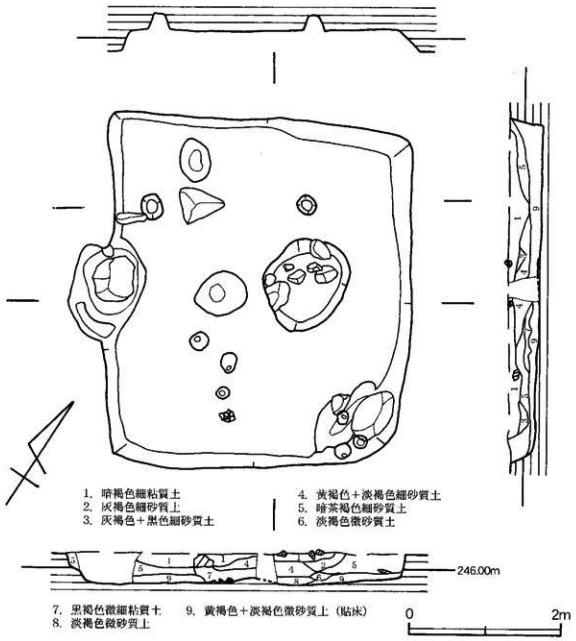
ＳＡ－30（第85・88・89図）

Ⅲ区の西部中央、Ⅱ区との境目で検出された、南壁の中央から東へ幅1.43mの部分が40cmほど南へ突出した、方形を呈する住居である。規模は、2.58×4.34m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。柱穴は３個で、径20～25cm、深さ13～45cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。

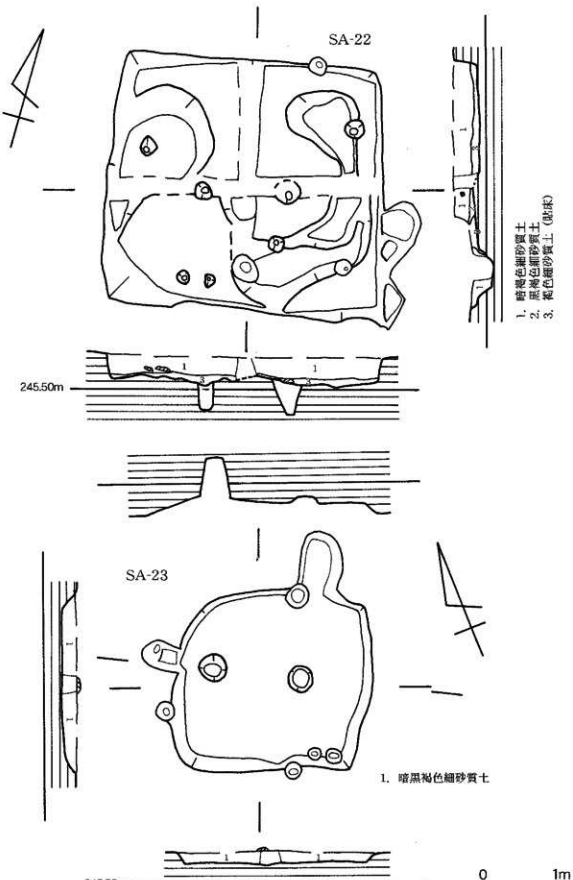
遺物は少なく、弥生土器の甕の口縁部片２点と溶結安山岩製の磨石が１点出土したのみである。

ＳＡ－31（第85・89図）

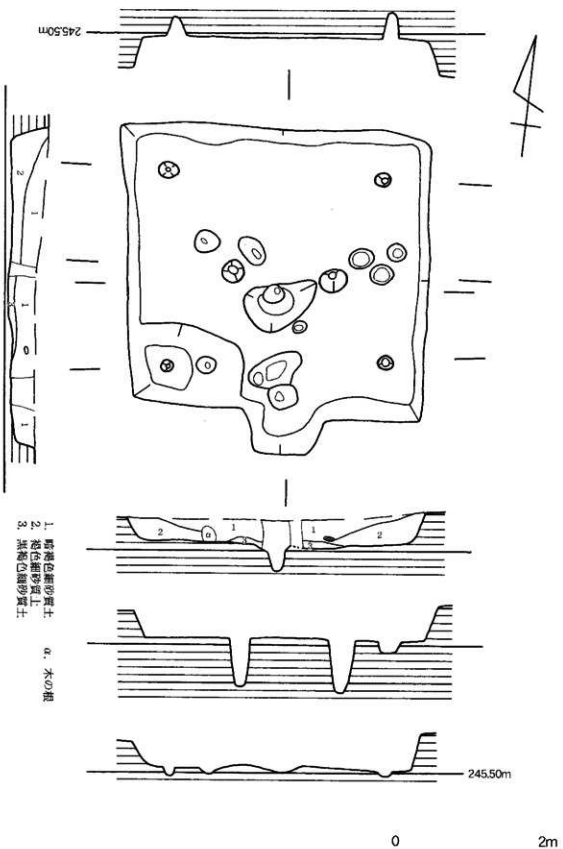
Ⅲ区の南部西側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、2.22×2.68m、検出面から床面までの深さは31cmを測る。柱穴は２個で、径25～30cm、深さ22～35cmを測る。貼床と炉跡は検出されなかった。



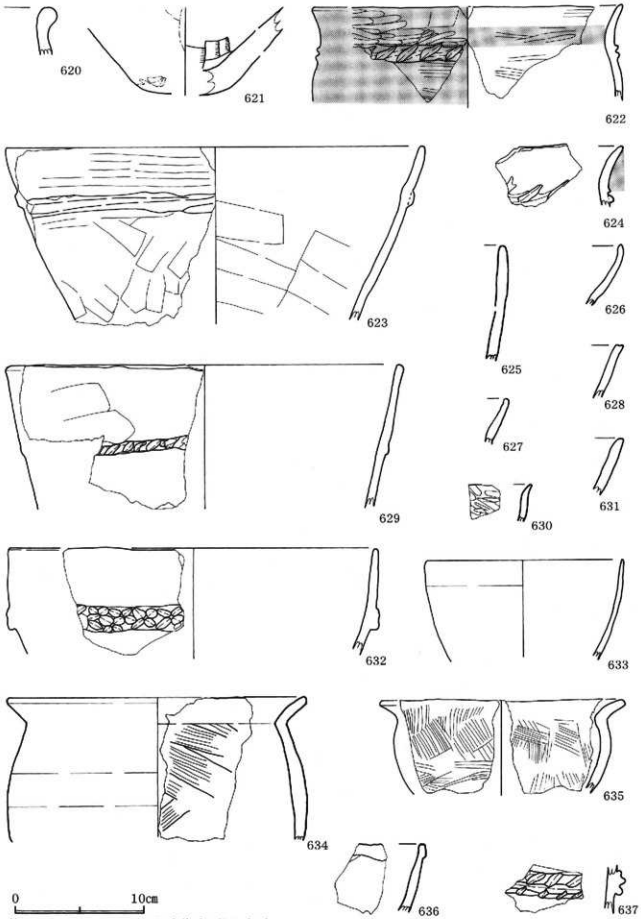
第74図　ＳＡ－20　遺構実測図



第75図　ＳＡ－22・23　遺構実測図

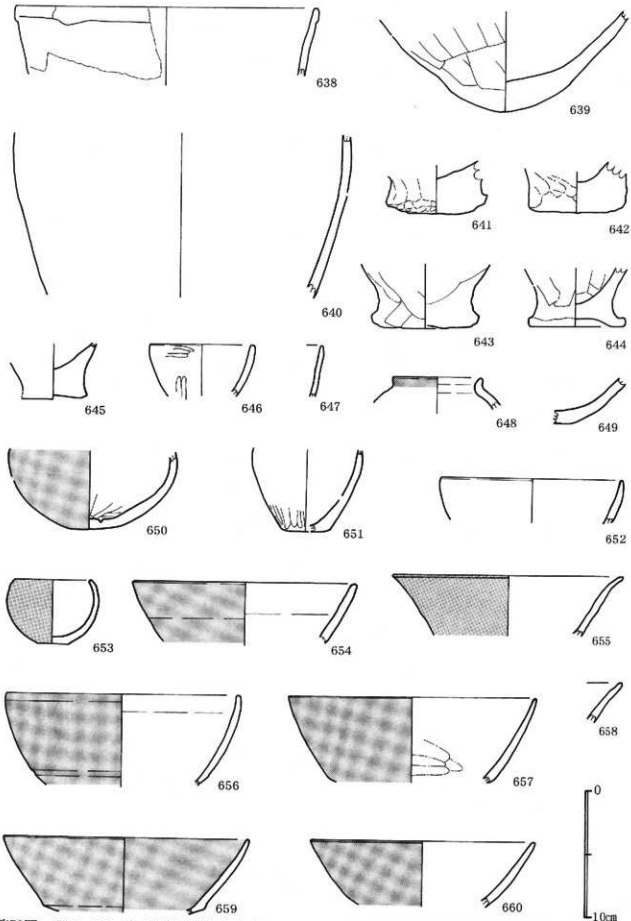


第76図　ＳＡ－24　遺構実測図



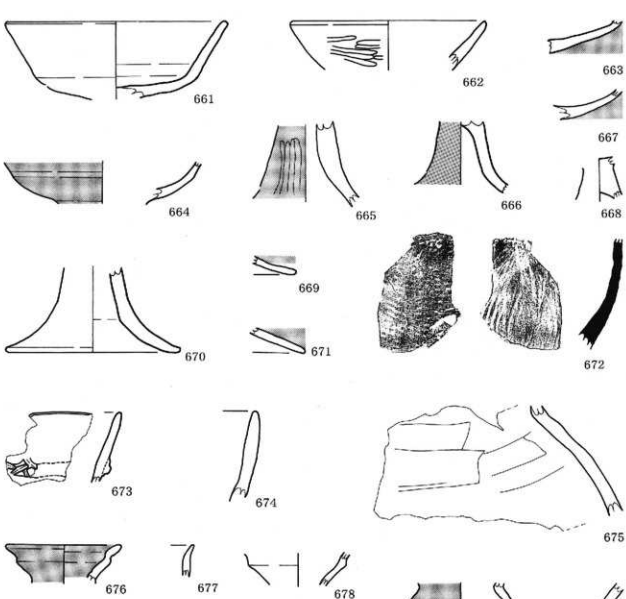
第77図　ＳＡ－20　出土遺物実測図（1）

620～623・625～626・628～637：SA-20　624・627：SA-20・上層



第78図　ＳＡ－20　出土遺物実測図（2）

638～644・647・649～656・658・660：SA-20　645・657・659：SA-20・ベルト内，646・648：SA-20・上層



第79図　ＳＡ－20・22　出土遺物実測図

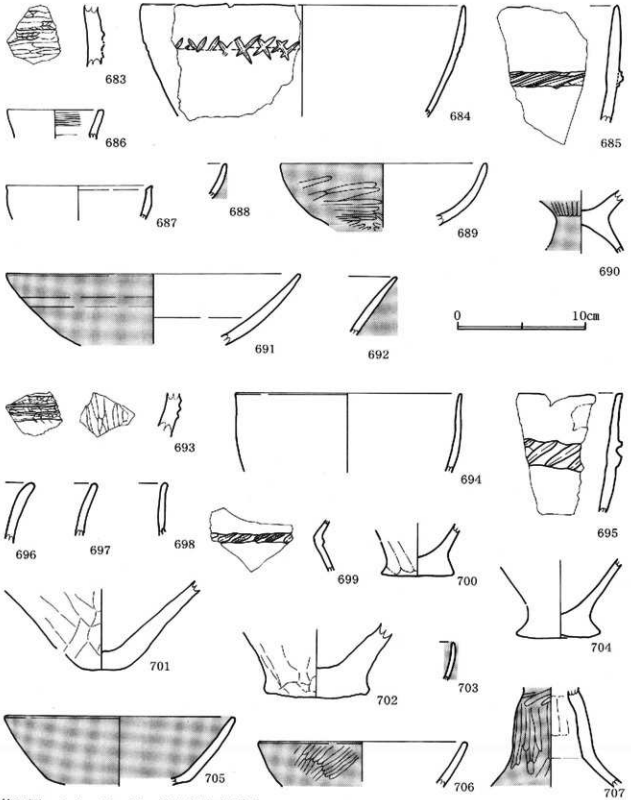
661～663・665～668・670～672：SA 20　664：SA 20ベルト内　669：SA 20・上層
673～681：SA 22　682：SB 86

遺物の出土量は少なく、土師器の甕の口縁部・丹塗りの壺の口縁部・丹塗りの鉢の底部などの土器片が出土した。また、コップ型土器も出土しており、復原値であるが、口径7.6cm、器高9.5cmを測る。

ＳＡ－32（第86図）

Ⅱ区の中央部北側で検出された、ＳＡ－17・18を切っている、方形を呈する住居である。規模は、1.76×2.49m、検出面から床面までの深さは11cmを測る。柱穴は６個で、径15～26cm、深さ15～38cmを測る。貼床と炉跡は検出されなかった。遺物は出土していない。

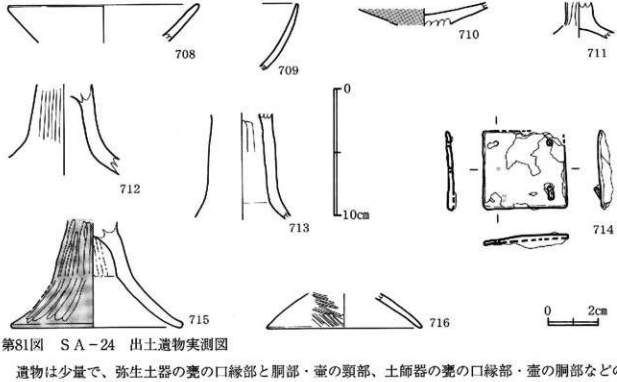
ＳＡ－33（第87・89図）



第80図　ＳＡ－23・24　出土遺物実測図

683～692:SA-23,693・706:SA-24・上層,694～705・707:SA-24

Ⅱ区の中央部東側、Ⅲ区との境目付近で検出された、南西隅が張り出した不整形を呈する住居である。住居の南西部をＳＡ－22に切られているため、南北の長さは不明であるが、東西の長さは4.92m、検出面から床面までの深さは10～12cmを測る。柱穴は２個で、径23～26cm、深さ35～52cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。



第81図　ＳＡ－24　出土遺物実測図

遺物は少量で、弥生土器の甕の口縁部と胴部・壷の頸部、土師器の甕の口縁部・壷の胴部などの土器片と粘板岩製の石製模造品か垂飾品の未製品と思われるものが２点出土した。

古代～中世

Ⅲｃ層上面で遺構検出を行った。その結果、竪穴住居５基、掘立柱建物を40棟、土坑・土壙墓92基、溝状遺構２条を検出した。

ＳＡ－06（第90・94図）

Ⅱ区の北部中央やや西よりで検出された、方形を呈する竪穴住居である。規模は3.21×3.27m、検出面から床面までの深さは24cmを測る。主柱穴は３個で、径35～46cm、深さ15～39cmを測る。住居の中央やや西よりには、長径86cm、短径72cm、深さ14cmの不整形を呈する掘り込みがあり、土層断面で焼土が確認され、この掘り込みは炉跡と思われる。貼床は検出されなかった。

遺物は、土師器の甕の口縁部・坏の底部・高坏の口縁部・埦、須恵器の壷の底部・坏の口縁部・埦の口縁部、黒色土器の坏・埦などの土器片が出土した。744は土師器の坏の底部で、底部外面に墨書が認められるが、釈文は不明である。

ＳＡ－07（第91・94・95図）

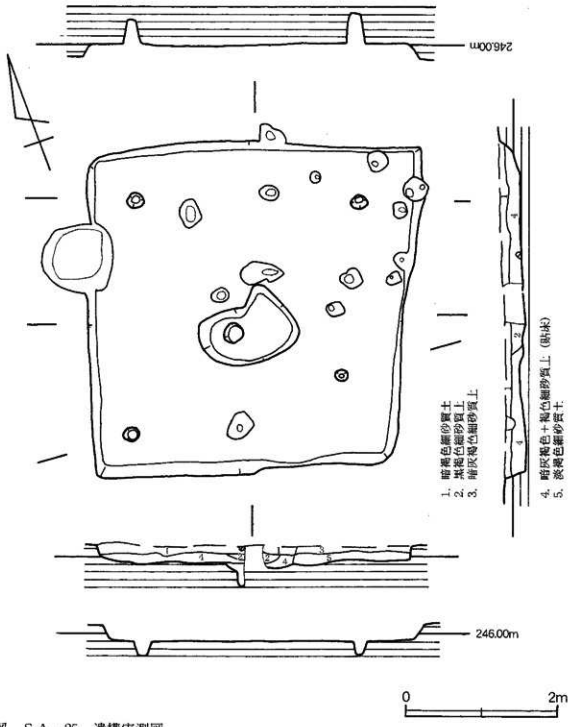
Ⅱ区の中央部北側で検出された、方形を呈する竪穴住居である。規模は、2.38×2.58m、検出面から床面までの深さは49cmを測る。東西にベッド状遺構があり、東側は長さ1.8m、幅32～35cm、床面からの高さ16cm、西側は長さ1.88m、幅35～49cm、床面からの高さ14cmを測る。柱穴は２個で、径19～33cm、深さ８～12cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。

遺物は、弥生土器の甕の口縁部、土師器の甕の口縁部・壷の口縁部・坏の底部・皿の底部、須恵器の甕の胴部、黒色土器の鉢の底部・壷の底部、布痕土器などの土器片が出土した。763は土師器

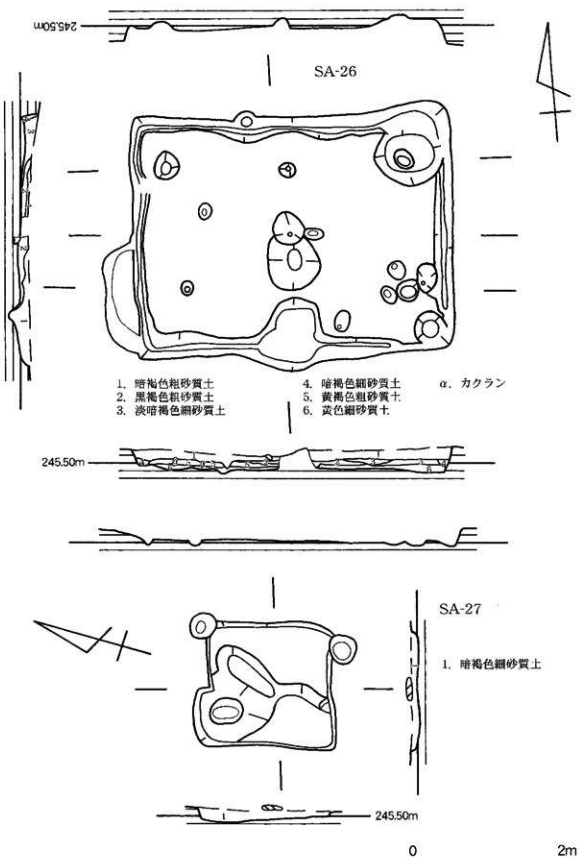
の坏の完形品で、口径11.5cm、器高は4.0cmを測る。765は皿の口縁部片で、体部外面に墨書が認められるが、釈文は不明である。

ＳＡ－09（第91・95・96図）

Ⅱ区の北部西側で検出された、楕円形を呈する竪穴住居である。長径2.95m、短径1.82m、検出面から床面までの深さは8cmを測る。柱穴は1個で、径22cm、深さ57cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。



第82図　ＳＡ－25　遺構実測図



第83図　ＳＡ－26・27　遺構実測図

遺物は、弥生土器の壺、土師器の甕の口縁部・坏・灯明皿、須恵器の塊の口縁部などの土器片が出土した。土師器の坏と灯明皿の完形品が出土しており、坏は、口径12.1cm、器高4.2cm、灯明皿は、口径8.8cm、器高3.1cmを測る。石器は、砂岩製の磨製石斧が出土した。

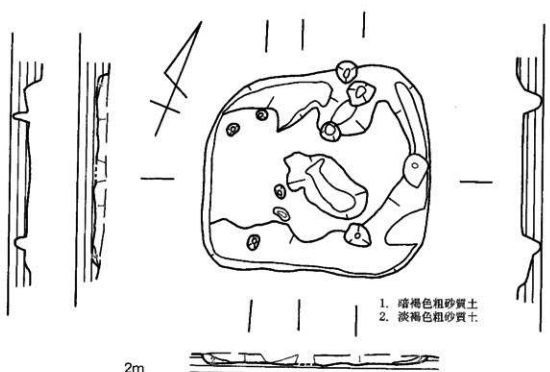
ＳＡ－14（第92・96・97・98図）

Ⅱ区の南部西側で検出された、方形を呈する竪穴住居である。規模は、3.53×3.63m、検出面から床面までの深さは53～57cmを測る。柱穴は２個で、径23～25cm、深さ15～21cmを測る。住居の北壁の中央やや西よりには、長さ55cm、幅40cmのテラスがみられ、南壁の中央から東側には、長さ82cm、幅13cmのものと、長さ47cm、幅10cmのテラスがみられる。用途は不明である。また、貼床が施されており、厚さは４～15cmを測る。炉跡は検出されなかった。

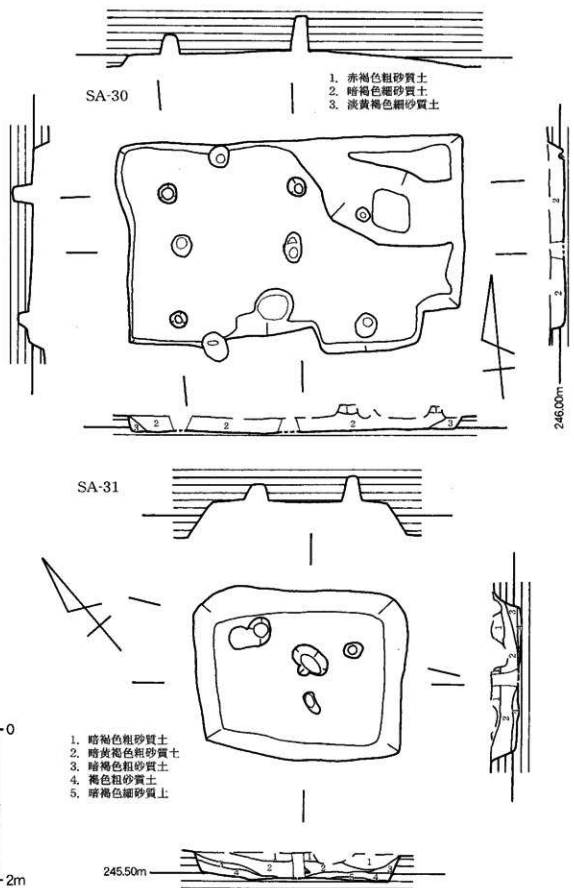
遺物は、弥生土器の甕の口縁部、土師器の甕の口縁部と底部・壷の口縁部・高坏の口縁部と脚部・鉢の口縁部・台付鉢の脚部、須恵器の甕の胴部・壷の胴部、布痕土器の口縁部などの土器片が出土しており、また、丹塗りの高坏・鉢もみられる。石器は、磨製石鏃未製品、砂岩製の磨製石斧、溶結安山岩製の台石が出土した。

ＳＡ－29（第93・98図）

Ⅱ区の南部東側で検出された、隅丸方形を呈する竪穴住居である。規模は、2.37×2.39m、検出面から床面までの深さは26cmを測る。柱穴は１個で、径32cm、深さ19cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。遺物は少なく、土師器の甕の胴部・甑の把手、布痕土器などの土器片と磨製石斧が出土したのみである。



第84図　ＳＡ－28　遺構実測図



第85図　ＳＡ－30・31　遺構実測図

ＳＢ－62（第99図）

Ⅱ区の西部北側にある、梁行２間4.14～4.16m、桁行２間5.36mを測る、東西に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径15～45cm、深さ15～53cmを測る。主軸方位はＮ88° Ｗである。

ＳＢ－63（第99図）

Ⅱ区の西部やや北側にある、梁行4.60～4.62m、桁行３間6.36～6.52mを測る、西に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径22～41cm、深さ18～40cmを測る。主軸方位はＮ87° Ｗである。

ＳＢ－64（第99図）

Ⅱ区の西壁の中央部やや北寄りにある建物で、現存で梁行２間4.32m、桁行１間2.90mを測る。柱穴の規模は、径26～34cm、深さ13～55cmを測る。主軸方位はＮ89° Ｅである。

ＳＢ－65（第100図）

Ⅱ区の北部中央北壁寄りにある、梁行２間4.32～4.51m、桁行３間6.25～6.32mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～28cm、深さ４～44cmを測る。主軸方位はＮ85° Ｗである。

ＳＢ－66（第100図）

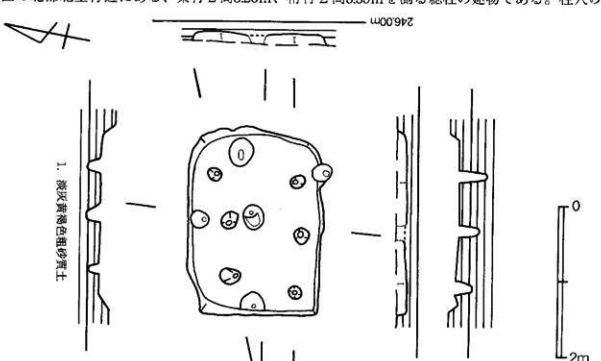
Ⅱ区の北部中央北壁寄りにある、梁行２間3.94～4.00m、桁行３間5.65～5.76mを測る建物である。柱穴の規模は、径19～29cm、深さ17～31cmを測る。主軸方位はＮ85° Ｗである。

ＳＢ－67（第100図）

Ⅱ区の北部中央にある、梁行２間4.40～4.43m、桁行３間7.16m～7.35mを測る建物である。柱穴の規模は、径16～62cm、深さ23～59cmを測る。主軸方位はＮ89° Ｗである。

ＳＢ－68（第100図）

Ⅱ区の北部北壁付近にある、梁行２間3.26m、桁行２間5.35mを測る総柱の建物である。柱穴の



第86図　ＳＡ－32　遺構実測図

規模は、径30～82cm、深さ20～43cmを測る。主軸方位はN85° Wである。

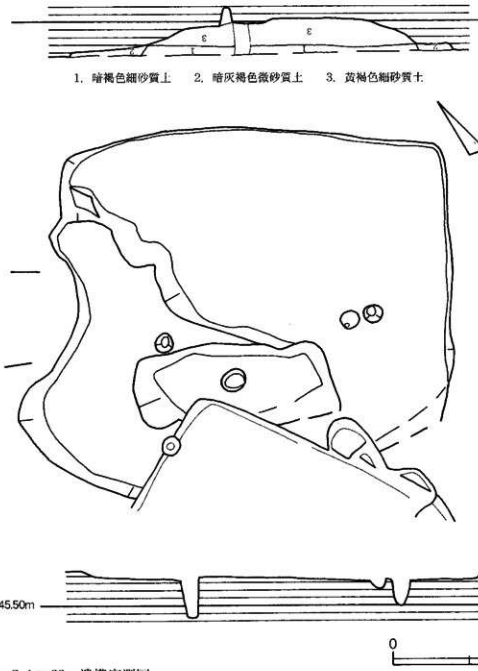
ＳＢ－69（第101図）

Ⅱ区の北部西側にある、梁行２間4.09～4.15m、桁行6.57～6.62mを測る建物である。柱穴の規模は、径34～52cm、深さ35～46cmを測る。主軸方位はN85° Wである。

ＳＢ－70（第102図）

Ⅲ区の西部北側、Ⅱ区との境目にある、梁行２間3.49～3.59m、桁行4.62～4.69mを測る建物である。柱穴の規模は、径29～33cm、深さ35～50cmを測る。主軸方位はN85° Wである。

ＳＢ－71（第102図）



第87図　ＳＡ－33　遺構実測図